

IBM

@server

iSeries

OS/400 コマンド
WRKAUT (権限の処理) ~

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

OS/400 コマンド
WRKAUT (権限の処理) ~

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、305 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、OS/400 (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
Operating System/400 Commands
Starting with WRKAUT (Work with Authority)
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

権限の処理 (WRKAUT)	1
パラメーター	1
オブジェクト (OBJ)	1
WRKAUTの例	2
エラー・メッセージ: WRKAUT	2
権限リスト処理 (WRKAUTL)	5
パラメーター	5
権限リスト (AUTL)	5
WRKAUTLの例	5
エラー・メッセージ: WRKAUTL	6
バインド・ディレクトリーの処理 (WRKBNDDIR)	7
パラメーター	7
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	7
WRKBNDDIRの例	8
エラー・メッセージ: WRKBNDDIR	9
バインド・ディレクトリー項目の処理 (WRKBND DIRE)	11
パラメーター	11
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	11
WRKBND DIREの例	12
エラー・メッセージ: WRKBND DIRE	12
BOOTPテーブルの処理 (WRKBPTBL)	13
パラメーター	13
WRKBPTBLの例	13
エラー・メッセージ	13
構成リスト処理 (WRKCFGL)	15
パラメーター	15
構成リスト (CFGL)	15
WRKCFGLの例	16
エラー・メッセージ: WRKCFGL	16
構成状況処理 (WRKCFGSTS)	17
パラメーター	17
タイプ (CFGTYPE)	17
構成記述 (CFGD)	18
出力 (OUTPUT)	20
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	20
範囲 (RANGE)	21
状況 (STATUS)	21
援助レベル (ASTLVL)	21
WRKCFGSTSの例	22
エラー・メッセージ: WRKCFGSTS	22
図表様式の処理 (WRKCHTFMT)	23

パラメーター	23
図表様式 (CHTFMT)	23
WRKCHTFMTの例	24
エラー・メッセージ: WRKCHTFMT	25
クラスの処理 (WRKCLS)	27
パラメーター	27
クラス (CLS)	27
WRKCLSの例	28
エラー・メッセージ: WRKCLS	29
コマンドの処理 (WRKCMD)	31
パラメーター	31
コマンド (CMD)	31
WRKCMDの例	32
エラー・メッセージ: WRKCMD	33
コミットメント定義の処理 (WRKCMTDFN)	35
パラメーター	35
ジョブ名 (JOB)	36
状況 (STATUS)	36
ASPグループ (ASPグループ)	37
論理的な作業単位ID (LUWID)	37
出力 (OUTPUT)	38
重複ジョブ・オプション (DUJOB OPT)	38
WRKCMTDFNの例	38
エラー・メッセージ: WRKCMTDFN	39
接続リストの処理 (WRKCN NL)	41
パラメーター	41
接続リスト (CN NL)	41
WRKCN NLの例	41
エラー・メッセージ: WRKCN NL	41
接続情報処理 (WRKCNTINF)	43
パラメーター	43
WRKCNTINFの例	43
エラー・メッセージ: WRKCNTINF	43
COS記述処理 (WRK COSD)	45
パラメーター	45
サービス・クラス記述 (COSD)	45
WRK COSDの例	45
エラー・メッセージ: WRK COSD	46
通信サイド情報の処理 (WRKCSI)	47
パラメーター	47
サイド情報 (CSI)	47
WRKCSIの例	48
エラー・メッセージ: WRKCSI	49

制御装置記述の処理 (WRKCTLD)	51
パラメーター	51
制御装置記述 (CTLD)	51
WRKCTLDの例	52
エラー・メッセージ: WRKCTLD	52
IDDUを使用したDBファイル処理 (WRKDBFIDD)	53
パラメーター	53
ライブラリー (LIB)	53
WRKDBFIDDの例	53
エラー・メッセージ: WRKDBFIDD	54
DDMファイル処理 (WRKDDMF)	55
パラメーター	55
ファイル (FILE)	55
出力 (OUTPUT)	57
WRKDDMFの例	57
エラー・メッセージ: WRKDDMF	57
装置記述の処理 (WRKDEVD)	59
パラメーター	59
装置記述 (DEVD)	59
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	60
WRKDEVDの例	61
エラー・メッセージ: WRKDEVD	61
装置テーブル処理 (WRKDEVTBL)	63
パラメーター	63
装置テーブル (DEVTBL)	63
テキスト記述 (TEXT)	64
WRKDEVTBLの例	64
エラー・メッセージ: WRKDEVTBL	64
ディレクトリー項目の処理 (WRKDIRE)	65
パラメーター	65
ユーザー識別コード (USRID)	65
ユーザー・プロファイル (USER)	66
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	66
WRKDIREの例	67
エラー・メッセージ: WRKDIRE	67
ディレクトリー位置の処理 (WRKDIRLOC)	69
パラメーター	69
WRKDIRLOCの例	69
エラー・メッセージ: WRKDIRLOC	69
ディレクトリー・シャドウ・システムの処理 (WRKDIRSHD)	71
パラメーター	71
シャドウ・システムのタイプ (TYPE)	71
WRKDIRSHDの例	71
エラー・メッセージ: WRKDIRSHD	72

文書ライブラリー処理 (WRKDOCLIB)	73
パラメーター	73
WRKDOCLIBの例	73
エラー・メッセージ: WRKDOCLIB	73
DSNX/PC待ち行列の処理 (WRKDPCQ)	75
パラメーター	75
配布待ち行列 (PCNODE)	75
出力 (OUTPUT)	75
WRKDPCQの例	76
エラー・メッセージ: WRKDPCQ	76
ディスク状況の処理 (WRKDSKSTS)	77
パラメーター	77
出力 (OUTPUT)	77
状況統計リセット (RESET)	77
WRKDSKSTSの例	77
エラー・メッセージ: WRKDSKSTS	78
配布リスト処理 (WRKDSTL)	79
パラメーター	79
リスト識別コード (LSTID)	79
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	80
WRKDSTLの例	81
エラー・メッセージ: WRKDSTL	81
配布待ち行列処理 (WRKDSTQ)	83
パラメーター	83
配布 (QUEUE)	83
出力 (OUTPUT)	84
WRKDSTQの例	84
エラー・メッセージ: WRKDSTQ	84
データ域の処理 (WRKDTAARA)	87
パラメーター	87
データ域 (DTAARA)	87
WRKDTAARAの例	88
エラー・メッセージ: WRKDTAARA	89
データ・ディクショナリー処理 (WRKDTADCT)	91
パラメーター	91
WRKDTADCTの例	91
エラー・メッセージ: WRKDTADCT	91
データ定義の処理 (WRKDTADFN)	93
パラメーター	93
データ・ディクショナリー (DTADCT)	93
定義タイプ (DFNTYPE)	93
WRKDTADFNの例	94
エラー・メッセージ: WRKDTADFN	94
データ待ち行列の処理 (WRKDTAQ)	95
パラメーター	95
データ待ち行列名 (DTAQ)	95
WRKDTAQの例	96

エラー・メッセージ： WRKDQAQ	97	フィルター (FILTER).	123
編集記述の処理 (WRKEDTD).	99	WRKFTRSLTEの例	123
パラメーター	99	エラー・メッセージ： WRKFTRSLTE	124
編集記述 (EDTD)	99	図形記号セットの処理 (WRKGSS)	125
WRKEDTDの例	99	パラメーター	125
エラー・メッセージ： WRKEDTD	100	図形記号セット (GSS)	125
環境変数の処理 (WRKENVVAR).	101	WRKGSSの例	126
パラメーター	101	エラー・メッセージ： WRKGSS	127
環境変数のレベル(LEVEL)	101	ハードウェア・プロダクト処理	
WRKENVVARの例	101	(WRKHDWPRD)	129
エラー・メッセージ： WRKENVVAR	102	エラー・メッセージ： WRKHDWPRD	129
ファイル処理 (WRKF)	103	パラメーター	129
パラメーター	103	例	129
ファイル (FILE)	103	エラー・メッセージ： WRKHDWPRD	130
ファイル属性 (FILEATR)	104	ハードウェア資源の処理	
WRKFの例	105	(WRKHDWRSC)	131
エラー・メッセージ： WRKF	106	パラメーター	131
機能使用法の処理 (WRKFCNUSG)	107	タイプ (TYPE)	132
パラメーター	107	回線タイプ (LINETYPE).	132
機能ID (FCNID)	107	WRKHDWRSCの例	132
WRKFCNUSGの例	107	エラー・メッセージ： WRKHDWRSC	132
エラー・メッセージ： WRKFCNUSG	107	保留光ディスク・ファイル処理	
フォント資源の処理 (WRKFNTRSC)	109	(WRKHLDOPTF)	135
パラメーター	109	パラメーター	135
フォント資源 (FNTRSC).	109	ボリューム識別コード (VOL)	135
オブジェクトの属性 (OBJATR)	110	WRKHLDOPTFの例	136
WRKFNTRSCの例	111	エラー・メッセージ： WRKHLDOPTF	136
エラー・メッセージ： WRKFNTRSC	111	イメージ・カタログの処理	
用紙定義の処理 (WRKFORMDF)	113	(WRKIMGCLG)	137
パラメーター	113	パラメーター	137
用紙定義 (FORMDF)	113	イメージ・カタログ (IMGCLG)	137
WRKFORMDFの例	114	WRKIMGCLGの例	138
エラー・メッセージ： WRKFORMDF	115	エラー・メッセージ： WRKIMGCLG	138
フィルターの処理 (WRKFTR)	117	カタログ項目の処理 (WRKIMGCLGE)	139
パラメーター	117	パラメーター	139
フィルター (FILTER).	117	イメージ・カタログ (IMGCLG)	139
WRKFTRの例	118	WRKIMGCLGEの例	140
エラー・メッセージ： WRKFTR	119	エラー・メッセージ： WRKIMGCLGE	140
フィルター処置項目の処理		IPX記述処理 (WRKIPXD)	141
(WRKFTRACNE)	121	パラメーター	141
パラメーター	121	IPX記述 (IPXD)	141
フィルター (FILTER).	121	WRKIPXDの例	141
WRKFTRACNEの例	121	エラー・メッセージ： WRKIPXD	142
エラー・メッセージ： WRKFTRACNE	122	ジョブ処理 (WRKJOB)	143
フィルター選択項目の処理		パラメーター	144
(WRKFTRSLTE)	123	ジョブ名 (JOB).	144
パラメーター	123	出力 (OUTPUT)	145

オプション (OPTION)	145
重複ジョブ・オプション (DUJOB OPT)	146
WRKJOBの例	146
エラー・メッセージ: WRKJOB	147
ジョブ記述処理 (WRKJOB D)	149
パラメーター	149
ジョブ記述 (JOB D)	149
WRKJOB Dの例	150
エラー・メッセージ: WRKJOB D	151
ジョブ待ち行列処理 (WRKJOB Q)	153
パラメーター	153
ジョブ待ち行列 (JOB Q)	153
出力 (OUTPUT)	154
WRKJOB Qの例	154
エラー・メッセージ: WRKJOB Q	154
ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOB SCDE)	157
パラメーター	157
ジョブ名 (JOB)	157
出力 (OUTPUT)	158
印刷形式 (PRT FMT)	158
順序 (SEQ)	158
スケジュール・ユーザー (SCDB Y)	159
投入日 (SBM DATE)	159
ジョブ待ち行列 (JOB Q)	159
WRKJOB SCDEの例	159
エラー・メッセージ: WRKJOB SCDE	160
ジャーナル処理 (WRKJRN)	161
パラメーター	161
WRKJRNの例	161
エラー・メッセージ: WRKJRN	162
ジャーナル属性処理 (WRKJR NA)	163
パラメーター	163
ジャーナル (JRN)	163
出力 (OUTPUT)	164
ジャーナル識別番号 (JRN ID)	164
WRKJR NAの例	165
エラー・メッセージ: WRKJR NA	165
ジャーナル・レシーバーの処理 (WRKJRN RCV)	167
パラメーター	167
ジャーナル・レシーバー (JRN RCV)	167
WRKJRN RCVの例	168
エラー・メッセージ: WRKJRN RCV	169
LANアダプターの処理 (WRKLAN ADPT)	171
パラメーター	171
回線記述 (LINE)	171
出力 (OUTPUT)	171
WRKLAN ADPTの例	172

エラー・メッセージ: WRKLAN ADPT	172
ライブラリー処理 (WRKLIB)	173
パラメーター	173
ライブラリー (LIB)	173
ASP番号 (ASP)	174
ASP装置 (ASP DEV)	175
WRKLIBの例	175
エラー・メッセージ: WRKLIB	175
ライセンス情報の処理 (WRKLIC INF)	177
パラメーター	177
プロダクト識別コード (PRD ID)	177
出力 (OUTPUT)	178
WRKLIC INFの例	178
エラー・メッセージ: WRKLIC INF	178
回線記述の処理 (WRKLIND)	179
パラメーター	179
回線記述 (LIND)	179
WRKLINDの例	180
エラー・メッセージ: WRKLIND	180
オブジェクト・リンクの処理 (WRKLNK)	181
パラメーター	181
オブジェクト (OBJ)	182
オブジェクト・タイプ (OBJ TYPE)	182
詳細 (DETAIL)	182
表示オプション (DSOPT)	183
WRKLNKの例	183
エラー・メッセージ: WRKLNK	183
MLB資源待ち行列の処理 (WRKMLBR SCQ)	185
パラメーター	185
ライブラリー装置 (MLB)	185
WRKMLBR SCQの例	185
エラー・メッセージ: WRKMLBR SCQ	186
媒体ライブラリー処理状況 (WRKMLBSTS)	187
パラメーター	187
ライブラリー (MLB)	187
資源名 (R SRCNAME)	188
WRKMLBSTSの例	188
エラー・メッセージ: WRKMLBSTS	188
メニュー処理 (WRKMNU)	189
パラメーター	189
メニュー (MENU)	189
WRKMNUの例	190
エラー・メッセージ: WRKMNU	191
モジュールの処理 (WRKMOD)	193

NETWAREボリュームの処理	
(WRKNTWVOL)	241
パラメーター	241
サーバー (SERVER)	241
ボリューム (VOL)	241
WRKNTWVOLの例	241
エラー・メッセージ: WRKNTWVOL	242
ネットワーク・インターフェースの処理	
(WRKNWID)	243
パラメーター	243
ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)	243
WRKNWIDの例	243
エラー・メッセージ: WRKNWID	244
ネットワーク・サーバーの処理	
(WRKNWSD)	245
パラメーター	245
ネットワーク・サーバー 記述 (NWSD)	245
WRKNWSDの例	245
エラー・メッセージ: WRKNWSD	246
NWSユーザー登録の処理	
(WRKNWSEN)	247
パラメーター	247
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	248
プロファイル・タイプ (PRFTYPE)	248
サーバー・タイプ (SVRTYPE)	248
NDSツリー (NDSTREE)	249
サーバー (SERVER)	249
ドメイン (DOMAIN)	250
WRKNWSENの例	250
エラー・メッセージ: WRKNWSEN	250
NWS記憶スペースの処理	
(WRKNWSSTG)	251
パラメーター	251
ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)	251
ネットワーク・サーバー 記述 (NWSD)	251
WRKNWSSTGの例	252
エラー・メッセージ: WRKNWSSTG	252
NWS状況の処理 (WRKNWSSTS)	253
パラメーター	253
サーバー (SERVER)	253
サーバー・タイプ (SVRTYPE)	254
WRKNWSSTSの例	254
エラー・メッセージ: WRKNWSSTS	254
オブジェクト処理 (WRKOBJ)	255
パラメーター	255
オブジェクト (OBJ)	256
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	257
WRKOBJの例	257
エラー・メッセージ: WRKOBJ	257

オブジェクト・ロック処理	
(WRKOBJLCK)	259
パラメーター	259
オブジェクト (OBJ)	260
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	260
メンバー (MBR)	260
ASP装置 (ASPDEV)	261
出力 (OUTPUT)	261
WRKOBJLCKの例	262
エラー・メッセージ: WRKOBJLCK	262
所有者によるオブジェクト処理	
(WRKOBJOWN)	265
パラメーター	265
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	265
WRKOBJOWNの例	265
エラー・メッセージ: WRKOBJOWN	266
1次グループ別作業オブジェクト	
(WRKOBJPGP)	267
パラメーター	267
1次グループ (PGP)	267
WRKOBJPGPの例	267
エラー・メッセージ: WRKOBJPGP	268
OPTICONNECT活動の処理	
(WRKOPCACT)	269
パラメーター	269
WRKOPCACTの例	269
エラー・メッセージ	269
光ディスク・ディレクトリー処理	
(WRKOPTDIR)	271
パラメーター	271
光ディスク・ディレクトリー (DIR)	271
ボリューム識別コード (VOL)	272
分類 (SORT)	272
ディレクトリー・レベルの選択 (SLTLVL)	272
開始日付 (STRDATE)	272
WRKOPTDIRの例	273
エラー・メッセージ: WRKOPTDIR	273
光ディスク・ファイル処理 (WRKOPTF)	275
パラメーター	275
ボリューム識別コード (VOL)	276
ディレクトリー (DIR)	276
ファイル (FILE)	276
ファイルの選択 (SLTFILE)	276
日付の選択 (SLTDATE)	277
WRKOPTFの例	278
エラー・メッセージ: WRKOPTF	279
光ディスク・ボリューム処理	
(WRKOPTVOL)	281
パラメーター	281

光ディスク装置 (DEV)	281	パラメーター	293
ボリューム識別コード (VOL)	282	出力待ち行列 (OUTQ)	293
サイド情報 (CSI)	282	出力 (OUTPUT)	294
拡張情報の検索 (RTVEXTINFO)	282	WRKOUTQDの例	294
WRKOPTVOLの例	282	エラー・メッセージ: WRKOUTQD.	294
エラー・メッセージ: WRKOPTVOL	283		
オーダー情報の処理 (WRKORDINF)	285	オーバーレイの処理 (WRKOVL)	297
パラメーター	285	パラメーター	297
WRKORDINFの例	285	オーバーレイ (OVL)	297
エラー・メッセージ: WRKORDINF	285	WRKOVLの例	298
		エラー・メッセージ: WRKOVL.	299
オーダー要求の処理 (WRKORDRQS)	287	ページ定義の処理 (WRKPAGDFN)	301
パラメーター	287	パラメーター	301
WRKORDRQSの例	287	ページ定義 (PAGDFN)	301
エラー・メッセージ: WRKORDRQS	287	WRKPAGDFNの例	302
		エラー・メッセージ: WRKPAGDFN	303
出力待ち行列処理 (WRKOUTQ)	289	付録. 特記事項	305
パラメーター	289	商標	306
出力待ち行列 (OUTQ)	289	資料に関するご使用条件.	307
出力 (OUTPUT)	290	コードに関する特記事項.	308
WRKOUTQの例	290		
エラー・メッセージ: WRKOUTQ	290		
出力待ち行列記述処理 (WRKOUTQD)	293		

権限の処理 (WRKAUT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限処理(WRKAUT)コマンドは、オブジェクトの認可ユーザーとそれに対応する権限のリストを表示します。このリストから、以下を実行するオプションを選択することができます。

- ユーザーの追加
- ユーザー権限の変更
- ユーザーの除去

指定したオブジェクトについて次が表示されます。

- オブジェクトのパス名
- オブジェクトの所有者の名前
- オブジェクトの1次グループの名前
- オブジェクトの使用を認可されたすべてのユーザーのリスト
- オブジェクトに対して各ユーザーがもっている権限

オブジェクトに対応した所有者名がない場合には、そのオブジェクトに対する権限は表示されません。

このコマンドを使用するのに必要な権限については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)の付録Dを参照してください。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1

トップ

オブジェクト (OBJ)

これは必須パラメーターです。

認可されたユーザーとその権限が表示されるオブジェクトのパス名。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

[トップ](#)

WRKAUTの例

```
WRKAUT OBJ('/QSYS.LIB/ARLIB.LIB/PROG1.PGM')
```

このコマンドにより、PROG1という名前のオブジェクトに対する許可ユーザーおよびその権限のリストが表示されることとなります。PROG1はARLIBという名前のライブラリー内にあるプログラムです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKAUT

*ESCAPE メッセージ

CPDA080

ユーザー・プロファイル名が長すぎる。

CPE3101

回復可能でない入出力エラーが起こった。

CPE3408

引き数に使用されたアドレスが正しくない。

CPE3418

考えられるAPAR条件またはハードウェア障害。

CPE3474

不明なシステム状態。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A2

この操作に渡された情報が正しくない。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A4

処理するにはオープンされているファイルが多すぎる。

CPFA0A5

オープンされているファイルが多すぎる。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0C0

バッファ・オーバーフローが起こった。

CPFA0C1

CCSID &1は正しくない。

CPFA08B

パス名を*で始めることはできない。

CPFA08C

パス名ディレクトリーにはパターンを使用できない。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA086

パス名で対応する引用符が見つからなかった。

CPFA087

パス名にヌル文字が入っている。

CPFA088

パス名パターンが正しくない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA09F

オブジェクトに損傷がある。オブジェクトは&1です。

CPFA091

ユーザー名ではパターンは使用できない。

CPFA092

パス名が変換されなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA094

パス名が指定されていない。

CPF1F05

ディレクトリー処理が正しくない。

CPF1F41

パラメーター・リストのアドレス指定中に重大エラーが起こった。

CPF1F4A

ディレクトリー項目の数を示す値が正しくない。

CPF1F53

データ・バッファーの長さを示す値が正しくない。

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF22F0

処理時に予期しないエラーが起こりました。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振れません。

[トップ](#)

権限リスト処理 (WRKAUTL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト処理(WRKAUTL)コマンドによって、権限リストを表示および変更できる権限リストのリストを表示することができます。

制約事項:

- 何らかの権限をもっている権限リストだけが、画面に表示されます。
- 権限リストに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する使用(*USE)権限、およびその操作の実行対象である権限リストに対する適切な権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTL	権限リスト	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 権限リスト	総称名, 名前, *ALL	

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

表示する権限リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 所有権または調査権をもっているすべての権限リストのリストが表示されます。

総称名 表示する権限リストの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべての権限リストが表示されます。

名前 表示する権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKAUTLの例

WRKAUTL AUTL(FR*)

このコマンドによって、表示する権限がある'FR'で始まっている権限リストのすべてを処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKAUTL

なし

[トップ](#)

バインド・ディレクトリーの処理 (WRKBNDDIR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインド・ディレクトリーの処理(WRKBNDDIR)コマンドによって、バインド・ディレクトリーのリストを表示して処理することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- ユーザーが特定の権限をもつバインド・ディレクトリーだけが表示装置に表示されます。
- バインド・ディレクトリーで操作を行なうためには、そのコマンドに対して*USE権限と、操作を行ないたいバインド・ディレクトリーに対して適切な権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

[トップ](#)

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

処理したいバインド・ディレクトリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

***ALL** 指定した1つまたは複数のライブラリーですべてのバインド・ディレクトリーが検索されます。

総称名 バインド・ディレクトリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。総称名が指定された場合には、その総称名で始まる名前のモジュールで、それに対してユーザーが権限をもっているすべてのバインド・ディレクトリーが表示されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 処理するバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** QSYSも含めて、ジョブのライブラリー・リストのシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX QRCLXXXX QUSRIJS QUSRVXRXMX
QGPL QSRVAGT QUSRINFSKR
QGPL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA
QMQMDATA QUSRADSM QUSRPYMSVR
QMQMPROC QUSRBRM QUSRDRARS
QPFRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS
QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKBNDDIRの例

WRKBNDDIR BNDDIR(HOLDER)

このコマンドによって、HOLDERという名前のバインド・ディレクトリーを処理することができます。

エラー・メッセージ： WRKBNDDIR

*ESCAPEメッセージ

CPF5D0B

バインド・ディレクトリー&1が作成されなかった。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

バインド・ディレクトリー項目の処理 (WRKBNDDIRE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインド・ディレクトリー項目の処理(WRKBNDDIRE)によって、バインド・ディレクトリーの項目を処理することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- バインド・ディレクトリーで操作を行なうためには、そのコマンドに対して*USE権限と、操作を行ないたいバインド・ディレクトリーに対して適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	

トップ

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

指定されたバインド・ディレクトリーの項目を処理します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 その項目を表示するバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKBNDDIREの例

WRKBNDDIRE BNDDIR(COINS)

このコマンドによって、COINSという名前のバインド・ディレクトリー内の項目を処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKBNDDIRE

*ESCAPEメッセージ

CPF5D01

ライブラリー&2のバインド・ディレクトリー&1は使用不能である。

CPF980F

ライブラリー&2にバインド・ディレクトリー&1が見つからない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

BOOTPテーブルの処理 (WRKBPTBL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BOOTPテーブル処理(WRKBPTBL)コマンドによって、BOOTPテーブル内の項目を処理することができます。各テーブル項目には、クライアント・ホスト名、MACアドレス、およびインターネット・プロトコル(IP)アドレスが入っています。

このテーブル内の項目を追加、変更、除去、または表示することができます。また、テーブルを印刷することもできます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

WRKBPTBLの例

WRKBPTBL

このコマンドは、「TCP/IP BOOTPテーブルの構成」メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

構成リスト処理 (WRKCFGL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト処理(WRKCFGL)コマンドによって、構成リスト処理画面を通して、構成リスト機能进行处理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGL	構成リスト	総称名, 名前, *ALL , *APPNDIR, *APPNLCL, *APPNRMT, *APPNSSN, *ASYNCADR, *ASYNCLC, *RTLPASTR, *SNAPASTHR	オプション, 位置 1

[トップ](#)

構成リスト (CFGL)

処理する構成リストを指定します。

***ALL** すべての構成リスト进行处理します。

***APPNDIR**

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)ディレクトリー構成リスト进行处理します。

総称構成リスト名

総称構成リスト名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

構成リスト名

特定の構成リストの名前を指定してください。

***APPNLCL**

APPNローカル・ロケーション構成リスト进行处理します。

***APPNRMT**

APPNリモート・ロケーション構成リスト进行处理します。

***APPNSSN**

APPNセッション構成リスト进行处理します。

***ASYNCADR**

非同期PADネットワーク・アドレス構成リスト进行处理します。

***ASYNCLOC**

非同期リモート・ロケーション構成リストを処理します。

***RTLPASTR**

小売業パススルー構成リストを処理します。

***SNAPASTHR**

SNAパススルー構成リストを処理します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

WRKCFGLの例

WRKCFGL CFGL(PEG*)

このコマンドによって、「構成リスト処理」パネルを使用して、名前が'PEG'で始まるすべての構成リストの項目を処理できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKCFGL

なし

[トップ](#)

構成状況処理 (WRKCFGSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成状況処理(WRKCFGSTS)コマンドは、構成状況機能の表示および処理を行なうために使用します。このコマンドを実行すると、構成状況処理画面が表示されます。

ネットワーク・サーバー記述について表示される状況は、オブジェクトの構成状況です。ネットワーク・サーバー機能とクライアントのセッションの状況を表示するために、構成状況処理画面から使用可能なオプションがあります。ネットワーク・サーバーをオフに構成変更する前に活動クライアントを検査するためには、このオプションを使用してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGTYPE	タイプ	*NWS, *NWI, *LIN, *CTL, *DEV	必須, 定位置 1
CFGD	構成記述	総称名, 名前, *ALL , *CMN, *ASYNC, *BSC, *DDI, *ELAN, *FAX, *FR, *IDLC, *NET, *PPP, *SDLC, *TDLC, *TRLAN, *WLS, *X25, *WS, *LWS, *RWS, *VWS, *CRP, *DKT, *MLB, *OPTMLB, *TAPMLB, *OPT, *ASP, *TAP, *DSP, *LCLDSP, *RMTDSP, *VRTDSP, *PRT, *LANPRT, *LCLPRT, *RMTprt, *VRTprt, *LOC, *SNPT, *APPC, *FNC, *HOST, *RTL, *INTRA, *ATM, *ISDN, *T1	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 3
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	総称名, 名前, *NONE	オプション
RANGE	範囲	*NET , *OBJ	オプション
STATUS	状況	*ALL , *ACTIVE, *FAILED, *VARYOFF, *VARYON, *AVAILABLE	オプション
ASTLVL	援助レベル	*PRV , *USRPRF, *BASIC, *INTERMED, *ADVANCED	オプション

トップ

タイプ (CFGTYPE)

状況を表示する記述のタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NWS** ネットワーク・サーバーの状況が表示されます。

***NWI** ネットワーク・インターフェースの状況が表示されます。

- *LIN 回線の状況が表示されます。
- *CTL 制御装置の状況が表示されます。
- *DEV 装置の状況が表示されます。

トップ

構成記述 (CFGD)

構成状況処理画面に表示する記述を指定します。

- *ALL タイププロンプト (CFGTYPEパラメーター) の値にしたがって、すべてのネットワーク・インターフェース、すべての回線、すべての制御装置、またはすべての装置の状況が表示されます。また、接続されている制御装置および装置がある場合には、その状況も表示されます。

総称記述名

総称記述名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前をついたすべてのオブジェクトが選択されます。

- *CMN タイププロンプト (CFGTYPEパラメーター) の値によって、通信制御装置または通信装置の状況が表示されます。

*APPC

拡張プログラム間通信機能(APPC)の制御装置または入出力装置の状況が表示されます。

- *ASP 補助記憶域プール(ASP)装置の状況が表示されます。

*ASYNC

非同期回線、制御装置、または入出力装置の状況が表示されます。

- *ATM 非同期転送モード(ATM)ネットワーク・インターフェースの状況が表示されます。

- *BSC 2進データ同期回線、制御装置、または入出力装置の状況が表示されます。

- *DDI すべての分散データ・インターフェース回線の状況が表示されます。

- *DKT ディスケット装置の状況が表示されます。

- *DSP 表示装置の状況が表示されます。

*ELAN

イーサネット回線の状況が表示されます。

- *FAX すべてのファクシミリ(FAX)回線の状況が表示されます。

- *FNC 金融機関用制御装置または入出力装置の状況が表示されます。

- *FR すべてのフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェースまたは回線の状況が表示されます。

*HOST

すべてのホスト制御装置または入出力装置の状況が表示されます。

- *IDLC IDLC回線の状況が表示されます。

*INTRA

システム内通信装置の状況が表示されます。

- *ISDN 統合サービス・デジタル網(ISDN)ネットワーク・インターフェースの状況が表示されます。

***LANPRT**

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)印刷装置の状況記述が表示されます。

***LCLDSP**

ローカル表示装置の状況が表示されます。

***LCLPRT**

ローカル印刷装置の状況が表示されます。

***LOC** 特定のリモート・ロケーションにある装置の状況が表示されます。*LOCを指定するためには、**タイププロンプト**(CFGTYPEパラメーター)に*DEVを指定しなければなりません。

***LWS** ローカル・ワークステーション制御機構の状況が表示されます。

***MLB** 光ディスクとテープ媒体ライブラリー装置の両方の状況が表示されます。

***NET** ネットワーク回線, 制御装置, または入出力装置の状況が表示されます。

***OPT** 光ディスク装置の状況が表示されます。

***CRP** 暗号装置の状況が表示されます。

***OPTMLB**

光ディスク媒体ライブラリー装置の状況が表示されます。

***PPP** POINT-TO-POINTプロトコル(PPP)回線の状況記述が表示されます。

***PRT** すべての印刷装置の状況が表示されます。

***RMTDSP**

リモート表示装置の状況が表示されます。

***RMPRT**

リモート印刷装置の状況が表示されます。

***RTL** 小売業制御装置または入出力装置の状況が表示されます。

***RWS** リモート・ワークステーション制御機構の状況が表示されます。

***SDLC**

SDLC回線の状況が表示されます。

***SNPT**

SNAパススルー装置の状況記述が表示されます。

***T1** T1ネットワーク・インターフェースの状況が表示されます。

***TAP** **タイププロンプト**(CFGTYPEパラメーター)の値によって, テープ制御装置またはテープ装置の状況が表示されます。

***TAPMLB**

テープ媒体ライブラリー装置の状況が表示されます。

***TDLC**

TDLC回線の状況が表示されます。

***TRLAN**

トークンリング回線の状況が表示されます。

***VRTDSP**

仮想 (パススルー) 表示装置の状況が表示されます。

*VRTPRT

仮想（パススルー）印刷装置の状況が表示されます。

*VWS 仮想（パススルー）ワークステーション制御機構の状況が表示されます。

*WS すべてのワークステーション制御機構の状況が表示されます。

*X25 X.25回線の状況が表示されます。すべての表示装置の状況が表示されます。

記述名 記述名を指定してください。特定の記述および接続機構の状況が表示されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

状況を表示したい装置のリモート・ロケーション名を指定します。指定されたりモート・ロケーション名を持つ装置記述だけが、構成状況処理画面にリストされます。

構成記述プロンプト (CFGDパラメーター) に*LOCが指定されている場合には、このパラメーターの入力は必須です。**構成記述**プロンプト(CFGDパラメーター) に*LOC以外の値が指定されている場合には、このパラメーターは指定できません。

*NONE

リモート・ロケーション名によっては、状況は表示されません。**タイプ**プロンプト (CFGTYPEパラメーター) に*NWL, *LIN,または*CTLを指定する場合には、*NONEを指定してください。**構成記述**プロンプト (CFGDパラメーター) に*LOC以外の値を指定する場合にも、*NONEを指定してください。

リモート・ロケーション名

状況を表示したい装置のリモート・ロケーション名を指定します。

総称リモート・ロケーション名

総称リモート・ロケーション名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前をついたすべてのオブジェクトが選択されます。

[トップ](#)

範囲 (RANGE)

下位構成と上位構成のどちらの接続された構成記述が表示されるかを指定します。

***NET** 構成記述プロンプト(CFGDパラメーター) に単一の記述の名前が指定されている場合には、下位構成と上位構成の両方の記述が表示されます。CFGDパラメーターに特殊値または総称名が指定されている場合には、下位構成記述が表示されます。

***OBJ** タイププロンプト(CFGTYPEパラメーター) によって指定されたタイプのオブジェクトだけが表示されます。

[トップ](#)

状況 (STATUS)

表示される記述のリストのサブセットを作成するために使用される状況の値を指定します。構成記述プロンプト(CFGDパラメーター) に単一の記述の名前が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***ALL** その状況にかかわらず、すべての記述がリストに組み込まれます。

***ACTIVE**

活動状況のすべての記述が表示されます。

***AVAILABLE**

可用性状況であるすべての記述が表示されます。

***FAILED**

障害、回復、損傷、遮断、または不明状況のすべての記述が表示されます。

***VARYOFF**

オフに構成変更またはオフに構成変更の保留状況のすべての記述が表示されます。

***VARYON**

オフに構成変更またはオフに構成変更の保留状況でないすべての記述が表示されます。

[トップ](#)

援助レベル (ASTLVL)

使用するユーザー・インターフェースを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***PRV** 前に使用したユーザー・インターフェースが表示されます。

***USRPRF**

ユーザー・プロファイルの援助レベルプロンプト (ASTLVLパラメーター) で指定されたユーザー・インターフェースが使用されます。

***BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

注: *BASIC値が援助レベルプロンプト (ASTLVLパラメーター) で有効なのは、*DEVがタイププロンプト (CFGTYPEパラメーター) に指定された時だけです。

***INTERMED**

システム・ユーザー・インターフェースが使用されます。

***ADVANCED**

エキスパート・ユーザー・インターフェースが使用されます。

[トップ](#)

WRKCFGSTSの例

例1:すべてのリモート表示装置の表示

```
WRKCFGSTS  CFGTYPE(*DEV)  CFGD(*RMTDSP)
```

このコマンドは、「構成状況処理」画面を使用して、すべてのリモート表示装置の状況を表示します。

例2:すべてのネットワーク・サーバーの状況の表示

```
WRKCFGSTS  CFGTYPE(*NWS)  CFGD(*ALL)
```

このコマンドによって、ユーザーは構成状況処理コマンドを使用して、システム上のすべてのネットワーク・サーバーの状況を表示できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKCFGSTS

***ESCAPEメッセージ**

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF2602

制御装置&1が見つからない。

CPF2702

装置記述&1が見つからない。

CPF2703

制御装置記述&1が見つからない。

CPF2704

回線記述&1が見つからない。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

図表様式の処理 (WRKCHTFMT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

図表様式処理(WRKCHTFMT)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーから図表様式のリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっている図表様式だけが、画面に表示されます。
- 図表様式に対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象である図表様式に対する適切な権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CHTFMT	図表様式	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 図表様式	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

[トップ](#)

図表様式 (CHTFMT)

表示する図表様式を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 図表様式

***ALL** ライブラリー修飾子で識別されるライブラリーのすべての図表様式が表示されます。

総称名 表示する図表様式の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべての図表様式が表示されます。

名前 表示する図表様式の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

WRKCHTFMTの例

```
WRKCHTFMT  CHTFMT(LIB01/ABC*)
```

このコマンドによって、ライブラリーLIB01に保管されている名前が'ABC'で始まっている図表様式のリストのすべてを処理することができます。

エラー・メッセージ： WRKCHTFMT

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

クラスの処理 (WRKCLS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラス処理(WRKCLS)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーから使用可能なクラスのリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているクラスだけが、画面に表示されます。
- クラスに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるクラスに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLS	クラス	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: クラス	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

クラス (CLS)

表示するクラス記述を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: クラス

***ALL** すべてのクラス記述が表示されます。

総称名 表示するクラス記述の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのクラス記述が表示されます。

名前 表示するクラス記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

WRKCLSの例

```
WRKCLS  CLS(LIB01/ABC*)
```

このコマンドによって、ライブラリーLIB01に入っている名前が'ABC'で始まっているクラス・オブジェクトで始まっているクラスのリストを処理することができます。

エラー・メッセージ： WRKCLS

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

コマンドの処理 (WRKCMD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド処理(WRKCMD)コマンドによって、1つ以上のライブラリーからコマンドのリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているコマンドだけが、画面に表示されます。
- コマンドに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるコマンドに対する適切な権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

[トップ](#)

コマンド (CMD)

「コマンドの処理」画面に表示するコマンドを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: コマンド

***ALL** すべてのコマンドが「コマンドの処理」画面に表示されます。

総称名 表示するコマンドの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのコマンドが表示されます。

名前 表示するコマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

WRKCMDの例

WRKCMD CMD(QGPL/DSP*)

このコマンドによって、'DSP'で始まっているQGPLライブラリー内のコマンドのすべてのリストを処理することができます。

エラー・メッセージ： WRKCMD

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

コミットメント定義の処理 (WRKCMTDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コミットメント定義処理(WRKCMDFN)コマンドは、システム上のコミットメント定義を処理するために使用されます。コミットメント定義は、コミットメント制御がコミットメント制御開始(STRCMTCTL)コマンドによって開始された時にコミットメント制御についての情報を記憶するために使用されます。こうしたコミットメント定義は、活動ジョブに関連していることも、関連していないこともあります。活動ジョブに関連していないものは終了していますが、1つまたは複数の作業論理単位はまだ完了していません。

STATUSパラメーターは、コミットメント定義のリストをその状況によってサブセットにするために使用することができます。たとえば、*RESYNCの状況値では、資源の再同期化に関連するすべてのコミットメント定義のリストが表示されます。コミットメント定義は、作業論理単位全体にわたる同期点を再確立するために、有効となっている資源の再同期に含まれることがあります。同期点は、作業論理単位内のすべての資源が一貫した状態になっているような点です。状況値の*UNDECIDEDでは、コミットまたはロールバックの決定の受け取りを待っているコミット操作に含まれているすべてのコミットメント定義のリストが表示されます。*XOPENの状況値では、X/OPENグローバル・トランザクションと関連したすべてのコミットメント定義のリストが表示されます。

ASPグループ・パラメーターは、コミットメント定義が入っている補助記憶域プール(ASP)別にコミットメント定義のリストのサブセットを作成するために使用できます。

作業論理単位識別コード(LUWID)パラメーターは、別のシステムのコミットメント定義を処理しているシステム上のコミットメント定義を検索しようとする時に使用することができます。こうしたコミットメント定義を含んでいるジョブは、APPC会話を使用して通信しています。LUWIDは、1つのシステムのコミットメント定義を表示して、それをWRKCMTDFNコマンドの入力として使用し、対応するコミットメント定義を見つけることによって判別することができます。

重複ジョブ・オプション(DUPJOB OPT)パラメーターは、このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。重複ジョブが見つかった場合には、そのジョブは、ユーザーが選択できるリストに表示されるか、あるいは見つかった各重複ジョブについてメッセージが出されることとなります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: *, *ALL その他の値: 修飾ジョブ名	オプション、位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
STATUS	状況	*ALL, *RESYNC, *UNDECIDED, *XOPEN	オプション、位置 2

キーワード	記述	選択項目	注
ASPGRP	ASPグループ	名前, *ALLAVL , *SYSBAS	オプション
LUWID	論理的な作業単位ID	文字値, *ALL	オプション
OUTPUT	出力	* , *PRINT	オプション
DUPJOBPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT , *MSG	オプション

トップ

ジョブ名 (JOB)

コミットメント定義が表示されるジョブ（ある場合）の名前を指定します。ジョブ名が修飾されていない場合には、その名前のすべてのジョブのコミットメント定義が表示されます。***ALL**を指定しない場合には、ロック有効範囲*TNSSOBJのコミットメント定義が指定されたジョブのスレッドにつながっている場合でも、ロック有効範囲*JOBのコミットメント定義だけが表示されます。ロック有効範囲*TNSSOBJのコミットメント定義を表示するには、***ALL**を指定しなければなりません。

ジョブ識別コードは、最大3つの要素からなる特殊値または修飾名です。たとえば、次の通りです。

*

*ALL

ジョブ名

ユーザー名/ジョブ名

ジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名

* **WRKCMDFN** コマンドを出したジョブと関連したコミットメント定義が表示されます。

***ALL** システム上のすべてのジョブのコミットメント定義が表示されます。

ジョブ名

表示されるコミットメント定義と関連したジョブの名前を指定してください。

ユーザー名

表示されるコミットメント定義と関連したユーザーの名前を指定してください。

ジョブ番号

表示されるコミットメント定義と関連したジョブの番号を指定します。

トップ

状況 (STATUS)

このパラメーターに指定された値と一致する状況を持つコミットメント定義だけがリストされることを指定します。

***ALL** すべての状況のコミットメント定義が表示されます。

***RESYNC**

資源の再同期に含まれるコミットメント定義だけが表示されます。コミットメント定義は、同期点を再確立できるように、資源の再同期に含まれることがあります。同期点は、すべての資源が一貫した状態になっているような点です。

*UNDECIDED

関連の作業論理単位が未決定の状態にあるコミットメント定義だけが表示されます。コミットメント定義は、そのコミットメント定義に対して不明の資源のコミットまたはロールバックを決定する時に未決定の状態にあります。

*XOPEN

X/OPENグローバル・トランザクションと関連したコミットメント定義だけが表示されます。

[トップ](#)

ASPグループ (ASPグループ)

表示されるコミットメント定義の補助記憶域プール(ASP)グループを指定します。

*ALLAVL

オンラインASP中のすべてのコミットメント定義が表示されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP番号1)および基本ASP (ASP番号2-32)のコミットメント定義だけが表示されます。

補助記憶域プール・グループ名

指定されたASPグループ内のコミットメント定義だけが表示されます。

[トップ](#)

論理的な作業単位ID (LUWID)

表示されるコミットメント定義の作業論理単位識別コードを指定します。

作業論理単位識別名は3つの要素からなる文字ストリングです。

- ネットワーク修飾論理装置(LU)名
- 識別情報番号
- 順序番号

ネットワーク修飾LU名は、最大8文字の文字ネットワークIDとピリオド区切り文字に最大8文字のLU名が続いたものからなります。このインスタンス番号は、それぞれが1つの16進数を表す12文字の値として入力されます。値は16進数の形式で入力しなければなりません。たとえばX'123456789012'。順序番号は1-65535の範囲の10進値です。たとえば、次の通りです。

```
APPN.RCHASLGU.X'12578A3BDCFF'.23657
```

***ALL** すべての作業論理単位と関連したコミットメント定義が表示されます。

総称 * 作業論理単位識別名

作業論理単位識別名の総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる作業論理単位識別名を持つすべてのコミットメント定義が表示されます。アスタリスクが総称 (接頭部) 名に含まれていない場合には、システムはそれを完全な作業論理単位識別名であると見なします。

作業論理単位識別名

コミットメント定義と関連した最大39文字の作業論理単位識別コードを指定してください。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元表示装置に表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

トップ

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

*SELECT

対話式セッションで重複ジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。バッチ・ジョブの場合には、メッセージが表示されます。

*MSG 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

トップ

WRKCMDFNの例

例1:ジョブだけに限定

次の例は、指定されたジョブに関連したコミットメント定義のリストを表示します。システム上のすべてのコミットメント定義の中から、指定されたジョブに関連したものがリストされます。

```
WRKCMDFN JOB(012345/WULF/WULFS1)
```

例2:資源の再同期化と関係したコミットメント定義だけに限定

次の例は、その資源の再同期化と関係したシステム上のすべてのコミットメント定義のリストを表示します。

```
WRKCMDFN JOB(*ALL) STATUS(*RESYNC)
```

例3:未決定のコミットメント定義だけに限定

次の例は、未決定の状態にあるシステム上のすべてのコミットメント定義のリストを表示します。作業論理単位の状態が準備か最終エージェント保留中のいずれかである場合には、コミットメント定義は未決定の状態にあります。

```
WRKCMDFN JOB(*ALL) STATUS(*UNDECIDED)
```

例4: X/OPENグローバル・トランザクションに関連したコミットメント定義だけに限定

次の例は、X/OPENグローバル・トランザクションに関連したすべてのコミットメント定義のリストを表示します。

```
WRKCMTDFN JOB(*ALL) STATUS(*XOPEN)
```

例5: LUWIDだけに限定

```
WRKCMTDFN JOB(*ALL) LUWID(APPN.RCHASL7E.X'11223344BDF'..*)
```

このコマンドは、作業論理単位IDが指定された総称値で始まるすべてのコミットメント定義のリストを表示します。システム上のすべてのコミットメント定義の中から、その作業論理単位IDが総称値で始まるものだけがリストされます。

例6: システムASPだけに限定

```
WRKCMTDFN JOB(*ALL) ASPGRP(*SYSBAS)
```

このコマンドは、システム補助記憶域プール(ASP番号1)に入っているすべてのコミットメント定義のリストを表示します。

例7: ASP装置記述名だけに限定

```
WRKCMTDFN JOB(*ALL) ASPGRP(IASP0035)
```

このコマンドは、ASP装置記述IASP0035に関連した独立補助記憶域プール(ASP)に入っているすべてのコミットメント定義のリストを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKCMTDFN

*ESCAPE メッセージ

CPF0941

ジョブ&3/&2/&1はもはやシステムにない。

CPF1069

重複名の終わり。

CPF1070

ジョブ&3/&2/&1が見つからない。

CPF1071

ジョブ&3/&2/&1に対する権限がない。

CPF83E5

ジョブが認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

接続リストの処理 (WRKCNL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

接続リスト処理(WRKCNL)コマンドによって、接続リストを処理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CNNL	接続リスト	総称名, 名前, *ALL	オプション, 位置 1

[トップ](#)

接続リスト (CNNL)

これは必須パラメーターです。

処理する接続リストを指定します。

***ALL** すべての接続リストが処理されます。

総称名 処理する接続リストの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称接続リスト名と同じ接頭部で始まる名前をもつすべての接続リストが表示されます。

名前 特定の接続リスト名を指定してください。

[トップ](#)

WRKCNLの例

WRKCNL CNNL(CHI*)

このコマンドは、'CHI'で始まる名前をもち、ユーザーが権限をもっている接続リストを処理するために「接続リスト処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKCNL

***ESCAPE**メッセージ

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF266C

接続リスト&1が見つからない。

CPF266D

システム・ライブラリーにプログラム名&1が見つからない。

CPF266E

接続リスト&1に損傷がある。

[トップ](#)

接続情報処理 (WRKCNTINF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

エレクトロニック支援処理(WRKCNTINF)コマンドは、各種のサポート・センターに連絡をとる場合、またはそれらから連絡を受ける場合に役立つ情報を処理するために使用します。連絡先情報は、I B M L i n k センターまたは保守サポート・センターから提供されます。このコマンドはサポート機能を選択できるメニューを表示します。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ユーザーがQSRVまたはQSRVBASとしてサインオンするか、あるいは*ALLOBJ権限が必要です。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

WRKCNTINFの例

WRKCNTINF

このコマンドは、「サポート連絡先情報の処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKCNTINF

*ESCAPEメッセージ

CPF8C84

保守サポート連絡先データの処理中にエラーが検出された。

CPF8C96

記述は必須フィールドである。

CPF8C97

記述はすでにシステム・ディレクトリーに存在している。

[トップ](#)

COS記述処理 (WRKCOSD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・クラス記述処理(WRKCOSD)コマンドにより、サービス・クラス記述処理画面を通して、サービス・クラス記述機能への対話式インターフェースが提供されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COSD	サービス・クラス記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプションナル, 位置 1

[トップ](#)

サービス・クラス記述 (COSD)

処理するサービス・クラス記述を指定します。

*ALL すべてのサービス・クラス記述を処理します。

総称COS記述名

総称サービス・クラス記述名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

COS記述名

特定のサービス・クラス記述を指定します。

[トップ](#)

WRKCOSDの例

WRKCOSD COSD(MPLS*)

このコマンドは、名前が'MPLS'で始まるすべてのサービス・クラス記述の項目を示す「サービス・クラス記述処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKCOSD

なし

[トップ](#)

通信サイド情報の処理 (WRKCSI)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信サイド情報の処理(WRKCSI)コマンドにより、指定した1つまたは複数のライブラリー中のサイド情報を処理することができます。表示されたサイド情報オブジェクトのリストから、項目を作成、削除、変更、印刷、または表示することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CSI	サイド情報	修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: サイド情報	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

サイド情報 (CSI)

処理したいサイド情報オブジェクト用のオブジェクト名を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** サイド情報オブジェクトのすべてのリストが表示されます。

サイド情報名

表示したいサイド情報オブジェクトのリストの名前およびライブラリーを指定してください。

総称 * サイド情報名

表示したいサイド情報オブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称サイド情報オブジェクトと同じ接頭部をもつすべてのサイド情報オブジェクトが表示されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

サイド情報オブジェクトを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されません。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前すべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む)が検索されます。

ライブラリー名

サイド情報オブジェクトが入っているライブラリー名を指定してください。このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されます。

[トップ](#)

WRKCSIの例

例1:情報オブジェクトの表示

```
WRKCSI
```

このコマンドは、ライブラリー・リスト中のいずれかのライブラリーに存在するすべてのサイド情報オブジェクトを表示します。「通信サイド情報処理」パネルからは、サイド情報オブジェクトを処理できます。

例2: 'SIDE'で始まるオブジェクトの表示

```
WRKCSI  CSI(QGPL/SIDE*)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLにあり、文字'SIDE'で始まるすべてのサイド情報オブジェクトを表示します。「通信サイド情報処理」パネルからは、サイド情報オブジェクトを処理できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKCSI

なし

[トップ](#)

制御装置記述の処理 (WRKCTLD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御装置記述の処理(WRKCTLD)コマンドによって、制御装置記述の処理画面を通して、制御装置記述機能を処理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *CMN, *WS, *TAP, *LWS, *RWS, *VWS	オプションナル, 位置 1

[トップ](#)

制御装置記述 (CTLD)

制御装置記述の名前を指定します。

***ALL** すべての制御装置記述を処理します。

総称制御装置記述名

総称制御装置記述名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

制御装置記述名

特定の制御装置記述を処理します。

***CMN** 通信制御装置記述を処理します。

***WS** ワークステーション制御機構記述を処理します。

***TAP** テープ制御装置記述を処理します。

***LWS** ローカル・ワークステーション制御機構記述を処理します。

***RWS** リモート・ワークステーション制御機構記述を処理します。

***VWS** 仮想 (パススルー) ワークステーション制御機構記述を処理します。

[トップ](#)

WRKCTLDの例

WRKCTLD CTLD(*LWS)

このコマンドは、権限のあるすべてのローカル・ワークステーション制御装置の項目を処理するために、「制御装置記述処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKCTLD

なし

[トップ](#)

IDDUを使用したDBファイル処理 (WRKDBFIDD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

対話式データ定義ユーティリティ(IDDU)を使用したデータベース・ファイルの処理(WRKDBFIDD)コマンドによって、データベース・ファイルの処理画面が表示されます。この画面から、物理ファイルを作成、またはファイルへのデータを入力できるオプションを選択することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前, *PRV, *CURLIB	オプション

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

***PRV** ファイルは、IDDUで最後に処理したライブラリーに入っています。IDDUの初めての処理の場合には、現行ライブラリーが使用されます。

***CURLIB**

ファイルを位置指定するためにジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

WRKDBFIDDの例

WRKDBFIDD DEPT245

このコマンドは、「データベース・ファイルの処理」パネルを表示して、DEPT245ライブラリーのIDDUデータベース・ファイルを処理します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKDBFIDD

なし

[トップ](#)

DDMファイル処理 (WRKDDMF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

分散データ管理ファイル処理(WRKDDMF)コマンドは、DDMファイルのリストを表示します。このリストから次のことを行なうことができます。

- DDMファイルの変更
- DDMファイルの削除
- DDMファイルの明細の表示
- DDMファイルの作成
- DDMファイルのリストの印刷
- DDMファイルの明細の印刷

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

トップ

ファイル (FILE)

選択するDDMファイルの名前およびライブラリーを指定します。総称DDMファイル名または*ALLを指定することができます。

指定できるファイルの値は次の通りです。

***ALL** 指定したライブラリー（または、ライブラリー修飾子で識別されるライブラリーのうちユーザーにアクセス権のあるすべてのライブラリー）の中のすべてのファイルがリストされます。

ファイル名

選択するDDMファイルの名前を指定してください。ライブラリー名として*LIBL または*USRLIBLを指定した場合には、指定した名前をもったすべてのDDMファイルがリストされます。

総称 * ファイル名

選択するDDMファイルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に

アスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。このパラメーターに総称名を指定した場合には、総称ファイル名と同じ接頭部をもつ名前のすべてのファイルが選択されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSCR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM     QUSRRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

- * 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

WRKDDMFの例

WRKDDMF

このコマンドは、「DDMファイルの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKDDMF

なし

[トップ](#)

装置記述の処理 (WRKDEVD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述処理(WRKDEVD)コマンドは、「装置記述処理」パネルを介して装置記述機能を表示および処理するために使用します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	総称名, 名前, *ALL , *ASP, *CMN, *DKT, *DSP, *LCLDSP, *RMTDSP, *VRTDSP, *LOC, *MLB, *OPTMLB, *TAPMLB, *OPT, *PRT, *LANPRT, *LCLPRT, *RMTPT, *VRTPRT, *CRP, *TAP, *SNPT	オプションナル, 位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	総称名, 名前, *NONE	オプションナル

[トップ](#)

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

- *ALL** すべての装置記述を処理します。
- *ASP** 補助記憶域プール装置を処理します。
- *CMN** 通信装置を処理します。
- *CRP** 暗号装置を処理します。
- *DKT** ディスケット装置駆動機構を処理します。
- *DSP** すべての表示装置を処理します。
- *LCLDSP**
ローカル表示装置を処理します。
- *RMTDSP**
リモート表示装置を処理します。
- *VRTDSP**
仮想 (パススルー) 表示装置を処理します。
- *LOC** 特定のリモート・ロケーションにある装置を処理します。
- *MLB** 光ディスクとテープ媒体ライブラリー装置の両方が表示されます。

***OPTMLB**

光ディスク媒体ライブラリー装置が表示されます。

***TAPMLB**

テープ媒体ライブラリー装置が表示されます。

***OPT** 光ディスク装置が表示されます。

***PRT** すべての印刷装置を処理します。

***LANPRT**

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)に接続された印刷装置が表示されます。

***LCLPRT**

ローカル印刷装置を処理します。

***RMTPRT**

リモート印刷装置を処理します。

***VRTPRT**

仮想 (パススルー) 印刷装置を処理します。

***TAP** テープ装置駆動機構を処理します。

***SNPT**

SNAパススルー装置を処理します。

総称装置記述名

総称装置記述名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前をついたすべてのオブジェクトが選択されます。

装置記述名

特定の装置記述を処理します。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

表示したい装置記述のリモート・ロケーション名を指定します。指定されたロケーション名を持つ装置記述だけが、装置記述の処理画面にリストされます。**装置記述 (DEVD)**パラメーターに*LOCが指定されている場合には、このパラメーターは必須です。DEVDパラメーターに*LOC以外の値が指定されている場合には、有効なパラメーターではありません。

***NONE**

*NONEを指定する場合には、*NONEのリモート・ロケーション名のすべての装置を処理することができます。

注: DEVDパラメーターに*LOC以外の値が指定されている場合には、*NONEを指定する必要があります。

リモート・ロケーション名

処理を行ないたい装置のリモート・ロケーション名を指定します。

総称制御装置記述

総称制御装置記述を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

[トップ](#)

WRKDEVDの例

WRKDEVD DEVD(*LCLPRT)

このコマンドは、権限のあるすべてのローカル印刷装置を示す「装置記述処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKDEVD

なし

[トップ](#)

装置テーブル処理 (WRKDEVTBL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置テーブル処理(WRKDEVTBL)コマンドによって、金融機関用装置テーブルの表示と処理ができ、装置テーブルが作成されてしまうと、これらのテーブルの装置名の追加または削除ができるようになります。複数の金融機関用装置テーブルを定義することができますが、各テーブルは固有の名前をもつ必要があります。

更新済みの金融機関用装置テーブルは、変更をすべて完了した後で投入されたすべての金融機関ジョブによってアクセスすることができます。

制約事項：QFNCユーザー・プロファイルだけがこのコマンドの使用を認可されています。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVTBL	装置テーブル	名前, *SELECT, * <u>ALL</u>	オプション、定位置 1
TEXT	テキスト'記述'	文字値, * <u>BLANK</u>	オプション

トップ

装置テーブル (DEVTBL)

4704または3624装置名の入っている装置テーブルの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 現在定義されているすべての装置テーブルを表示します。

***SELECT**

装置テーブル処理画面が表示されます。この画面で、装置テーブルを作成、変更、削除、または表示することができます。

装置テーブル名

処理したい装置テーブルの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

WRKDEVTBLの例

例1:すべての金融機関装置テーブルの処理

```
WRKDEVTBL DEVTBL(*SELECT)
```

このコマンドにより、金融機関装置テーブルを処理できます。オプションには、新規テーブルの追加、更新用の既存するテーブルの選択、あるいはテーブルの作成、削除、または表示があります。

例2:1つの金融機関装置テーブルの処理

```
WRKDEVTBL DEVTBL(DEVTBL1)
```

このコマンドにより、装置テーブルDEVTBL1を処理できます。オプションには、新規テーブルの作成、あるいはテーブルの変更、表示、または削除があります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKDEVTBL

*ESCAPEメッセージ

CPF8379

&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF8380

&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF8381

&2のファイル&1のクローズ中にエラー。

[トップ](#)

ディレクトリー項目の処理 (WRKDIRE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー項目処理(WRKDIRE)コマンドにより、配布ディレクトリーの項目を表示、追加、変更、および除去するために一組のパネルを処理することができます。WRKDIREコマンドが入力されると、指定されたパラメーターにより、システムはシステム配布ディレクトリー中の項目の1つまたは全部を表示します。指定されたパラメーターが複数のディレクトリー項目に適用された場合には、システムはディレクトリー項目のリストを表示します。パラメーターが特定のディレクトリー・ユーザーを識別する場合には、システムはそのユーザーに認可されている項目のリストを表示します。

制約事項: ディレクトリー中のすべての項目を更新するためには、機密保護管理者権限(*SECADM)更新が必要です。更新できるデータ項目に関する制約事項は、このコマンドが*SECADM権限なしで実行される時に適用されます。ディレクトリーを表示および印刷する一般アクセスは、DSPDIREコマンドによって提供されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
USER	ユーザー・プロファイル	名前, *CURRENT	オプション、位置 2
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL , *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

ユーザー識別コード (USRID)

要求が出されるユーザーのユーザーIDおよびアドレスを指定します。USRIDパラメーターを指定した場合には、USERパラメーターを指定することはできません。

***ALL** システム配布ディレクトリーのすべてのディレクトリー項目が表示されます。項目はユーザーIDおよびアドレスのアルファベット順に表示されます。

指定できるユーザーIDの値は次の通りです。

ユーザーID

ディレクトリー項目が表示されるユーザーのユーザーIDを指定してください。

指定できるユーザー・アドレスの値は次の通りです。

ユーザーID

ディレクトリー項目が表示されるユーザーのユーザー・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

ユーザー・プロフィール (USER)

表示するディレクトリー項目をユーザー・プロフィール別に指定します。ユーザー・プロフィールに関連ディレクトリー項目がない場合には、エラー・メッセージが送られます。USERパラメーターを指定した場合には、USRIDパラメーターを指定することはできません。

***CURRENT**

現行ジョブを実行しているユーザー・プロフィールが使用されます。

ユーザー・プロフィール名

表示されたディレクトリー項目のユーザー・プロフィールを指定してください。これは、システムにサインオンするために使用される10桁のプロフィールです。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

このコマンドでパラメーター値として指定されるデータの文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。この文字識別コード(CHRID)は、コマンドの指定に使用される表示装置と関係しています。CHRID処理の詳細については、APPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715)を参照してください。

***SYSVAL**

システムが、QCHRIDシステム値からのコマンド・パラメーターについて、図形文字セットおよびコード・ページの値を決定します。

***DEV D**

システムが、コマンドが入力される表示装置記述からのコマンド・パラメーターについて、図形文字セットおよびコード・ページの値を決定します。このオプションは、対話式ジョブから指定された時にだけ有効です。この値が対話式CLプログラムまたはバッチ・ジョブで指定されると、エラー・メッセージが送られます。

指定できる文字セットの値は次の通りです。

図形文字セット

コマンド・パラメーターを作成するために使用される図形文字セットの値を指定してください。有効な値の範囲は1-9999です。

指定できるコード・ページの値は次の通りです。

コード・ページ

コード・ページを指定してください。有効な値の範囲は1-9999です。

WRKDIREの例

例1:管理者権限でのWRKDIREの使用

```
WRKDIRE  USRID(HURST NEWYORK)
```

このコマンドを実行中のユーザーには管理者権限があるものとします。ユーザーIDおよびアドレスHURST NEWYORKがディレクトリーに存在しない場合には、HURST NEWYORKの項目のすべてがリストされている「ディレクトリー項目の処理」パネルが表示されます。

例2:機密保護管理者権限でのWRKDIREの使用

```
WRKDIRE  USER(JONES)
```

このコマンドを実行中のユーザーには機密保護管理者権限があるものとします。ユーザー・プロファイルJONESがディレクトリーに存在している場合には、「ディレクトリー項目の処理」パネルにはユーザー・プロファイル名JONESをもつ項目が表示されます。JONESには複数の記述がある場合は、複数の項目が表示されます。

例3:機密保護管理者権限でのWRKDIREの使用

```
WRKDIRE
```

このコマンドを実行中のユーザーには機密保護管理者権限があるものとします。「ディレクトリー項目の処理」パネルには、ディレクトリー内の項目のすべてのリストが表示されます。

例4:機密保護管理者権限でのWRKDIREの使用

```
WRKDIRE
```

このコマンドを実行中のユーザーには機密保護管理者権限がないものとします。このユーザーの「ディレクトリー詳細の変更」パネルが表示されます。このユーザーが許可されているのは自分のディレクトリー項目を変更することだけであることが示されているメッセージが、このパネルのメッセージ行に表示されます。

トップ

エラー・メッセージ： WRKDIRE

*ESCAPEメッセージ

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

トップ

ディレクトリー位置の処理 (WRKDIRLOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー・ロケーション処理(WRKDIRLOC)コマンドは、管理者がロケーションを追加、変更、除去、表示、印刷、および結合することのできる一連の画面を表示します。WRKDIRLOCコマンドが入力されると、すべてのロケーションを定義してディレクトリーのロケーションの処理画面が表示されます。

制約事項: このコマンドのユーザーには、少なくとも機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

WRKDIRLOCの例

WRKDIRLOC

このコマンドは、「ディレクトリー場所の処理」パネルを表示します。このパネルには、現在定義されている場所のすべてがリストされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKDIRLOC

なし

[トップ](#)

ディレクトリー・シャドウ・システムの処理 (WRKDIRSHD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー・シャドウ・システム処理(WRKDIRSHD)コマンドは、管理者がシャドウ・システムの項目を表示、追加、変更、および除去できる一連の画面を表示します。ユーザーは、ローカル・システムに提供し、あるいはローカル・システムから収集するシステムを処理することができます。

制約事項:このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	シャドウ・システムのタイプ	*SUPPLIER, *COLLECTOR	オプション、定位置 1

[トップ](#)

シャドウ・システムのタイプ (TYPE)

ユーザーが処理する必要のあるシャドウ・システムを指定します。

*SUPPLIER

ユーザーは、ローカル・システムにディレクトリー・データを提供するシステムを処理することができます。ディレクトリーのシャドウ提供元の処理画面が表示されます。

*COLLECTOR

ユーザーは、ローカル・システムから収集するシステムを処理することができます。ディレクトリー・シャドウ・コレクターの処理画面が表示されます。

[トップ](#)

WRKDIRSHDの例

WRKDIRSHD TYPE(*SUPPLIER)

このコマンドは、「ディレクトリー・シャドウ提供業者の処理」パネルを表示します。「ディレクトリー・シャドウ提供業者の処理」画面によって、提供業者システムを追加、変更、除去、および表示し、提供業者システムからのシャドウイングを保留し、前に保留されていた提供業者システムからのシャドウイングを再開することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKDIRSHD

*ESCAPEメッセージ

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

文書ライブラリー処理 (WRKDOCLIB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー処理(WRKDOCLIB)コマンドにより、ネットワーク内のリモート・システムで使用可能な文書交換アーキテクチャー(DIA)ライブラリー・サービスを管理することができます。文書ライブラリー・サービス(DLS)待ち行列タイプの各配布待ち行列ごとに、文書ライブラリー名およびサポートされるDIAのレベルを指定することができます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

WRKDOCLIBの例

WRKDOCLIB

このコマンドは、「文書ライブラリーの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKDOCLIB

*ESCAPEメッセージ

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

DSNX/PC待ち行列の処理 (WRKDPCQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DSNX/PC配布待ち行列処理(WRKDPCQ)コマンドによって、DSNX/PC待ち行列から指定のDSNX/PC待ち行列項目を表示および削除することができます。これらの待ち行列は、パーソナル・コンピューター（ローカル的にシステムに接続され、システム・ディレクトリーにDSNX-PCノードとして構成されている）に限定されている分散システム・ノード管理機能 (DSNX)配布が入っている待ち行列です。DSNX-PCを実行中のパーソナル・コンピューターは、待ち行列に入っている配布をその要求元パーソナル・コンピューターに送るDS-SEND機能を開始します。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ユーザーはQPGMRまたはQSYSOPRとしてサインオンするか、あるいは*ALLOBJ権限を持っていないければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PCNODE	配布待ち行列	文字値, *ALL	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	* , *PRINT	オプション

[トップ](#)

配布待ち行列 (PCNODE)

待ち行列項目が表示されるPCノードの名前を指定します。

***ALL** 現在、待ち行列項目のあるすべてのPCノードが表示されます。

PCノード名

表示する項目をもっているPCノードの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***** 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

WRKDPCQの例

WRKDPCQ

このコマンドは、「DSNX/PC配布待ち行列の処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKDPCQ

なし

[トップ](#)

ディスク状況の処理 (WRKDSKSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク状況の処理 (WRKDSKSTS)コマンドによって、システム上のディスク装置についてのパフォーマンスおよび状況情報を表示および処理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	* _, *PRINT	オプション、位置 1
RESET	状況統計リセット	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

状況統計リセット (RESET)

ディスク統計をゼロにリセットするかどうかを指定します。

*NO ディスク統計はリセットされません。前のディスク状況処理コマンドが現行ジョブで開始された場合には、測定時間間隔が延長されます。

*YES ディスク統計はリセットされます。測定時間間隔にはゼロが使用されます。

[トップ](#)

WRKDSKSTSの例

WRKDSKSTS OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、システム上のディスク装置に関するパフォーマンスおよび状況情報の報告書を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKDSKSTS

*ESCAPE メッセージ

CPF1093

ファイル装置タイプの一時的変更が正しくない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時的変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

配布リスト処理 (WRKDSTL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト処理(WRKDSTL)コマンドによって、配布リストを表示、作成、追加、除去、および削除するために使用できる一連の画面が表示されます。配布リストには、ユーザーのグループに対する配布の送信を単純化するために使用されるディレクトリー項目のリストが入っています。

制約事項: 別のユーザーの配布リストを変更、削除、または名前変更するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LSTID	リスト識別コード	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL , *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

リスト識別コード (LSTID)

表示される配布リストを、2つの部分から成るリスト識別コードで指定します。

***ALL** システム配布ディレクトリーの中のすべての配布リストが表示されます。項目はリスト識別コード別にアルファベット順に表示されます。

指定できるリスト識別コードの値は次の通りです。

リストID

配布リストのリスト識別コード(ID)を指定してください。

指定できるリスト修飾子の値は次の通りです。

リストID修飾子

配布リストのリストID修飾子を指定してください。

注: 配布リスト識別コードはIDと修飾子の2つの部分から成り、両者の間は少なくとも1つのスペースで区切られます。小文字を指定した場合には、システムが大文字に変換します。

2部分から成るリストIDの命名規則はユーザーIDおよびアドレスの規則と同じです。規則の完全な説明については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

トップ

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字識別コード (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セット識別コード(GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEVDD

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1-32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1-32767

使用するコード・ページを指定してください。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セット識別コード(GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

WRKDSTLの例

例1:配布リストの表示

```
WRKDSTL LSTID(WILL DISTLIST)
```

このコマンドは、1つの項目DISTLISTが含まれた「配布リストの処理」パネルを表示します。この例ではWILL DISTLISTが存在手しているものとします。

例2:配布リストのすべての表示

```
WRKDSTL
```

このコマンドは、配布ディレクトリー内の配布リストのすべてのリストが含まれた「配布リストの処理」パネルを表示します。

エラー・メッセージ： WRKDSTL

*ESCAPEメッセージ

CPF9A83

共通ニックネーム&1が見つからない。

CPF9A85

ニックネーム&1が見つからない。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9052

リストID &1 &2を見つけることができない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

配布待ち行列処理 (WRKDSTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドは、システム・ネットワーク体系配布サービス(SNADS)の配布待ち行列上の配布要求を表示し制御します。SNADSの詳細は、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)に入っています。

配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- このコマンドを初めて実行する場合には、その前に、このコマンドに使用される内部SNADSオブジェクトを作成するためのQSNADSサブシステムを事前に開始しておかなければなりません。
- 配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、システムの内部変換のために、その配布待ち行列名用に入力されたものと異なる文字で表示または印刷されることがあります。同様に、(ワークステーションに使用される言語によって) 配布待ち行列名の内部値が、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドの場合に表示される文字と異なることがあります。配布待ち行列プロンプト (DSTQパラメーター) に指定された文字ストリング値が内部配布待ち行列値の規則と一致しない場合、あるいは定義されたどの配布待ち行列の内部値とも一致しない (大/小文字の相違を無視して) 場合には、エラーが報告される場合があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QUEUE	配布	要素リスト	オプションル、位置 1
	要素 1: 待ち行列	文字値, *ALL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプションル

トップ

配布 (QUEUE)

表示または印刷する配布待ち行列の名前を指定します。指定する待ち行列は、前に、配布サービス構成 (CFGDSTSRV)コマンドまたは配布待ち行列追加(ADDDSTQ)コマンドを使用して構成されているものでなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** すべてのSNADS配布待ち行列が、待ち行列名別にアルファベット順で表示または印刷されます。

配布待ち行列名

特定のSNADS配布待ち行列を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

WRKDSTQの例

例1: すべての配布待ち行列の処理

WRKDSTQ

このコマンドによって、すべての配布待ち行列の状況および内容を処理することができます。各配布待ち行列の通常および高優先順位部分が表示または印刷されます。

例2: 情報の印刷

WRKDSTQ OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、すべての配布待ち行列に関する情報を印刷します。配布待ち行列の通常および高優先順位部分の状況が印刷され、続いて各配布待ち行列の通常および高優先順位部分の配布要求のリストが印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKDSTQ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8806

システム名またはシステム・グループに値&1が正しくない。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8809

SNADS内部待ち行列でエラーが検出された。

CPF8812

配布待ち行列の処理中にエラーが起こった。

CPF8813

項目が存在していない。

CPF8819

配布待ち行列名の特殊値が許されない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

[トップ](#)

データ域の処理 (WRKDTAARA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ域処理(WRKDTAARA)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーからデータ域のリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているデータ域だけが、画面に表示されます。
- データ域に対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるデータ域に対する適切な権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAARA	データ域	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ域	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

[トップ](#)

データ域 (DTAARA)

表示するデータ域を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データ域

***ALL** すべてのデータ域が表示されます。

総称名 表示するデータ域の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのデータ域が表示されます。

名前 表示するデータ域の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

WRKDTAARAの例

```
WRKDTAARA  DTAARA(LIB01/ABC*)
```

このコマンドによって、ライブラリーLIB01に保管されている文字'ABC'で始まっているデータ域のリストを処理することができます。

エラー・メッセージ： WRKDTAARA

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

データ・ディクショナリー処理 (WRKDTADCT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ・ディクショナリー処理(WRKDTADCT)コマンドにより、データ・ディクショナリーの内容の作成、変更、削除、または印刷を行なうオプションを選択できる画面が表示されます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

WRKDTADCTの例

WRKDTADCT

このコマンドは、「データ・ディクショナリーの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKDTADCT

なし

[トップ](#)

データ定義の処理 (WRKDTADFN)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ定義処理(WRKDTADFN)コマンドによって、データ定義を処理することができます。データ・ディクショナリー内の定義語を作成、変更、コピー、削除、印刷、名前変更、または表示することができます。定義タイプを指定しない場合には、対話式データ定義ユーティリティー(IDDU)の定義タイプ選択画面が表示されます。処理するディクショナリーおよび定義のタイプは、この画面から選択します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTADCT	データ・ディクショナリー	名前, <u>*PRV</u>	オプション, 位置 1
DFNTYPE	定義タイプ	<u>*ALL</u> , *FILE, *RCDFMT, *FLD	オプション

トップ

データ・ディクショナリー (DTADCT)

使用するデータ・ディクショナリーを指定します。

*PRV IDDUで最後に処理したデータ・ディクショナリーが使用されます。

データ・ディクショナリー名

使用するデータ・ディクショナリー名を指定してください。

トップ

定義タイプ (DFNTYPE)

使用するデータ定義のタイプを指定します。

*ALL すべてのデータ・ディクショナリーおよび定義タイプのリストから、定義タイプおよびデータ・ディクショナリーを選択することができます。

*FILE 指定したデータ・ディクショナリーのファイル定義を処理することができます。

*RCDFMT

指定したデータ・ディクショナリーのレコード様式定義を処理することができます。

*FLD 指定したデータ・ディクショナリーのフィールド定義を処理することができます。

トップ

WRKDTADFNの例

WRKDTADFN DFNTYPE(*FILE)

このコマンドにより、最後に処理したデータ・ディクショナリーのファイル定義を処理できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKDTADFN

なし

[トップ](#)

データ待ち行列の処理 (WRKDTAQ)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ待ち行列処理(WRKDTAQ)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーから使用可能なデータ待ち行列のリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているデータ待ち行列だけが、画面に表示されます。
- データ待ち行列に対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるデータ待ち行列に対する適切な権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAQ	データ待ち行列名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ待ち行列名	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

[トップ](#)

データ待ち行列名 (DTAQ)

表示するデータ待ち行列のリストを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データ待ち行列名

***ALL** すべてのデータ待ち行列が表示されます。

総称名 表示するデータ待ち行列の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのデータ待ち行列が表示されます。

名前 表示するデータ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

WRKDTAQの例

```
WRKDTAQ  DTAQ(LIB01/ABC*)
```

このコマンドによって、ライブラリーLIB01に保管されている文字'ABC'で始まっているデータ待ち行列のリストを処理することができます。

エラー・メッセージ： WRKDTAQ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

編集記述の処理 (WRKEDTD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

編集記述処理(WRKEDTD)コマンドによって、編集記述のリストを表示することができます。

制約事項:

- 何らかの権限をもっている編集記述だけが、画面に表示されます。
- 編集記述に対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する使用(*USE)権限、およびその操作の実行対象である編集記述に対する適切な権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EDTD	編集記述	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 編集記述	総称名, 名前, *ALL	

[トップ](#)

編集記述 (EDTD)

表示する編集記述を指定します。

***ALL** すべての編集記述が表示されます。

総称名 表示する編集記述の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべての編集記述が表示されます。

名前 表示する編集記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKEDTDの例

WRKEDTD EDTD(ABC*)

このコマンドによって、文字'ABC'で始まっている編集記述のリストを処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKEDTD

なし

[トップ](#)

環境変数の処理 (WRKENVVAR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

環境変数処理(WRKENVVAR)コマンドを使用して、環境変数のリストを環境変数の処理画面に表示することができます。この画面から、環境変数を追加、変更、除去、詳細の表示、または印刷するためのオプションを選択することができます。

制約事項: このコマンドを使用してシステム・レベルの環境変数を追加、変更、または除去するには、*JOBCTL特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LEVEL	レベル	*JOB、*SYS	オプション

[トップ](#)

環境変数のレベル(LEVEL)

環境変数のレベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***JOB** ジョブ・レベル環境変数の処理。

***SYS** システム・レベル環境変数の処理。

[トップ](#)

WRKENVVARの例

例1:ジョブ・レベル環境変数の処理

WRKENVVAR

このコマンドによって、すべてのジョブ・レベル環境変数を表示し処理することができます。

例2:システム・レベル環境変数の処理

WRKENVVAR LEVEL(*SYS)

このコマンドによって、すべてのシステム・レベル環境変数を表示し処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKENVVAR

なし

[トップ](#)

ファイル処理 (WRKF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル処理(WRKF)コマンドはファイルのリストを表示します。これによって、ユーザーはファイルをコピー、削除、保管、および復元し、ファイル記述を表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているファイルだけが、画面に表示されます。
- ファイルに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限をもち、その操作の実行対象であるファイルに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
FILEATR	ファイル属性	*ALL, BSCF38, CMNF38, DDMF, DFU, DFUEXC, DFUNOTEXC, DKTF, DSPF, DSPF38, ICFE, LF, LF38, MXDF38, PF, PF38, PRTF, PRTF38, SAVF, TAPF	オプション, 定位置 2

トップ

ファイル (FILE)

「ファイルの処理」画面に表示するファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

***ALL** すべてのファイルが表示されます。

総称名 表示するファイルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのファイルが表示されます。

名前 表示するファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX QRCLXXXXX QUSRIJS QUSRVXRXXMX
QGPL QSRVAGT QUSRINFSKR
QGPL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA
QMQRDATA QUSRADSM QUSRPYMSVR
QMQRPROC QUSRBRM QUSRDRARS
QPFRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS
QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ファイル属性 (FILEATR)

属性を表示するファイルのタイプを指定します。

***ALL** すべての属性を持つファイルが表示されます。

BSCF38

システム/38の2進データ同期通信(BSC)通信ファイルのリストが表示されます。

CMNF38

論理装置(LU1)または拡張プログラム間通信機能(APPC)装置からデータを読み取ったり、これらの装置にデータを書き込んだりするために使用されるファイルで、ユーザーはこのファイルを使ってこれらの装置にあるデータの形式を定義することができます。通信(CMNF38)ファイルは、システム/38環境で作成されるか、あるいは通信装置をサポートするためにシステム/38から移行される装置ファイルです。

DDMF 分散データ管理機能(DDM)ファイルのリストが表示されます。

DFU データ・ファイル・ユーティリティー(DFU)ファイルのリストが表示されます。

DFUEXC

システム/38データ・ファイル・ユーティリティー(DFU)を使用して実行することのできるファイルのリストが表示されます。

DFUNOTEXC

システム/38データ・ファイル・ユーティリティー(DFU)を使用して実行できないシステム/38データ・ファイル・ユーティリティー・ファイルのリストが表示されます。

DKTF ディスケット・ファイルのリストが表示されます。

DSPF 表示装置ファイルのリストが表示されます。

DSPF38

システム/38の表示装置ファイルのリストが表示されます。

ICFF 対話式通信機能(ICF)ファイルのリストが表示されます。

LF 論理ファイルのリストが表示されます。

LF38 システム/38の論理ファイルのリストが表示されます。

MXDF38

システム/38の混合装置ファイルのリストが表示されます。

PF 物理ファイルのリストが表示されます。

PF38 システム/38の物理ファイルのリストが表示されます。

PRTF 印刷装置ファイルのリストが表示されます。

PRTF38

システム/38の印刷出力ファイルのリストが表示されます。

SAVF 保管ファイルのリストが表示されます。

TAPF テープ・ファイルのリストが表示されます。

トップ

WRKFの例

WRKF FILE(X/PAY)

このコマンドは、ライブラリーX内にあるPAYという名前のファイルを処理できるようにします。

エラー・メッセージ： WRKF

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

機能使用法の処理 (WRKFCNUSG)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

機能使用処理(WRKFCNUSG)コマンドは、機能識別コードのリストを表示し、指定された機能を変更または表示することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FCNID	機能ID	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション的, 位置 1

[トップ](#)

機能ID (FCNID)

「機能使用の処理」画面にリストされている機能の機能IDを指定します。

***ALL** すべての機能識別コードがリストされます。

総称名 リストする機能識別コードの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後アスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべての機能識別コードがリストされます。

名前 リストする機能IDの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKFCNUSGの例

WRKFCNUSG FCNID(QIBM_SERVICE*)

このコマンドは、名前がQIBM_SERVICEで始まっている機能のすべてがリストされている「機能使用の処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKFCNUSG

***ESCAPE** メッセージ

CPF3CDA

登録機能リポジトリを使用することができない。

[トップ](#)

フォント資源の処理 (WRKFNTRSC)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント資源処理(WRKFNTRSC)コマンドによって、システムまたはユーザー・ライブラリー（あるいはその両方）からのすべてのフォント資源空間オブジェクトを処理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNTRSC	フォント資源	修飾オブジェクト名	オプションナル、位置 1
	修飾子 1: フォント資源	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
OBJATR	オブジェクトの属性	*ALL , CDEFNT, CDEPAG, FNTCHRSET	オプションナル、位置 2

[トップ](#)

フォント資源 (FNTRSC)

処理するフォント資源の名前およびライブラリーを指定します。特定のフォント資源または総称フォント資源を指定することができます。いずれのタイプもライブラリー名によって任意に修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

フォント資源を処理するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXMX
QGGL	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QGGL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMQMATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMQMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む)が検索されます。

ライブラリー名

ライブラリー名を指定してください。フォント資源を処理するために、このパラメーターに指定されたライブラリーだけが検索されます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべてのフォント資源が処理されます。

フォント資源名

処理するフォント資源の名前を指定してください。

総称*フォント資源名

処理するフォント資源の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称フォント資源名と同じ接頭部をもつ名前のすべてのフォント資源が処理されます。

[トップ](#)

オブジェクトの属性 (OBJATR)

表示される属性のフォント資源のタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべての属性のフォント資源が表示されます。

CDEFNT

コード化されたフォントのリストが表示されます。

CDEPAG

コード・ページのリストが表示されます。

FNTCHRSET

フォント文字セットのリストが表示されます。

[トップ](#)

WRKFNTRSCの例

例1:フォント資源の検索

```
WRKFNTRSC  FNRSC(*ALL/GOTHIC*)  FNRSCATR(*ALL)
```

このコマンドは、先頭文字が「GOTHIC」であるフォント資源のすべてのライブラリーを検索します。すべてのフォント資源タイプが表示されます。

例2:フォント資源の検索

```
WRKFNTRSC  FNRSC(MYLIB/GOTHIC*)  FNRSCATR(FNTCHRSET)
```

このコマンドは、文字「GOTHIC」から始まるすべてのフォント資源のライブラリーMYLIBを検索します。属性FNTCHRSETをもつフォント資源だけが表示されます。

例3:フォント資源の検索

```
WRKFNTRSC  FNRSC(MYLIB/CODEPG3)  FNRSCATR(CDEPAG)
```

このコマンドは、名前がCODEPG3で属性がCDEPAGのフォント資源のライブラリーMYLIBを検索します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKFNTRSC

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

用紙定義の処理 (WRKFORMDF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

用紙定義処理(WRKFORMDF)コマンドによって、システムまたはユーザー・ライブラリー（あるいはその両方）からのすべての用紙定義オブジェクトを処理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FORMDF	用紙定義	修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: 用紙定義	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

[トップ](#)

用紙定義 (FORMDF)

処理する用紙定義の名前およびライブラリーを指定します。ユーザーが権限をもつ用紙定義だけが表示されます。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

用紙定義を処理するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB

#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXXM
QGGL	QSRVAGT	QUSRINFSCR	
QGGL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMOMPROC	QUSRBPM	QUSRRDARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

ライブラリー名

ライブラリー名を指定してください。用紙定義を処理するために、このパラメーターに指定されたライブラリーだけが検索されます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべての用紙定義を処理することを指定します。

用紙定義名

処理する用紙定義の名前を指定してください。

総称*用紙定義名

処理する用紙定義の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称用紙定義名と同じ接頭部の名前をもつすべての用紙定義が処理されます。

[トップ](#)

WRKFORMDFの例

WRKFORMDF FORMDF(*CURLIB/FORMDF1)

このコマンドは、書式定義FORMDF1の現行ライブラリーを検索します。FORMDF1が存在しない場合は、WRKFORMDFパネルは指定の名前と一致するオブジェクトが見つからないことを示すメッセージを示します。

エラー・メッセージ： WRKFORMDF

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

フィルターの処理 (WRKFTR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルターの処理(WRKFTTR)コマンドでは、ユーザーはフィルターのリストを処理および印刷し、指定したフィルターを変更および削除し、指定したフィルターに入っている選択項目および処置項目を処理して、新しいフィルターを作成することができます。

制約事項:

- *READ権限のあるライブラリーだけが検索されます。
- ユーザーに権限のあるフィルターだけが表示されます。
- フィルターに演算を実行するためには、その演算で使用されるコマンドの*USE権限と、演算が行なわれるフィルターに対する適切な権限を持っていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

フィルター (FILTER)

表示されるフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけ検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前すべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

***ALL** 指定したライブラリーのすべてのフィルターがリストされます。

フィルター名

表示されるフィルターの名前を指定してください。

総称*フィルター名

フィルターの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。総称名を指定すると、名前がその総称名で始まり、ユーザーに権限のあるすべてのフィルターが表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なフィルター名とみなします。

トップ

WRKFTRの例

```
WRKFTR  FILTER(MYLIB/MY*)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内の名前が'MY'で始まっているフィルターのリストを表示します。表示されたフィルターのどれかまたはすべての項目を変更、削除、または処理することができます。また、新規フィルターを作成することもできます。

エラー・メッセージ： WRKFTR

*ESCAPEメッセージ

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

フィルター処置項目の処理 (WRKFTRACNE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルター処置項目の処理(WRKFTRACNE)コマンドでは、ユーザーはフィルターの処置項目を表示、追加、変更、コピー、印刷、名前変更、または除去することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

フィルター (FILTER)

処置項目が入っているフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

フィルターの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKFTRACNEの例

```
WRKFTRACNE  FILTER(MYLIB/MYFILTER)
```

このコマンドによって、ライブラリーMYLIB内のフィルターMYFILTERの処置項目を処理することができます。

エラー・メッセージ： WRKFTRACNE

*ESCAPEメッセージ

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

フィルター選択項目の処理 (WRKFTRSLTE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルター選択項目の処理(WRKFTSLTE)コマンドでは、ユーザーはフィルターの選択項目を表示、追加、変更、コピー、印刷、除去、または移動することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

フィルター (FILTER)

選択項目が入っているフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

フィルターの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKFTRSLTEの例

```
WRKFTRSLTE  FILTER(MYLIB/MYFILTER)
```

このコマンドによって、ライブラリーMYLIB内のフィルターMYFILTERの選択項目を処理することができます。

エラー・メッセージ： WRKFTRSLTE

*ESCAPEメッセージ

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

図形記号セットの処理 (WRKGSS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グラフィックス・シンボル・セット処理(WRKGSS)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーから使用可能なグラフィックス・シンボル・セットのリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているグラフィックス・シンボル・セットだけが、画面に表示されます。
- グラフィックス・シンボル・セットに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるグラフィックス・シンボル・セットに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GSS	図形記号セット	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 図形記号セット	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

図形記号セット (GSS)

表示するグラフィックス・シンボル・セットを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 図形記号セット

***ALL** すべてのグラフィックス・シンボル・セットが表示されます。

総称名 表示するグラフィックス・シンボル・セットの総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのグラフィックス・シンボル・セットが表示されます。

名前 表示するグラフィックス・シンボル・セットの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX QRCLXXXX QUSRIJS QUSRVXRXXMX
QGPL QSRVAGT QUSRINFSKR
QGPL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA
QMQRDATA QUSRADSM QUSRPYMSVR
QMQRPROC QUSRBRM QUSRDRARS
QPFRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS
QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKGSSの例

WRKGSS GSS(LIB01/ABC*)

このコマンドによって、ライブラリーLIB01に保管されている名前が'ABC'で始まるグラフィックス・シンボル・セットのリストを処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKGSS

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

ハードウェア・プロダクト処理 (WRKHDWPRD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ハードウェア・プロダクト処理(WRKHDWPRD)コマンドは、構成記述ラベル位置を表示または変更することができるメニューを表示します。

このコマンドには、パラメーターはありません。

メニューには次の2つのオプションがあります。

- 記述ラベル位置の表示
- 記述ラベル位置の変更

記述ラベル位置の表示オプションを選択すれば、構成記述ラベル位置に関する情報の現行リストを表示または印刷することができます。

記述ラベル位置の変更オプションを選択すれば、構成記述ラベル位置に関する情報を変更することができます。また、このオプションを使用して、構成記述ラベル変更リスト・ワークシートを印刷することもできます。

エラー・メッセージ: WRKHDWPRD

***ESCAPE** メッセージ

SUU4074

内部オブジェクトが使用できない。

SUU4075

WRKHDWPRDコマンドに内部的な障害が起こった。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKHDWPRD

*ESCAPE メッセージ

SUU4074

内部オブジェクトが使用できない。

SUU4075

WRKHDWPRDコマンドに内部的な障害が起こった。

[トップ](#)

ハードウェア資源の処理 (WRKHDWRSC)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドによって、ユーザーはシステム上のハードウェアを管理することができます。これにより、ユーザーは次を処理することができます。

- 記憶域
- プロセッサー
- 結合アダプター資源情報
- 通信
- 暗号
- ローカル・ワークステーション
- ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)アダプター

記憶域、プロセッサー、通信、暗号、およびローカル・ワークステーションの場合、状況および関連構成記述を検討し、構成可能な資源を判別し、さらにすでに構成記述を作成済みの装置を判別することができます。

LANネットワーク・アダプター（分散データ・インターフェースおよびトークンリング）の場合には、資源項目をシステムに作成するか、あるいは情報を更新することができます。LANアダプター情報は、アダプター名、アダプター・アドレス、アダプター記述、および回線タイプから構成されます。アダプター項目の作成時にアダプター名が指定されていない場合には、システムがDNNNNNNNNNNの形式の名前を割り当てます。ここで、NNNNNNNNNNは、アダプター・アドレスの最後の9桁です。LANアダプター処理(WRKLANADPT)コマンドによって、指定された回線についてのアダプター報告のためにトークンリング・アダプター情報を更新することができます。

制約事項：TYPE(*LAN)を使用してこのコマンドを実行する前に、LANアダプター処理(WRKLANADPT)コマンドを実行しなければなりません。そうでない場合には、表示する情報はありません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*CMN, *CRP, *CSA, *LAN, *LWS, *PRC, *STG	必須, 定位置 1
LINETYPE	回線タイプ	*ALL, *DDI, *TRN	オプション

[トップ](#)

タイプ (TYPE)

処理したいハードウェア資源のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

- ***CMN** 通信資源の処理画面が表示されます。
- ***CRP** 暗号資源の処理画面が表示されます。
- ***CSA** 結合されたアダプター資源の処理画面が表示されます。
- ***LAN** LANアダプター情報の処理画面が表示されます。
- ***LWS** ローカル・ワークステーションの処理画面が表示されます。
- ***STG** 記憶装置資源の処理画面が表示されます。
- ***PRC** プロセッサ資源の処理画面が表示されます。

[トップ](#)

回線タイプ (LINETYPE)

処理するローカル・エリア・ネットワーク(LAN)の名前を指定します。

TYPE(*LAN)が指定された場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

- ***ALL** 分散データ・インターフェースおよびトークンリング・ネットワーク・アダプターの両方の資源情報が表示されます。
- ***DDI** すべての分散データ・インターフェース・アダプター資源情報が表示されます。
- ***TRN** すべてのトークンリング・ネットワーク・アダプター資源情報が表示されます。

[トップ](#)

WRKHDWRSCの例

WRKHDWRSC TYPE(*CMN)

このコマンドは、通信ハードウェア資源と関連した構成オブジェクトを、追加、変更、コピー、除去、または更新します。通信資源の処理画面には、システムに導入済みのすべての通信入出力プロセッサ(IOP),入出力アダプター(IOA),およびポートが表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKHDWRSC

***ESCAPE** メッセージ

CPF0B17

この時点でWRKHDWRSCコマンドを実行することはできない。

[トップ](#)

保留光ディスク・ファイル処理 (WRKHLDOPTF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

保留光ディスク・ファイル処理(WRKHLDOPTF)コマンドは、保留されている光ディスク・ファイルのリストを表示し、保留中の光ディスク・ファイルについての使用状況情報を保管、解放、および表示するためのオプションを提供します。保留中の光ディスク・ファイルの詳細については、AS/400オプティカル・サポート(SC88-5465)を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、保留中の光ディスク・ファイルに対応するボリュームを保護するために権限リストに対する*USE権限が必要です。
2. 保留中のファイルを保管するためには、ファイルが保管されるボリュームの権限リストに対する*CHANGE権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム識別コード	文字値, <u>*ALL</u>	オプション的, 位置 1

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

光ディスク・ファイルが保留されていない場合にそれらが記憶されるボリューム識別コードを指定します。これはファイルがオープンされた時に指定されたボリューム識別コードです。

***ALL** すべての光ディスク・ボリュームについてシステム上のすべての保留中の光ディスク・ファイルがリストされます。

ボリューム識別コード

ファイルがオープンされた時に指定されたボリュームのボリューム識別コードを指定してください。

総称*ボリューム識別コード

リストするボリューム識別コードの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

WRKHLDOPTFの例

WRKHLDOPTF

このコマンドは、すべての光ディスク・ボリュームのすべての保留光ディスク・ファイルのリストを表示し、保留光ディスク・ファイルに関する使用情報を保管、保留解除、および表示するオプションを提供します。

トップ

エラー・メッセージ： WRKHLDOPTF

*ESCAPEメッセージ

OPT1234

保留ファイルを保管できない。

OPT1239

保留光ファイルの保管時にエラー。

OPT1342

無効なボリューム識別コードが指定されました。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

トップ

イメージ・カタログの処理 (WRKIMGCLG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ処理(WRKIMGCLG)コマンドは、システム上に存在するイメージ・カタログを処理するために使用されます。WRKIMGCLGコマンドでは、特定のカタログ名、総称名、または*ALLを指定することができます。WRKIMGCLGコマンドによって、イメージ・カタログに対し以下の機能を実行できます。

選択 このオプションによって、イメージ・カタログ中のイメージ・カタログ項目を処理することができます。

変更 このオプションによって、イメージ・カタログの属性を変更することができます。

削除 このオプションによって、イメージ・カタログを削除することができます。

ロード このオプションによって、イメージ・カタログを仮想光ディスク装置にロードできます。

アンロード

このオプションによって、イメージ・カタログを仮想光ディスク装置からアンロードすることができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプションナル, 位置 1

トップ

イメージ・カタログ (IMGCLG)

表示するイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべてのイメージ・カタログが表示されます。

総称名 表示するイメージ・カタログの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後のアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、その総称名と同じ接頭部の名前を持つすべてのイメージ・カタログが表示されます。

名前 表示するイメージ・カタログの名前を指定してください。

WRKIMGCLGの例

例1:総称名でイメージ・カタログを処理

```
WRKIMGCLG  IMGCLG(UPGRADE*)
```

このコマンドは、名前が**UPGRADE**で始まるすべてのイメージ・カタログを示す「イメージ・カタログ処理」パネルを表示します。

例2:すべてのイメージ・カタログを処理

```
WRKIMGCLG  IMGCLG(*ALL)
```

このコマンドは、存在するすべてのイメージ・カタログを示す「イメージ・カタログ処理」パネルを表示します。

エラー・メッセージ： WRKIMGCLG

*ESCAPE メッセージ

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

カタログ項目の処理 (WRKIMGCLGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ項目処理(WRKIMGCLGE)コマンドは、指定されたイメージ・カタログのイメージを処理するために使用します。このWRKIMGCLGEコマンドによって、イメージ・カタログのイメージで次の機能を実行することができます。

追加 このオプションによって、イメージ・カタログに光ディスク・イメージを追加することができます。

変更 このオプションによって、イメージ・カタログのイメージの索引番号またはテキストを変更することができます。

除去 このオプションによって、イメージ・カタログから光ディスク・イメージを除去することができます。

ロード このオプションによって、ユーザーは、光ディスク・イメージを仮想光ディスク装置にロードできるようになります。ロードできるのは、アンロード済みの状況のイメージだけです。

アンロード

このオプションによって、光ディスク・イメージを仮想光ディスク装置からアンロードすることができます。アンロードできるのは、ロード済みの状況のイメージだけです。

マウント

このオプションによって、光ディスク・イメージを仮想光ディスク装置にマウントして、それを活性化することができます。マウントできるのは、ロード済みの状況のイメージだけです。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

イメージ・カタログ (IMGCLG)

処理するイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

[トップ](#)

WRKIMGCLGEの例

例1: MYCLGのイメージ・カタログ項目を処理

WRKIMGCLGE IMGCLG(MYCLG)

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**中のイメージを示す「カタログ項目処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKIMGCLGE

***ESCAPE** メッセージ

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

[トップ](#)

IPX記述処理 (WRKIPXD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IPX記述処理(WRKIPXD)コマンドは、IPX記述機能への対話式インターフェースを提供するIPX記述処理画面を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IPXD	IPX記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプションル, 位置 1

[トップ](#)

IPX記述 (IPXD)

処理したいIPX記述を指定します。

***ALL** すべてのIPX記述がリストされます。

IPX記述名

処理したいIPX記述の名前を指定してください。

総称 *IPX記述名

IPX記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

[トップ](#)

WRKIPXDの例

WRKIPXD IPXD(IPXDESC)

このコマンドは、IPX記述IPXDESCの項目がある「IPX記述処理」画面を表示します。IPXDESCが存在しない場合には、項目は何も表示されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKIPXD

なし

[トップ](#)

ジョブ処理 (WRKJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ処理 (WRKJOB)コマンドによって、ユーザー・ジョブに関する次の情報を処理または変更することができます。

- ジョブ状況属性
- ジョブ定義属性
- ジョブ実行属性
- スプール・ファイル情報
- ジョブ・ログ情報
- 呼び出しスタック情報
- ジョブ・ロック情報
- ライブラリー・リスト情報
- オープン・ファイル情報
- ファイル一時変更情報
- コミットメント制御状況
- 通信状況
- 活動化グループ情報
- 相互除外情報
- スレッド情報
- 媒体ライブラリー属性情報

ジョブが活動状態の時だけ、次のオプションの情報を表示することができます。ジョブ実行属性、呼び出しスタック情報、ジョブ・ロック情報、ライブラリー・リスト情報、ジョブ・ログ情報、オープンされたファイルの情報、ファイル一時変更情報、コミットメント制御状況、通信状況、活動化グループ、相互除外情報、およびスレッド情報。

ユーザーのジョブがジョブ待ち行列上にあるか、出力待ち行列にあるか、あるいはシステムで活動状態であるかに関係なく、ジョブ状況属性、ジョブ定義属性、およびスプール・ファイル情報というオプションを見ることができます。しかし、ジョブは、すべての入力完全に読み込まれるまで、システムにあるとは見なされないことに注意してください。すべての入力読み込まれて、はじめて項目がジョブ待ち行列に置かれます。

制約事項:

1. コマンド発行側は、処理されるジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルのもとで実行しなければなりません。あるいは、コマンド発行側は、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限を持つユーザー・プロファイルのもとで実行しなければなりません。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。ジョブ・ユーザー識別の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「実行管理機能」情報にあります。

- このコマンドの実行時にジョブが保留中である場合には、ジョブに関する活動化グループ情報を表示できません。
- OPTION(*FILOVR)またはOPTION(*ALL)が指定されている場合には、このコマンドは複数のスレッドを使用できるジョブでは失敗します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプションナル, 位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプションナル, 位置 2
OPTION	オプション	*SELECT , *STSA, *DFNA, *RUNA, *SPLF, *JOBLOG, *PGMSTK, *JOBLOCK, *LIBL, *OPNF, *FILOVR, *CMTCTL, *CMNSTS, *ACTGRP, *MUTEX, *THREAD, *MLBA, *ALL	オプションナル
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT , *MSG	オプションナル

トップ

ジョブ名 (JOB)

情報が処理されるユーザー・ジョブの名前を指定します。

単一値

* 情報が表示されるジョブは、この表示コマンドが実行されたジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 表示されるジョブの名前を指定してください。ジョブ修飾子を指定しない場合には、現在システムにあるすべてのジョブから単純ジョブ名が検索されます。指定された名前と重複するものが見つかった場合には、すべての重複を示す修飾ジョブ名の入ったメッセージのリストが表示されます。

修飾子2: ユーザー

名前 ジョブの実行に使用されるユーザー・プロファイルを識別する名前を指定してください。

修飾子3: 番号

000000-999999

システムによって割り当てられたジョブ番号を指定してください。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

トップ

オプション (OPTION)

処理される情報を指定します。

*SELECT

メニューが表示され、すべてのオプションおよび機能キーを使用することができます。

*STSA

ジョブの識別特性および状況が表示されます。

*DFNA

ジョブに関連するジョブ記述中の定義属性が表示されます。

*RUNA

ジョブの実行属性が表示されます。

*SPLF ジョブによって所有されるプール・ファイルが表示されます。このコマンドを出したスレッドのライブラリー名スペースの出力待ち行列上にあるプール出力ファイルのみが表示されます。

*JOBLOG

ジョブによって処理されたコマンドおよびそのコマンドの実行から戻されたメッセージが表示されます。

*PGMSTK

呼び出しスタック中のすべてのプログラムのすべての情報が表示されます。

*JOBLOCK

保留ロックおよび待機中のロックを含め、ジョブによって保留されたすべての外部オブジェクト・ロックが表示されます。

*LIBL ジョブ名 (JOB)パラメーターに指定されたジョブが、コマンドの実行されたジョブである場合には、スレッドのライブラリー・リストが表示されます。その他のジョブの場合には、初期スレッドのライブラリー・リストが表示されます。

*OPNF

ジョブでオープン状態のファイル、およびシステム・ファイルとユーザー・ファイルの状況が表示されます。

*FILOVR

ジョブの活動中の呼び出しレベルにおけるファイル一時変更が表示されます。

***CMTCTL**

ジョブのコミットメント制御状況が表示されます。

***CMNSTS**

ジョブの通信状況が表示されます。

***ACTGRP**

ジョブと対応する活動化グループが表示されます。

***MUTEX**

ジョブの初期スレッドと関連した相互除外情報が表示されます。

***THREAD**

ジョブのスレッドについての情報が表示されます。

***MLBA**

ジョブの媒体ライブラリー属性に関する情報が表示されます。

***ALL** すべてのオプションが表示されます。

トップ

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

トップ

WRKJOBの例

例1:ジョブの情報の印刷

```
WRKJOB JOB(SMITH/PAYROLL) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、SMITHという名前のユーザーによってジョブの出力スプーリング待ち行列に投入されたPAYROLLという名前のジョブに関する情報を印刷します。

例2:現行ジョブのスプール出力の処理

```
WRKJOB OPTION(*SPLF)
```

このコマンドによって、現行ジョブのスプール出力を処理することができます。

例3:すべての現行ジョブの情報の処理

```
WRKJOB OPTION(*ALL)
```

このコマンドによって、現行ジョブのすべての情報を処理することができます。

トップ

エラー・メッセージ： WRKJOB

*ESCAPE メッセージ

CPF0941

ジョブ&3/&2/&1はもはやシステムにない。

CPF1069

重複名の終わり。

CPF1070

ジョブ&3/&2/&1が見つからない。

CPF1071

ジョブ&3/&2/&1に対する権限がない。

CPF2443

ジョブが終了したため、ジョブ・ログは表示またはリストされなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3336

ジョブ&5/&4/&3はすでにシステムにはない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

トップ

ジョブ記述処理 (WRKJOB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ記述の処理(WRKJOB)コマンドは、ジョブ記述のリストを表示し、これによって指定されたジョブ記述を変更、コピー、削除、および表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているジョブ記述だけが、画面に表示されます。
- ジョブ記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)権限、およびそのジョブ記述があるライブラリーに対する*USE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ記述	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

ジョブ記述 (JOB)

「ジョブ記述の処理」画面に表示するジョブ記述を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ記述

***ALL** すべてのジョブ記述が表示されます。

総称名 表示するジョブ記述の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのジョブ記述が表示されます。

名前 表示するジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

WRKJOBDBの例

```
WRKJOBDB  JOBDB(MYLIB/SPEC*)
```

このコマンドは、名前が'SPEC'で始まっていて、ライブラリーMYLIBに保管されているジョブ記述のすべてのリストを表示します。このパネルから、リストされているジョブ記述を処理するオプションを選択することができます。

エラー・メッセージ： WRKJOB

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

ジョブ待ち行列処理 (WRKJOBQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列処理(WRKJOBQ)コマンドは、すべてのジョブ待ち行列の全般的な状況または特定のジョブ待ち行列の詳細な状況を示します。また、このコマンドによって、指定された修飾済みの総称名と一致するすべてのジョブ待ち行列の全般的な状況进行处理することもできます。待ち行列の状況は、このコマンドの実行中に変更することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *ALL その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB, *ALL	
OUTPUT	出力	* , *PRINT	オプション、位置 2

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

すべてのジョブ待ち行列が表示されることを指定するか、あるいはその状況を表示するジョブ待ち行列の名前を指定します。

注: 総称ジョブ待ち行列名が指定されていてライブラリー名によって修飾されている場合には、総称名と一致するジョブ待ち行列が1つしかない場合であっても、総称名と一致するすべてのジョブ待ち行列の全般的な状況が表示されます。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** すべてのジョブ待ち行列の状況が、各ジョブ待ち行列についての情報と一緒に表示されます。
*ALLを指定した場合には、*ALLはシステム上のすべてのライブラリー中のすべてのジョブ待ち行列のリストを提供するので、ライブラリー名に値を指定することはできません。

ジョブ待ち行列名

詳細な状況情報を表示するジョブ待ち行列の名前を指定してください。そのジョブ待ち行列上のすべてのジョブのリストが、それぞれに関する情報とともに表示されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***ALL** QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

注: ライブラリーに*ALLが指定されている場合には、ジョブ待ち行列が1つしか見つからない場合であっても、ジョブ待ち行列の全般的な状況が表示されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

* 要求がワークステーション・ユーザーによって出された場合には、出力は表示されます。要求がバッチ・ジョブから出された場合には、出力は印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

WRKJOBQの例

例1:特定のジョブ待ち行列の状況情報の表示

```
WRKJOBQ JOBQ(QGPL/QBATC)
```

このコマンドは、QGPLライブラリー中のQBATCHという名前のジョブ待ち行列に関する詳細な状況情報を表示します。QBATCHジョブ待ち行列上の各ジョブは、ジョブ名、ユーザー名、およびジョブ番号によって識別されます。ジョブの優先順位および状況も表示されます。

例2:総称名を使用したジョブ待ち行列の検索

```
WRKJOBQ JOBQ(QGPL/QBAT*)
```

このコマンドによって、その名前が「QBAT」で始まり、QGPLライブラリー中に存在するジョブ待ち行列全体の状況情報を表示して、処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKJOBQ

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3302

ファイル&2への印刷ファイル&1の一時変更は正しくない。

CPF3307

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE)コマンドによって、ジョブ・スケジュール内の項目、複数の項目、または総称項目を処理することができます。各ジョブ・スケジュール項目には、バッチ・ジョブを一度、または定期的なスケジュール間隔で自動的に投入するために必要な情報が入っています。

このコマンドは、ジョブ・スケジュール項目の処理画面を表示します。この画面から、項目を追加、変更、除去、保留、または解放するためのオプションを選択することができます。項目の詳細を表示するか、あるいは項目に最後に投入されたジョブを処理することができます。また、ジョブ・スケジュール項目に入っている情報を使用して、ジョブを即時に投入するためのオプションを選択することもできます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ライブラリーQUSRSYS中のオブジェクトQDFTJOBSCD,タイプ*JOBSCDに対する使用(*USE)権限、およびライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	総称名, 名前, *ALL	オプションル、定位置 1
OUTPUT	出力	* , *PRINT	オプションル
PRTFMT	印刷形式	*BASIC , *FULL	オプションル
SEQ	順序	*JOB , *DATETIME, *JOBQ	オプションル
SCDBY	スケジュール・ユーザー	名前, *ALL	オプションル
SBMDATE	投入日	日付, *ALL , *CURRENT	オプションル
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *ALL その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

トップ

ジョブ名 (JOB)

処理したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値と一致するすべてのジョブ・スケジュール項目が画面に表示されます。

総称名 ジョブ・スケジュール項目の総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング（たとえば、ABC*）です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるジョブ名のすべての項目（ユーザーに権限がある場合）が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なジョブ名と見なします。

名前 表示したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

印刷形式 (PRTFMT)

印刷出力に使用される形式を指定します。

*BASIC

項目は簡略リスト形式で印刷されます。

*FULL 各項目の明細が拡張形式で印刷されます。

[トップ](#)

順序 (SEQ)

選択した項目を表示する順序を指定します。

*JOB 項目はジョブ名によってアルファベット順に表示されます。ジョブ名の中では、項目は項目番号の低い方からの高い方の順序となります。

*DATETIME

項目は、そのジョブの投入がスケジュールされた日付および時刻によって、早い方の項目が先に示されます。投入がスケジュールされていないジョブの項目は最後に表示されます。

*JOBQ

項目は、そのジョブが投入されるジョブ待ち行列の名前によってグループ化されます。ジョブ待ち行列はアルファベット順に表示されます。ジョブ待ち行列内では、項目はアルファベット順に表示されます。

[トップ](#)

スケジュール・ユーザー (SCDBY)

表示された項目を追加したユーザーの名前を指定します。

***ALL** すべてのユーザーによって追加された項目が表示されます。

名前 表示された項目を追加したユーザーの名前を指定します。

[トップ](#)

投入日 (SBMDATE)

表示された項目が実行するジョブを投入する日付を指定します。

***ALL** 項目が実行するジョブを投入する日付にかかわらず、すべてのジョブ・スケジュール項目が表示されます。

***CURRENT**

現行日付でジョブの投入がスケジュールされた項目を表示します。

日付 更新された項目の投入日付を指定します。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

ジョブを投入するジョブ待ち行列の名前を指定します。このパラメーターは、指定されたジョブ待ち行列にジョブを投入するすべての項目を表示するために使用されます。

単一値

***ALL** ジョブ待ち行列にかかわらず、すべての項目が表示されます。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 ジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

WRKJOBSCDEの例

WRKJOBSCDE JOBQ(QGPL/QBATCH)

このコマンドは、ジョブをライブラリーQGPLのジョブ待ち行列QBATCHに投入するすべてのジョブ・スケジュール項目を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKJOBSCDE

*ESCAPE メッセージ

CPF1628

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4が見つからなかった。

CPF1629

ジョブ・スケジュール&1に対して認可されていない。

CPF1630

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に対して認可されていない。

CPF1632

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に損傷がある。

CPF1637

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は使用中。

CPF1638

ジョブ・スケジュール項目&3番号&4は使用中。

CPF1640

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は存在していません。

CPF1641

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1に損傷がある。

[トップ](#)

ジャーナル処理 (WRKJRN)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル処理(WRKJRN)コマンドは、ジャーナル操作に関するオプションを選択できるメニューを表示します。この1次メニューから、オプションを選択することができます。

- ジャーナルの状況を表示する
- 正方向およびバックアウトのファイル回復を実行する
- 損傷したジャーナルおよびジャーナル・レシーバーを回復する
- ジャーナル・レシーバーをジャーナルと関連付ける

これらのオプションのすべてはローカル・ジャーナルの場合にサポートされます。リモート・ジャーナルの場合には、関連しているジャーナル・レシーバー・オプションしかサポートされません。

特定のオプションの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

制約事項:

- ファイルは、別のジャーナルに変更をジャーナル処理中であってはなりません。
- 一時変更はFILEパラメーターに指定されたファイルに適用されません。
- 1つのジャーナルに関連付けできるオブジェクトの最大数は250,000です。この最大数には、その変更が現在ジャーナル処理されているすべてのオブジェクト（データベース・ファイル、データベース・ファイル・メンバー、データ待ち行列、データ域、および統合ファイル・システム・オブジェクト）と、ジャーナルと関連したジャーナル・レシーバーが含まれます。オブジェクトの数がこの最大数より大きい場合には、ジャーナル処理は開始されません。
- リモート・ジャーナルでは、あるいはリモート・ジャーナルに関してはこのコマンドは使用することができません。

このコマンドには、パラメーターはありません。

トップ

パラメーター

なし

トップ

WRKJRNの例

WRKJRN

このコマンドは、「ジャーナル名の選択」パネルを表示します。ジャーナル名およびライブラリーが選択されると、「ジャーナルの処理」パネルが表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKJRN

*ESCAPEメッセージ

CPF705D

リモート・ジャーナルのオプションが正しくない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ジャーナル属性処理 (WRKJRNA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル属性処理(WRKJRNA)コマンドは、現在ジャーナルに接続されているジャーナル・レシーバーの名前を含むジャーナルの作成属性および操作属性を表示します。基本画面からオプションまたは機能を選択して、ジャーナルに対して現在ジャーナル処理しているすべてのオブジェクト名、現在アクセス・パスをジャーナル処理しているすべてのデータベース・ファイル名、現在このジャーナルと関連付けられているすべてのリモート・ジャーナル名とリモート・ジャーナルに関する明細情報、レシーバー・ディレクトリー、またはジャーナル・レシーバーに関する詳細を表示、あるいはレシーバーをレシーバー・ディレクトリーから削除できます。

出力がジョブのスプール印刷装置出力を用いて印刷される場合には、任意選択で表示される次を除いた情報のすべてが印刷されます。

- ジャーナル・レシーバーに関する明細情報。その情報の場合には、ジャーナル・レシーバー属性表示 (DSPJRNRCVA)コマンドを使用してください。
- 任意のリモート・ジャーナルと対応しているリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目に関する明細情報。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRN	ジャーナル	単一値: *INTSYSJRN その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2
JRNID	ジャーナル識別番号	文字値	オプション

[トップ](#)

ジャーナル (JRN)

属性が表示されるジャーナル名およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: ジャーナル

*INTSYSJRN

JRNIDパラメーターで指定したジャーナルに関連したシステムの内部ジャーナルが使用されます。システムの内部ジャーナルはライブラリーには保管されません。

注: JRN(*INTSYSJRN)を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

注: *INTSYSJRN値を指定した場合には、JRNIDパラメーターを指定しなければなりません。

ジャーナル名

ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示される(対話式ジョブによって要求された場合)か、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます(バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

ファイルQPDSPJNAが印刷出力に使用されます。

[トップ](#)

ジャーナル識別番号 (JRNID)

表示される内部システム・ジャーナル(*INTSYSJRN)の5桁のジャーナル識別コード(ID)を指定します。ジャーナルIDはシステムによって割り当てられます。最初の2桁はジャーナルのタイプを表し、最後の3桁は補助記憶域プール(ASP)識別コードです。

注: JRNIDパラメーターを指定できるのは、JRN(*INTSYSJRN)を指定した場合だけです。

以下はジャーナル・タイプのリストです。

ジャーナル・タイプ

10 システム管理のアクセス・パス保護(SMAPP)

20 ディレクトリー

30 スパール

164 iSeries: OS/400 コマンド WRKAUT (権限の処理) ~

WRKJRNAの例

WRKJRNA JRN(MYLIB/JRNLA)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのJRNLAの現行ジャーナル属性を処理できるようにします。

トップ

エラー・メッセージ： WRKJRNA

*ESCAPEメッセージ

CPF70FF

内部システム・ジャーナル機能が正常に実行されなかった。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF702C

接続されたレシーバーが前に壊されている。

CPF706B

JRN(*INTSYSJRN)の指定は認可されていない。

CPF706C

JRNIDパラメーターの値&1が正しくない。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

トップ

ジャーナル・レシーバーの処理 (WRKJRNRCV)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル・レシーバー処理(WRKJRNRCV)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーからジャーナル・レシーバーのリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているジャーナル・レシーバーだけが、画面に表示されます。
- ジャーナル・レシーバーに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する *USE権限、およびその操作の実行対象であるジャーナル・レシーバーに対する適切な権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRNRCV	ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル・レシーバー	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

[トップ](#)

ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)

表示するジャーナル・レシーバーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: ジャーナル・レシーバー

***ALL** すべてのジャーナル・レシーバーが表示されます。

総称名 表示するジャーナル・レシーバーの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのジャーナル・レシーバーが表示されます。

名前 表示するジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX QRCLXXXXX QUSRIJS QUSRVXRXXMX
QGPL QSRVAGT QUSRINFSKR
QGPL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA
QMQRDATA QUSRADSM QUSRPYMSVR
QMQRPROC QUSRBRM QUSRDRARS
QPFRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS
QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKJRNRCVの例

WRKJRNRCV JRNRCV(LIB01/ABC*)

このコマンドによって、名前が文字'ABC'で始まっていて、ライブラリーLIB01に保管されているジャーナル・レシーバーのリストを処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKJRNRCV

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

LANアダプターの処理 (WRKLANADPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・エリア・ネットワーク・アダプター処理(WRKLANADPT)コマンドは、活動状態にあるローカル・エリア・ネットワーク(LAN)アダプターのリストを表示します。

注:

- ネットワーク・アダプターが活動状態にあるか非活動状態にあるかを調べるために、LAN管理機能はネットワーク・アダプター・ファイルに登録されているすべてのアダプターについて照会します。照会に応答したアダプターはネットワーク上で活動状態にあると識別され、応答しなかったものはネットワーク上で非活動状態にあると識別されます。
- ネットワーク・アダプター・ファイルに現在登録されていないアダプターは自動的に追加され、省略時のアダプター名が割り当てられます。省略時のアダプター名は、文字Dと、その後続くアダプター・アドレスの最後の9桁とから構成されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LINE	回線記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	* - *PRINT	オプション

[トップ](#)

回線記述 (LINE)

表示するアダプターに接続されている回線の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

WRKLANADPTの例

WRKLANADPT LINE(DETBRANCH)

このコマンドは、DETBRANCH回線に接続されているアダプターのリストを表示します。

エラー・メッセージ： WRKLANADPT

*ESCAPEメッセージ

CPF8B68

回線記述&23が見つからない。

CPF8B69

要求した処置には回線記述&23は正しくない。

CPF8B72

変更が正常に実行されなかった。ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター&29が見つかりません。

CPF8B74

活動アダプターの表示要求が正常に実行されなかった。

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

CPF8B76

アダプターの機能アドレスがない。

ライブラリー処理 (WRKLIB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリーの処理(WRKLIB)コマンドは、ライブラリーのリストを表示し、これによって指定されたライブラリーをコピー、削除、表示、印刷、保管、復元、変更、および消去することができます。

制約事項:

- 何らかの権限をもっているライブラリーだけが、画面に表示されます。
- ライブラリーに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する使用(*USE)権限、およびその操作の実行対象であるライブラリーに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	修飾子リスト	オプション、位置 1
	修飾子 1: ライブラリー	総称名, 名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
ASP	ASP番号	1-32, *ALL	オプション
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション

トップ

ライブラリー (LIB)

「ライブラリーの処理」画面に表示されるライブラリーの名前を指定します。

***LIBL** スレッドのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが表示されます。

注: ライブラリーがライブラリー・リストのシステム部分またはユーザー部分に入っていて、スレッドの製品ライブラリー・リストまたは現行ライブラリーの1つにも入っている場合は、そのライブラリーは「ライブラリーの処理」画面に表示されたライブラリーのリスト中に複数回現れる可能性があります。

*USRLIBL

現行ライブラリーが現行スレッドのライブラリー・リスト中に存在している場合は、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分のライブラリーが表示されます。現行ライブラリー項目がない場合は、ライブラリー・リストのユーザー部分のライブラリーだけが表示されます。

注: ライブラリーがライブラリー・リストのユーザー部分に入っていて、スレッドの現行ライブラリーでもある場合は、そのライブラリーは「ライブラリーの処理」画面に表示されたライブラリーのリスト中に複数回現れる可能性があります。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが表示されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが表示されます。

***ALL ASP番号 (ASP)**パラメーターまたは**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターで指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが表示されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次の場合を除いて、英字Qで始まっていない名前をもつすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、これらには一般的によく変更されるユーザー・データが収められます。したがって、これらのライブラリーはユーザー・ライブラリーとみなされて、表示もされます。

QDSNX QRCLXXXX QUSRIJS QUSRVXRXMX
QGPL QSRVAGT QUSRINFSKR
QGPL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA
QMQMDATA QUSRADSM QUSRPYMSVR
QMQMPROC QUSRBRM QUSRDRARS
QPFRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS
QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

総称名 表示するライブラリーの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのライブラリーが表示されます。

名前 表示するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ASP番号 (ASP)

「ライブラリーの処理」画面に表示されるライブラリーの補助記憶域プール(ASP)を指定します。このパラメーターは、ライブラリー・パラメーターで値*LIBL, *CURLIB,または*USRLIBLが入力されると無視されます。数値をこのパラメーターに指定する場合は、**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーター値は*でなければなりません。

***ALL ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターに対する値によって定義されたすべてのASPが検索されます。

- 1-32** 検索するシステムASPまたは基本ユーザーASPの番号を指定してください。ASP 1は、常時構成されているシステムASPです。基本ユーザーASPは2-32であり、システムで構成されているASPを指定しなければなりません。ASPの構成については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

表示しようとしているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ず正しいライブラリーが表示されるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。数値を**ASP番号 (ASP)**パラメーターに指定する場合は、ASPDEVパラメーターは*でなければなりません。

*
- 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1)、すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2-32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

名前 検索する1次ASPまたは2次ASPの装置名を指定してください。1次および2次ASPは(ASP装置をオンに変更することによって)活動化されていなければならず、状況が「使用可能」になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)および構成済みの基本ユーザーASP (ASP 2-32)は検索されません。

トップ

WRKLIBの例

WRKLIB LIB(QJ*) ASP(2)

このコマンドによって、文字'QJ'で始まっている補助補助記憶域プール(ASP) 2内のライブラリーのリストを処理することができます。

トップ

エラー・メッセージ： WRKLIB

*ESCAPEメッセージ

CPF218C

&1は1次または2次ASPではない。

CPF2302

装置&1がASPグループ&2に見つからない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

[トップ](#)

ライセンス情報の処理 (WRKLICINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス情報処理(WRKLICINF)コマンドによって、ライセンス情報が入っているシステム上にある指定したプロダクトまたは機能を表示または印刷することができます。パラメーターが指定されていない場合には、ライセンス情報をもっているすべてのプロダクトのリストが表示されます。このリストによって、ユーザーはライセンス情報を変更、表示、または印刷するか、ピーク時使用情報をリセットするか、あるいはプロダクトまたは機能のライセンス・ユーザーを処理することができます。

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可で出荷されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PRDID	プロダクト識別コード	文字値, <u>*ALL</u>	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション、位置 2

トップ

プロダクト識別コード (PRDID)

そのライセンス情報が表示されるプロダクトの識別コード(ID)を指定します。

***ALL** ライセンス情報が入っているシステムにあるすべてのプロダクトが表示されます。

プロダクト識別コード

そのライセンス情報が表示されるプロダクトの7桁の識別コードを指定してください。

総称プロダクト識別コード*

表示するプロダクトの総称識別コードを指定してください。総称プロダクト識別コードは、総称名と同じように指定されます。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 要求された出力は表示装置に表示されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

WRKLICINFの例

例1:プロダクトのライセンス情報の表示

```
WRKLICINF PRDID(1MYPROD)
```

このコマンドは、プロダクト識別コード1MYPRODのプロダクトのプロダクト・ライセンス情報を表示装置に表示します。

例2:すべてのライセンス情報の印刷

```
WRKLICINF OUTPUT(*PRINT) PRDID(*ALL)
```

このコマンドは、システム上でライセンス情報があるすべてのプロダクトのリストをジョブのスパール出力で印刷します。

トップ

エラー・メッセージ： WRKLICINF

*ESCAPEメッセージ

CPF9E11

ライセンス情報が検索されなかった。

CPF9E12

ライセンス情報が使用できない。

CPF9E24

ライセンス・ユーザー&4は解放されなかった。

CPF9E26

&4ライセンス・ユーザーが解放されなかった。

トップ

回線記述の処理 (WRKLIND)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の処理(WRKLIND)コマンドにより、回線記述処理画面を通じて、回線記述機能への対話式インターフェイスが提供されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	総称名, 名前, *ALL, *ASYNC, *BSC, *DDI, *ELAN, *FAX, *FR, *IDLC, *NET, *PPP, *SDLC, *TDLC, *TRLAN, *WLS, *X25	オプションナル, 位置 1

トップ

回線記述 (LIND)

処理する回線記述を指定します。

***ALL** すべての回線記述を処理します。

***ASYNC**

非同期通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***BSC** 2進データ同期通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***DDI** ユーザーは分散データ・インターフェース用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***ELAN**

ETHERNETローカル・エリア・ネットワーク用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***FAX** ユーザーは、ファクシミリ通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***FR** ユーザーはフレーム・リレー直接通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***IDLC** すべてのISDNデータ・リンク制御(IDLC)回線を処理することができます。

***NET** ユーザーは、ネットワーク通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***PPP** ユーザーはPOINT-TO-POINTプロトコル(PPP)通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***SDLC**

同期データ・リンク制御通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***TDLC**

平衡型データ・リンク通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***TRLAN**

トークンリング・ローカル・エリア・ネットワーク用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***WLS** ユーザーは無線ローカル・エリア・ネットワークに構成されたすべての回線を処理することができます。

***X25** すべてのX.25回線を処理することができます。

総称名 総称回線記述名を指定します。

名前 回線記述の名前を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

[トップ](#)

WRKLINDの例

`WRKLIND LIND(LINE01)`

このコマンドは、回線LINE01の項目を示す「回線記述処理」パネルを表示します。LINE01が存在しない場合には、項目は何も表示されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKLIND

なし

[トップ](#)

オブジェクト・リンクの処理 (WRKLNK)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト・リンクの処理 (WRKLNK)コマンドは、ディレクトリー内の指定されたオブジェクトの名前およびオブジェクトを処理するオプションのリストを表示します。

制約事項:

1. オブジェクトに操作を実行するには、その操作で使用するコマンドの使用(*USE)権限と、操作が実行されるオブジェクトに対する適切な権限が必要です。

注: このコマンドの権限要件は、ファイル・システム、オブジェクト・タイプ、要求される操作などを考えると複雑です。したがって、このコマンドに要求される権限については、ISERIES機密保護解説書 (SD88-5027)を参照してください。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名, *	オプション, 定位置 1
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL , *ALLDIR, *ALRTBL, *AUTL, *BLKSF, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CHRSF, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DDIR, *DEVD, *DIR, *DOC, *DSTMF, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FIFO, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MBR, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSD, *OOPOOL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDL0D, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SOCKET, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *STMF, *SVRSTG, *SYMLNK, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション
DETAIL	詳細	*PRV , *NAME, *BASIC, *EXTENDED	オプション
DSPOPT	表示オプション	*PRV , *USER, *ALL	オプション

オブジェクト (OBJ)

表示するオブジェクトを指定します。

* 現行ディレクトリーのすべてのオブジェクトが表示されます。

オブジェクト・パス名

オブジェクトの名前または表示するオブジェクトの名前を突き合わせるパターンを指定してください。オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

表示するオブジェクトのタイプを指定します。

*ALL 名前がオブジェクト (OBJ)パラメーターで指定されているパターンと一致するすべてのオブジェクトが表示されます。

*ALLDIR

すべてのディレクトリー・タイプ(DIR, LIB, FLR,およびデータベースFILE) が表示されます。

オブジェクト・タイプ

名前のパターンと一致した場合に表示されるオブジェクトのタイプを指定してください。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

詳細 (DETAIL)

オブジェクト・リンクの処理 (WRKLNK)リストにどれだけの情報を表示するかを指定します。

*PRV 前にこのコマンドを実行したときに表示されたのと同じ情報が表示されます。このコマンドまたはオブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK)コマンドを使用していない場合には、値*BASICが使用されます。

***NAME**

名前だけが表示されます。

***BASIC**

名前と一緒にタイプ、タイプの属性、およびテキストが表示されます。

***EXTENDED**

上記の基本情報に加えて、タイプ・フィールドが拡張され、シンボリック・リンクおよびハードまたはシンボリック・リンクを表示するために使用可能な追加オプションに関する情報の続きが表示されます。

トップ

表示オプション (DSPOPT)

PCシステムおよび隠しオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

***PRV** このパラメーターには、前にこのコマンドを実行したときと同じ値が使用されます。このコマンドが前に使用されていない場合には、*USERが使用されます。

***USER**

PCシステムおよび隠しオブジェクトは表示されません。指定されたパターンがピリオド(.)で始まっていない限り、ピリオド(.)で始まるオブジェクトは表示されません。

***ALL** PCシステムおよび隠しオブジェクトを含めて、すべてのオブジェクトが表示されます。ピリオド(.)で始まるオブジェクトが表示されます (パターンにはアスタリスク(*)を指定)。これにはディレクトリー(.)および親ディレクトリー(..)の項目が含まれます。

トップ

WRKLNKの例

例1: オブジェクト・リンクの処理

```
WRKLNK OBJ('X/PAY')
```

このコマンドは、「オブジェクト・リンクの処理」パネルを表示します。このパネルには、ディレクトリー内のオブジェクトの名前のリストが表示され、それらのオブジェクトに操作を実行するためのオプションが提供されます。この例では、オブジェクトの名前はPAYで、現行ディレクトリー内のディレクトリーXに入っています。

トップ

エラー・メッセージ: WRKLNK

*ESCAPEメッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

MLB資源待ち行列の処理 (WRKMLBRSCQ)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- 対話式 ILE CL モジュール (*IMOD)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

MLB資源待ち行列の処理(WRKMLBRSCQ)コマンドによって、指定された媒体ライブラリー装置の資源割り振り要求を処理することができます。

制約事項:

1. 変更されているジョブがコマンドを出したユーザーと同じユーザー・プロファイルを使用しているか、あるいは投入者がジョブ制御特殊権限(*JOBCTL)を持っていない限りなりません。
2. 資源割り振り優先順位を変更することができるのは、ジョブ制御特殊権限(*JOBCTL) があるユーザーだけです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MLB	ライブラリー装置	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ライブラリー装置 (MLB)

処理する媒体ライブラリー装置を指定します。

[トップ](#)

WRKMLBRSCQの例

WRKMLBRSCQ MLB(TAPMLB01)

このコマンドは、テープ媒体ライブラリーTAPMLB01の資源を使用する要求のリストを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKMLBRSCQ

*ESCAPE メッセージ

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

媒体ライブラリー処理状況 (WRKMLBSTS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

媒体ライブラリー状況の処理(WRKMLBSTS)コマンドは、媒体ライブラリー状況機能を表示および処理するために使用します。このコマンドを実行すると、媒体ライブラリー状況処理画面が表示されます。この画面には、ライブラリー構成記述の状況情報が表示されます。選択したそれぞれのライブラリー装置記述に対して関連づけられたすべてのドライブ資源が表示されます。

媒体ライブラリーの状況処理画面で使用できるオプションは、状況を変更し装置記述を処理するためのものです。テープ媒体ライブラリー装置の場合には、オプションは装置内のドライブ資源の割り振りおよびリセットにも使用することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MLB	ライブラリー装置	総称名, 名前, *ALL , *OPTMLB, *TAPMLB, *RSRCNAME	オプションナル, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *NONE	オプションナル, 定位置 2

トップ

ライブラリー (MLB)

媒体ライブラリーの状況処理画面に表示される記述を指定します。

***ALL** すべての媒体ライブラリー記述が表示されます。

***OPTMLB**

すべての光ディスク媒体ライブラリー記述が表示されます。

***TAPMLB**

すべてのテープ媒体ライブラリー記述が表示されます。

***RSRCNAME**

資源名(RSRCNAME)が指定されているすべての媒体ライブラリー記述が表示されます。

総称*記述名

記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

記述名 表示する媒体ライブラリー装置記述を指定してください。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

*NONE

この時点では資源名は指定されません。

資源名 システムの媒体ライブラリー装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKMLBSTSの例

WRKMLBSTS MLB(*ALL)

このコマンドは、すべての媒体ライブラリー装置の状況を示す「媒体ライブラリー状況処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKMLBSTS

なし

[トップ](#)

メニュー処理 (WRKMNU)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メニュー処理(WRKMNU)コマンドはメニューのリストを表示し、これによって、指定されたメニューの属性を削除、変更、進行、または表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているメニューだけが、画面に表示されます。
- メニューに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるメニューに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MENU	メニュー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メニュー	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

メニュー (MENU)

「メニューの処理」画面に表示するメニューを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メニュー

***ALL** すべてのメニューがリストされます。

総称名 表示するメニューの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのメニューが表示されます。

名前 表示するメニューの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSCR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

WRKMNUの例

```
WRKMNU  PERSLIB/OE*
```

このコマンドは、名前が文字'OE'で始まっているライブラリーPERSLIB内のすべてのメニューのリストが表示される「メニューの処理」パネルを表示します。

エラー・メッセージ： WRKMNU

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

モジュールの処理 (WRKMOD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モジュールの処理(WRKMOD)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーからモジュールのリストを表示して処理することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 読み取り(*READ)権限があるモジュールだけが画面に表示されます。
- モジュールで操作を行なうためには、その操作で使用するコマンドに対して*USE 権限と、操作を行ないたいモジュールに対して適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: モジュール	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
MODATR	モジュール属性	*ALL, CBLLE, CLE, CLLE, CPPLE, RPGLE	オプション, 定位置 2

トップ

モジュール (MODULE)

リストに入りたいモジュールの検索方法を指定します。指定されたパラメーター値と一致する名前のモジュールで、ユーザーに権限があるすべてのモジュールが表示されます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: モジュール

***ALL** ライブラリー修飾子で識別されるライブラリーのすべてのモジュールが表示されます（ユーザーに権限がないライブラリーを除く）。

総称名 モジュールの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。総称名が指定された場合には、その総称名で始まる名前のモジュールで、それに対してユーザーが権限をもっているすべてのモジュールが表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なモジュール名と見なします。

名前 表示されるモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** QSYSも含めて、ジョブのライブラリー・リストのシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSCR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

モジュール属性 (MODATR)

選択された属性をもつモジュールのリストが表示されることを指定します。

***ALL** そのモジュールと関連した属性には関係なく、モジュールが表示されます。

CBLLE

CBL属性をもつモジュール(ILE COBOLモジュール)が表示されます。

CLE C属性をもつモジュール(ILE Cモジュール)が表示されます。

CLLE CL属性をもつモジュール(ILE Cモジュール)が表示されます。

CPPLE

CPPLE属性をもつモジュール(ILE C++モジュール)が表示されます。

RPGLE

RPG属性をもつモジュール(ILE RPGモジュール)が表示されます。

[トップ](#)

WRKMODの例

WRKMOD MODULE(MYLIB/*ALL)

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内に保管されている、ユーザーが権限をもっているモジュールのすべてをリストします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKMOD

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

モード記述処理 (WRKMODD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード記述処理(WRKMODD)コマンドによって、モード記述処理画面を通して、モード記述機能を処理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODD	モード記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプションル, 位置 1

[トップ](#)

モード記述 (MODD)

処理するモード記述を指定します。

*ALL すべてのモード記述を処理します。

総称モード記述名

総称モード記述名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

モード記述名

特定のモード記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKMODDの例

WRKMODD MODD(*ALL)

このコマンドは、既存のすべてのモード記述の項目を示す「モード記述処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKMODD

なし

[トップ](#)

メッセージの処理 (WRKMSG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

表示装置ユーザーがメッセージ処理(WRKMSG)コマンドを使用して、指定されたメッセージ待ち行列で受け取られたメッセージを処理します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *WRKUSR , *SYSOPR, *USRPRF, *WRKSTN その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTPUT	出力	* , *PRINT	オプション
MSGTYPE	メッセージ・タイプ	*ALL , *INFO, *INQ, *COPY	オプション
SEV	重大度コード・フィルター	0-99, 0 , *MSGQ	オプション
ASTLVL	援助レベル	*PRV , *USRPRF, *BASIC, *INTERMED	オプション

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

表示されるメッセージが入っているメッセージ待ち行列を指定します。

単一値

***WRKUSR**

ワークステーションのメッセージ待ち行列および現行ユーザーのユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からのメッセージが表示されます。

***SYSOPR**

システム操作員メッセージ待ち行列(QSYSOPR)からのメッセージが表示されます。

***WRKSTN**

ワークステーションのメッセージ待ち行列からのメッセージが表示されます。

***USRPRF**

現行のユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からのメッセージが表示されます。

修飾子 1: メッセージ待ち行列

名前 表示されるメッセージが入っているメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示される(対話式ジョブによって要求された場合)か、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます(バッチ・ジョブによって要求された場合)。即時メッセージおよび事前定義メッセージ印刷される時は105桁に切り捨てられます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

出力が印刷される時には、各メッセージごとに2行が印刷されます。2番目の行には、次の情報が含まれません。

- メッセージを送ったジョブの修飾ジョブ名。これは次の3つのフィールドから構成されます。
 - ジョブ名
 - ユーザー名
 - ジョブ番号
- メッセージを送ったプログラムの名前。
- メッセージを送ったプログラム内の命令番号。非プログラム・メッセージ待ち行列の場合には、これは常にゼロです。
- メッセージが送られた日付および時刻。
- メッセージが送られた時にスレッドが実行されていたユーザー・プロファイルの名前。

トップ

メッセージ・タイプ (MSGTYPE)

表示されるメッセージ待ち行列中のメッセージのタイプを指定します。

***ALL** メッセージ待ち行列中のすべてのメッセージが表示されます。

***INFO** 通知メッセージ（応答を必要としないもの）だけが示されます。

***INQ** 照会メッセージ（応答を必要とするもの）だけが示されます。

*COPY

別のメッセージ待ち行列に送られ、応答を必要とする各送信元のメッセージのコピーが表示されます。

[トップ](#)

重大度コード・フィルター (SEV)

メッセージを持つことができ、表示される最低の重大度コードの値を指定します。メッセージの重大度コードがここで指定された値より低い場合には、メッセージは表示されません。

0 指定されたメッセージ待ち行列中のすべてのメッセージが表示されます。

*MSGQ

メッセージ待ち行列に指定された重大度コードより大きいか等しい重大度コードを持つすべてのメッセージが表示されます。

重大度コード

メッセージを持つことができ、まだ表示される最低の重大度コードの値を指定します。有効な値の範囲は00～99です。

[トップ](#)

援助レベル (ASTLVL)

表示するユーザー・インターフェースを指定します。

*PRV 使用された前のユーザー・インターフェースが表示されます。

*USRPRF

現行ユーザー・プロファイルに記憶されているユーザー・インターフェースが使用されます。

*BASIC

メッセージの処理画面を表示します。このユーザー・インターフェースはメッセージを2つのカテゴリに分けます。すなわち、1)応答が必要なメッセージ、および2)応答が不要なメッセージ。新しいメッセージは各メッセージ・リストの最上部に示されます。

*INTERMED

メッセージ表示画面を表示します。

[トップ](#)

WRKMSGの例

WRKMSG

このコマンドは、要求元のワークステーション・メッセージ待ち行列およびユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からすべてのメッセージを表示します。応答を必要とするメッセージが最初に表示され、続いて応答を必要としないメッセージが表示されます。メッセージは、最も新しいものから古いものへ順に表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKMSG

*ESCAPEメッセージ

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF2401

ライブラリー&1の使用を許可されていません。

CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

CPF2408

メッセージ待ち行列&1は認可されていない。

CPF2433

システム・ログ・メッセージ待ち行列&1にこの機能を使用することはできない。

CPF2450

ワークステーション・メッセージ待ち行列&1がジョブに割り振られていない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF2477

メッセージ待ち行列&1は現在使用中である。

CPF2513

メッセージ待ち行列&1を表示することができない。

CPF2537

&3のファイル&2に書き込まれたレコード数が多すぎる。

CPF8127

&9のメッセージ待ち行列&4に&8の損傷がある。VLICログは&7です。

CPF8176

装置記述&4のメッセージ待ち行列に損傷がある。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

メッセージ記述処理 (WRKMSGD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ記述処理(WRKMSGD)コマンドは、メッセージ・ファイルに入っているメッセージに関する詳細情報を表示します。このコマンドを使用して、メッセージ記述処理画面を通して、メッセージ記述を追加、変更、除去、および印刷することができます。この画面を使ってメッセージ記述が変更されると、メッセージの現在の値がコマンド・プロンプトに表示されます。ただし、第2レベル・メッセージ・テキストには512 桁という制限があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGID	メッセージ識別コード	名前, *FIRST	オプション、位置 1
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、位置 2
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前, QCPFMSG	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

[トップ](#)

メッセージ識別コード (MSGID)

メッセージ・ファイル (MSGF)パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルの中のメッセージ記述のリストの表示を開始するメッセージ識別コードを指定します。

***FIRST**

メッセージ・ファイルの中の最初のメッセージ記述を使用して、リスト画面を開始します。

メッセージ識別コード

記述が表示の対象となる1つまたは複数のメッセージのメッセージ識別コードを指定してください。メッセージ識別コードは、それぞれが7文字の長さで、次の形式でなければなりません。

PPPNNNN

最初の3桁は、2桁の英数字（英字または数字）が続く英字から成るコードでなければなりません。最後の4桁は、0-9の範囲の10進数および文字A-Fで構成することができます。

[トップ](#)

メッセージ・ファイル (MSGF)

メッセージ記述が取り出されるメッセージ・ファイルを指定します。

修飾子 1: メッセージ・ファイル

QCPFMSG

メッセージ記述は、システム・メッセージ・ファイルQCPFMSGから取り出されます。

名前 メッセージ記述を取り出すメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

WRKMSGDの例

WRKMSGD MSGF(QSYS/QCPFMSG)

このコマンドは、ライブラリーQSYSのメッセージ・ファイルQCPFMSGで見つかったすべてのメッセージ記述を示す「メッセージ記述の処理」パネルを表示します。そのパネルから、メッセージ記述を追加、変更、削除、表示、または印刷することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKMSGD

***ESCAPEメッセージ**

CPF2401

ライブラリー&1の使用を許可されていません。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF2483

メッセージ・ファイルは現在使用中である。

CPF2499

メッセージ識別コード&1を使用することはできない。

CPF2510

&2のメッセージ・ファイル&1に論理的な損傷がある。

CPF2516

&2の表示装置または印刷装置ファイル&1をオープンすることができない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

メッセージ・ファイルの処理 (WRKMSGF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・ファイルの処理(WRKMSGF)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーからメッセージ・ファイルのリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているメッセージ・ファイルだけが、画面に表示されます。
- メッセージ・ファイルに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるメッセージ・ファイルに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

メッセージ・ファイル (MSGF)

表示するメッセージ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ・ファイル

***ALL** すべてのメッセージ・ファイルが表示されます。

総称名 表示するメッセージ・ファイルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのメッセージ・ファイルが表示されます。

名前 表示するメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX QRCLXXXXX QUSRIJS QUSRVXRXXMX
QGPL QSRVAGT QUSRINFSKR
QGPL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA
QMQRDATA QUSRADSM QUSRPYMSVR
QMQRPROC QUSRBRM QUSRDRARS
QPFRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS
QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKMSGFの例

WRKMSGF MSGF(ACCNTLIB/*ALL)

このコマンドは、ACCNTLIBライブラリー内のメッセージ・ファイルがすべて表示されている「メッセージ・ファイルの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKMSGF

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列処理 (WRKMSGQ)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ待ち行列処理(WRKMSGQ)コマンドは、メッセージ待ち行列のリストを表示し、これによって、指定されたメッセージ待ち行列を表示、変更、削除、および消去することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているメッセージ待ち行列だけが、画面に表示されます。
- メッセージ待ち行列に対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるメッセージ待ち行列に対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

「メッセージ待ち行列の処理」画面に表示するメッセージ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべてのメッセージ待ち行列が表示されます。

総称名 表示するメッセージ待ち行列の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのメッセージ待ち行列が表示されます。

名前 リストしたいメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSCR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

WRKMSGQの例

```
WRKMSGQ  MSGQ(PERSLIB/MQ*)
```

このコマンドは、ライブラリーPERSLIB内に存在している、名前が文字'MQ'で始まっているメッセージ待ち行列がすべてリストされている「メッセージ待ち行列の処理」パネルを表示します。

エラー・メッセージ： WRKMSGQ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

通称の処理 (WRKNCK)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ニックネーム処理(WRKNCK)コマンドは、ユーザーが処理できるニックネームのリストを表示するために使用されます。このコマンドによって、システム配布ディレクトリー中のニックネームを追加、変更、除去、表示、印刷、および名前変更することができます。

ニックネームは、ディレクトリー項目または配布リスト名を短く縮めたものです。ニックネームの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

制約事項:

1. 所有していない共有ニックネームを変更、除去、または名前変更するためには、機密保護管理者 (*SECADM)権限が必要です。所有している共有ニックネームを表示または処理するには特殊権限は不要です。
2. 私用ニックネームを変更、除去、名前変更、および表示できるのは所有者だけです。特殊権限は不要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ACCESS	アクセス	*PRV, *ALL, *PRIVATE, *PUBLIC	オプションル、定位置 1

トップ

アクセス (ACCESS)

表示されるニックネームのアクセスを指定します。

***PRV** ニックネームを表示、選択、または処理するために現行ユーザーによって指定された最後のアクセスが使用されます。

***ALL** ユーザーがアクセスできるすべてのニックネームが表示されます。これには、ユーザーが所有する私用ニックネームおよびシステム配布ディレクトリー中のすべての共有ニックネームが含まれます。

***PRIVATE**
ユーザーが所有する私用ニックネームが表示されます。

***PUBLIC**
システム配布ディレクトリー中のすべての共有ニックネームが表示されます。

WRKNCKの例

WRKNCK ACCESS(*PRIVATE)

このコマンドは、そこから専用ニックネームを追加、変更、除去、表示、印刷、および名前変更できる、「専用ニックネームの処理」パネルを表示します。

トップ

エラー・メッセージ： WRKNCK

*ESCAPEメッセージ

CPF8360

コミットメント制御操作を実行するための記憶域が不十分である。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

トップ

ネットワーク・ファイルの処理 (WRKNETF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ファイル処理(WRKNETF)コマンドは、ユーザーに届いたファイルのリストを表示または印刷、あるいはそのファイルのリストを入れる出力ファイルを作成します。リストが表示されたら、次の処理を行なうことができます。

- ファイルをユーザー・ファイルに受け取る。
- ファイルを削除する。
- ファイルを走査検索する（保管ファイルでは行なえません）。
- ファイルを投入する（入力ストリームを投入する）。（これも、保管ファイルでは行なえません）。

制約事項:

1. 機密保護担当者権限をもつユーザーは、どのユーザー宛のネットワーク・ファイルでも表示することができます。機密保護担当者権限以外の権限をもつユーザーは、それらのユーザーまたはそれらのユーザーのグループ・プロファイルに送信されたファイルしか表示できません。
2. この画面からオプションのどれかを実行するためには、そのオプションに対応するコマンドが認可されていなければなりません。たとえば、走査検索機能の場合には物理ファイル・メンバー表示(DSPPFM)コマンド、ジョブ投入機能の場合にはデータベース・ジョブ投入(SBMDBJOB)コマンドが認可されていなければなりません。
3. WRKNETFをデバッグ・モードで実行するためには、STRDBGコマンドにUPDPROD(*YES) を指定して、実動ファイルの更新を許可しなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー	名前, <u>*CURRENT</u> , *ALL	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション、位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

ユーザー (USER)

どのユーザーのファイルを表示するのかを指定します。

*CURRENT

現行ユーザーのネットワーク・ファイルが表示されます。

*ALL すべてのユーザーのネットワーク・ファイルが表示されます。

ユーザー名

特定のユーザーのファイルを表示する場合にそのユーザーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

出力を受け取るメンバー (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

指定できる名前の値は次の通りです。

***FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。メンバーが存在していない場合には、システムは、**出力を受け取るファイルプロンプト** (OUTFILEパラメーター) で指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

情報の記憶方法に対して指定できる値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

WRKNETFの例

例1:ユーザーのネットワーク・ファイルの処理

```
WRKNETF
```

このコマンドによって、このコマンドを実行中のユーザーのネットワーク・ファイルのすべてを処理することができます。このコマンドが対話式ジョブとして出されると、ファイルのリストが要求側ワークステーションに表示されます。このコマンドがバッチ・ジョブとして出されると、ファイルのリストはジョブのプール出力とともに印刷されます。

例2:出力の印刷

```
WRKNETF  USER(USR1)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドによって、USR1のネットワーク・ファイルを処理することができ、出力はジョブのプール出力とともに印刷されます。このコマンドを出すことができるのは、USR1、USR1グループのメンバー、または機密保護担当者権限をもつユーザーだけです。

例3:すべてのユーザーのネットワーク・ファイルの処理

```
WRKNETF  USER(*ALL)  OUTPUT(*OUTFILE)  OUTFILE(NETFILES)
```

このコマンドによって、すべてのユーザーのネットワーク・ファイルを処理することができ、NETFILESという名前のデータベースの先頭メンバーに書き込まれます。このファイルがライブラリー・リストのライブラリー内に存在している場合は、既存ファイルが使用されます。そうでない場合は、ファイルはQGPLライブラリー内に作成されます。ファイルが存在していないか、メンバーが入っていなかった場合は、ファイルと同じ名前をもつメンバーがファイルに追加されます。そうでない場合は、ファイルの先頭メンバーが作成されて使用されます。このコマンドを出すことができるのは、機密保護担当者権限をもつユーザーだけです。

トップ

エラー・メッセージ： WRKNETF

*ESCAPEメッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF8070

ユーザー&1にはファイルの処理は許可されていない。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

トップ

ネットワーク・ジョブ項目処理 (WRKNETJOBE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ジョブ項目処理(WRKNETJOBE)コマンドは、ネットワーク・ジョブ項目を表示します。このシステムにジョブを投入することのできる各ユーザーまたは配布グループごとに1つの項目があります。

この項目は、入力ストリームを自動的に投入するか、ユーザーのネットワーク・ファイルの待ち行列に入れるか、あるいは拒否するかを決めるために使用します。また、この項目は、バッチ・ジョブによって参照されるジョブ記述に対する権限のチェックに使用されるユーザー・プロファイルを指定します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	* _ *PRINT	オプション、定位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*
_ 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

WRKNETJOBEの例

例1:出力の印刷

```
WRKNETJOBE OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドによって、ジョブのスパール出力とともに印刷されるネットワーク・ジョブ項目を処理することができます。

例2:ネットワーク・ジョブ項目の処理

WRKNETJOBE OUTPUT(*)

対話式ジョブで出されると、このコマンドによって、要求側ワークステーションでネットワーク・ジョブ項目を処理することができます。このコマンドがバッチ・ジョブで出されると、ネットワーク・ジョブ項目はジョブのスパール出力とともに印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKNETJOBE

*ESCAPEメッセージ

CPF1844

ネットワーク属性&1をアクセスすることができない。

CPF8050

ネットワーク・ジョブ・テーブルをアクセスすることができなかった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ネットワーク・テーブル項目の処理 (WRKNETTBLE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・テーブル項目処理(WRKNETTBLE)コマンドを使用して、項目を追加、除去、表示、または印刷できるネットワーク・テーブル項目のリストを表示します。リストの印刷を選択することもできます。

ユーザーのネットワークおよび関連するIPアドレスのリストを管理するために、ネットワーク・テーブルが使用されます。

制約事項:

- このコマンドを使用して追加または除去するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NETWORK	ネットワーク	文字値, *ALL	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	* , *PRINT	オプション、位置 2

トップ

ネットワーク (NETWORK)

処理したいネットワーク項目を指定します。

***ALL** テーブル中のすべてのネットワークが表示または印刷されます。

名前 ネットワークの名前を指定してください。一致するすべての項目が表示または印刷されます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

***** 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

WRKNETTBLEの例

WRKNETTBLE

このコマンドは、ネットワーク・テーブル項目のすべてのリストを表示します。ネットワーク・テーブル項目はこのリストからの追加、除去、表示、または印刷を選択することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKNETTBLE

なし

[トップ](#)

ノード・リストの処理 (WRKNODL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・リスト処理(WRKNODL)コマンドによって、ノード・リスト・オブジェクトのリストを処理し、新しいノード・リストを作成し、既存のノード・リストを削除し、ノード・リスト項目を処理することができます。

制約事項:

1. *USE権限があるライブラリーだけが検索されます。
2. ユーザーが特定の権限をもつノード・リストだけが画面に表示されます。
3. ノード・リストで操作を実行するためには、ユーザーは、その操作で使用されるコマンドに対して*USE権限をもち、かつその操作が実行されるノード・リストに対して適切な権限をもっていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NODL	ノード・リスト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・リスト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

ノード・リスト (NODL)

表示されるノード・リストの修飾名を指定します。

ノード・リスト名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分のライブラリーだけが検索されます。

***ALL** QSYSも含めて、ジョブのライブラリー・リストのシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGGL      QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** ライブラリーに指定されたすべてのノード・リストがリストされます。

ノード・リスト名

表示しているノード・リストの名前を指定してください。

総称*ノード・リスト名

表示しているノード・リストの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は、名前が総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名が指定されて、複数のライブラリーが検索された場合には、名前に*ALLまたは*ALLUSRライブラリー値を指定した場合に限り、複数のオブジェクトを戻すことが可能です。

トップ

WRKNODLの例

WRKNODL NODL(MYLIB/MY*)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBで名前が「MY」の文字で始まるすべてのノード・リストのリストを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKNODL

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

ノード・リスト項目の処理 (WRKNODLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・リスト項目処理(WRKNODLE)コマンドによって、ユーザーはノード・リスト項目を表示、印刷、追加、または除去することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NODL	ノード・リスト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ADRTYPE	アドレス・タイプ	*ALL, *SNA, *IP	オプション

[トップ](#)

ノード・リスト (NODL)

項目を表示するノード・リスト・オブジェクトの修飾名を指定します。

ノード・リスト名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ノード・リスト名

使用するノード・リストの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

アドレス・タイプ(ADRTYPE)

処理するノード・リスト項目をアドレス・タイプで指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべてのノード・リスト項目が表示されます。

***IP** アドレス・タイプがインターネット・プロトコル(IP)のノードだけが表示されます。

***SNA** アドレス・タイプがシステムネットワーク体系(SNA)のノードだけが表示されます。

トップ

WRKNODLEの例

例1:すべてのノード・リスト項目の表示

```
WRKNODLE NODL(MYLIB/NODL02)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにあるノード・リストNODL02中のすべての項目のリストを表示します。

例2:すべてのIPノード・リスト項目の表示

```
WRKNODLE NODL(MYLIB/NODL02) ADRTYPE(*IP)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにあるノード・リストNODL02中のすべてのIP項目のリストを表示します。

トップ

エラー・メッセージ： WRKNODLE

*ESCAPEメッセージ

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF813E

&9のノード・リスト&4に損傷がある。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

NETBIOS記述の処理 (WRKNTBD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NetBIOS記述処理(WRKNTBD)コマンドは、NetBIOS記述機能への対話式インターフェースを提供するNetBIOS記述処理メニューを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NTBD	NETBIOS記述	総称名, 名前, *ALL	オプションル, 位置 1

[トップ](#)

NETBIOS記述 (NTBD)

処理するNetBIOS記述を指定します。

***ALL** ユーザーはすべてのNetBIOS記述を処理することができます。

総称*NetBIOS記述名

NetBIOS記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていないければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

NetBIOS記述名

処理するNetBIOS記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKNTBDの例

```
WRKNTBD  NTBD(MYNETBIOS)
```

このコマンドは、NETBIOS記述MYNETBIOSの項目を示す「NETBIOS記述処理」パネルを表示します。MYNETBIOSが存在しない場合には、項目は何も表示されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKNTBD

なし

[トップ](#)

NETWARE認証項目の処理 (WRKNTWAUTE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWARE認証項目処理(WRKNTWAUTE)コマンドは、ユーザーに関する認証項目のリストを表示します。NETWARE認証項目の処理パネルから、認証項目を追加、変更、表示、および除去するオプションだけでなく、認証項目を使用してサーバーへの認証済み接続を開始するオプションを使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SVRTYPE	サーバー・タイプ	<u>*ALL</u> , *NETWARE3, *NDS	オプション
NDSTREE	NDSツリー	文字値, *ALL	オプション
SERVER	サーバー	文字値, *ALL	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, <u>*CURRENT</u>	オプション

[トップ](#)

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

検討する認証項目のタイプを指定します。

***ALL** このユーザーに関するすべての認証項目を検討します。

***NETWARE3**

すべてのNETWARE 3.1サーバー認証項目を検討します。

***NDS** すべてのNETWAREディレクトリー・サービス・ツリー認証項目を検討します。

[トップ](#)

NDSツリー (NDSTREE)

サーバー・タイプ***NDS**の場合には、処理するNETWAREディレクトリー・サービス・ツリー認証項目の名前を指定します。

***ALL** このユーザーのすべてのNDS認証項目を表示します。

'名前' 処理するNDSツリー項目の名前を指定してください。

'総称名'

処理するNDSツリー項目の総称名を指定してください。総称名は、たとえばABC*のように、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。アスタリスクは、有効なすべての文字に置き換わります。総称名は、ユーザーが権限をもっている総称接頭部で始まる名前のす

すべてのオブジェクトを指定します。アスタリスクが総称（接頭部）名に含まれていない場合には、システムはそれを完全なオブジェクト名と見なします。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

サーバー・タイプ*NETWARE3の場合には、処理したいサーバー認証項目を指定します。

***ALL** このユーザーのすべてのNETWARE 3.12サーバー認証項目を表示します。

'名前' 処理するサーバー項目の名前を指定してください。

'総称名'

処理するサーバー項目の総称名を指定してください。総称名は、たとえばABC*のように、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。アスタリスクは、有効なすべての文字に置き換わります。総称名は、ユーザーが権限をもっている総称接頭部で始まる名前のすべてのオブジェクトを指定します。アスタリスクが総称（接頭部）名に含まれていない場合には、システムはそれを完全なオブジェクト名と見なします。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

認証項目が入っているユーザー・プロファイルを指定します。

***CURRENT**

現行ユーザー・プロファイルを使用します。

名前 ユーザー・プロファイルの名前を指定します。このユーザー・プロファイルは現行のユーザー・プロファイルであるか、あるいはユーザーはこのユーザー・プロファイルに対する*USEと*OBJMGT権限および*SECADM特殊権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

WRKNTWAUTEの例

WRKNTWAUTE SVRTYPE(*NDS)

このコマンドは、現行ユーザーのすべてのNETWAREディレクトリー・サービス・ツリー認証項目のリストを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKNTWAUTE

***ESCAPE** メッセージ

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

[トップ](#)

NETWARE接続の処理 (WRKNTWCNN)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWARE接続処理(WRKNTWCNN)コマンドによってユーザーは、活動状態のNETWARE接続を処理することができます。このコマンドは、NETWARE接続を処理して、次のことを実行するために使用することができます。

1. 特定のユーザーによって開始されたローカル・システムを起点とし、ネットワーク内の1つまたは複数のサーバーへの接続のリストを表示する。
2. すべてのユーザーによって開始されたローカル・システムを起点とし、ネットワーク内の1つまたは複数のサーバーへの接続のリストを表示する。
3. 接続の起点とは無関係に、ネットワーク内の特定のNETWAREサーバーに対する活動状態のすべてのNETWARE接続のリストを表示する。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー	文字値, *ALL	必須, 定位置 1
CGY	カテゴリー	*LOCAL, *SERVER	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名, *ALL, *CURRENT	オプション

トップ

サーバー (SERVER)

接続を表示する1つまたはすべてのNETWAREサーバーを指定します。

***ALL** ISERIESを起点とするすべてのNETWAREサーバーへの接続が表示されます。

文字値 ネットワークに対して定義されている活動サーバーの名前を指定します。

トップ

カテゴリー (CGY)

処理するNETWARE接続のカテゴリーを指定します。

***LOCAL**

ISERIESを起点とするNETWARE接続だけが表示されます。

***SERVER**

特定のNETWAREサーバーへの接続が表示されることを指定します。

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

接続が処理されるISERIESユーザー・プロファイルを指定します。ローカル・システムを起点とする接続だけが表示されます。CGY(*SERVER)を指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

***ALL** システム上のすべてのISERIESユーザーによって開始されたNETWARE接続が処理されます。

***CURRENT**

現行ユーザー・プロファイルによって開始されたすべてのNETWARE接続が処理されます。

名前 接続が処理されるISERIESユーザー・プロファイルの名前を指定します。

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ: WRKNTWCNN

なし

トップ

NETWAREボリュームの処理 (WRKNTWVOL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWAREボリューム処理(WRKNTWVOL)コマンドは、サーバー用のボリュームをリストするNETWAREボリュームの処理画面を表示するので、ユーザーは、ボリュームを作成、変更、削除、表示、および印刷することができます。NETWAREボリュームの処理画面の「変更」オプションは、ボリュームの取り付けと取り外しだけでなく、ボリュームのサイズを増やすために使用されます。

制約事項:このコマンドを使用するためには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー	文字値	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム	文字値, <u>*ALL</u>	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

ボリュームがリストされるサーバーを指定します。サーバー名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

ボリューム (VOL)

リストするボリュームを指定します。

***ALL** 指定されたサーバーのすべてのボリュームがリストされます。

総称名 リストするボリュームの総称名を指定します。

名前 リストするボリュームの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKNTWVOLの例

WRKNTWVOL SERVER(SERVER1) VOL(ACCT*)

このコマンドは、SERVER1のボリュームのリストを示した「NETWAREボリューム処理」パネルを表示します。その名前が文字'ACCT'で始まるボリュームだけが表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKNTWVOL

なし

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェースの処理 (WRKNWID)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・インターフェース記述処理(WRKNWID)コマンドは、ネットワーク・インターフェース記述の処理画面を介したネットワーク・インターフェース記述機能への対話式インターフェースを提供します。このコマンドによって、ネットワーク・インターフェース記述の処理メニューが表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWID	ネットワーク・インターフェース記述	総称名, 名前, *ALL , *ATM, *FR, *ISDN, *T1	オプション, 位置 1

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)

これは必須パラメーターです。

処理するネットワーク・インターフェース記述を指定します。

***ALL** すべてのネットワーク・インターフェース記述が処理されます。

***ATM** ユーザーは非同期転送モード(ATM)ネットワーク・インターフェースを処理することができます。

***FR** ユーザーはフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェースを処理することができます。

***ISDN** ユーザーはサービス総合デジタル網(ISDN)インターフェースを処理することができます。

総称*名

処理するネットワーク・インターフェース記述の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。ネットワーク・インターフェース記述の総称名を指定した場合には、総称ネットワーク・インターフェース記述と同じ接頭部をもつ名前のすべてのネットワーク・インターフェース記述が処理されます。

ネットワーク・インターフェース名

処理するネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKNWIDの例

WRKNWID NWID(NET1)

このコマンドは、ネットワーク・インターフェース'NET1'の項目をもつ「ネットワーク・インターフェース記述処理」パネルを表示します。NET1が存在しない場合には、項目は何も表示されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKNWID

なし

[トップ](#)

ネットワーク・サーバーの処理 (WRKNWSD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記述処理(WRKNWSD)コマンドは、ネットワーク・サーバー記述機能への対話式インターフェースを提供するネットワーク・サーバー記述の処理画面を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSD	ネットワーク・サーバー記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション的, 位置 1

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー 記述 (NWSD)

処理するネットワーク・サーバー記述を指定します。

***ALL** ユーザーはすべてのネットワーク・サーバー記述を処理することができます。

総称*ネットワーク・サーバー記述名

ネットワーク・サーバー記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

ネットワーク・サーバー記述名

処理するネットワーク・サーバー記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKNWSDの例

WRKNWSD NWSD(*ALL)

このコマンドは、すべてのネットワーク・サーバー記述の項目をもつ「ネットワーク・サーバー記述処理」パネルを表示します。ネットワーク・サーバー記述が存在しない場合には、項目は何も表示されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKNWSD

なし

[トップ](#)

NWSユーザー登録の処理 (WRKNWSENR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー・ユーザー登録処理(WRKNWSENR)コマンドは、ISERIES管理サポートがネットワークに登録したか、あるいは現在登録中のユーザー・プロファイルのリストを処理します。

表示される情報はSVRATYPEパラメーターの値によって異なります。

- SVRATYPE(*NWSA)が指定されている場合には、表示される画面は、ネットワーク・サーバー属性(CHGNWSAコマンド)のDFTSVRATYPEパラメーターに指定されている値によって異なります。サポートされるDFTSVRATYPEの値は*NETWAREと*WINDOWSNTです。
- SVRATYPE(*NWSUSRA)が指定されている場合には、表示される画面は、現行ユーザーのネットワーク・サーバー・ユーザー属性(CHGNWSUSRAコマンド)のDFTSVRATYPEパラメーターに指定されている値によって異なります。このコマンドに有効なネットワーク・サーバー・ユーザー属性中の値は*NETWAREと*WINDOWSNTです。
- SVRATYPE(*NETWARE)が指定されている場合には、画面ではNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーに登録されるISERIESユーザーの登録情報を処理します。
- SVRATYPE(*WINDOWSNT)が指定されている場合には、WINDOWSドメインおよびローカル・サーバーに登録されたISERIESユーザーについての登録情報が表示されます。

一般に、ネットワーク・サーバー・ユーザー登録処理画面には、サーバーまたはNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーのリストと、各サーバーまたはNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーに登録されるISERIESプロファイルのリストの現行登録状況が表示されます。

リスト中の個々のプロファイルを処理するために、特定のオプションを使用することができます。それらのオプションは、ユーザー・プロファイルの変更およびネットワーク・サーバー・ユーザー属性の変更などの機能を提供します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 1
PRFTYPE	プロファイル・タイプ	<u>*USER</u> , *GROUP	オプション, 位置 2
SVRATYPE	サーバー・タイプ	<u>*NWSUSRA</u> , *NWSA, *NETWARE, *WINDOWSNT	オプション, 位置 3
NDSTREE	NDSツリー	文字値, <u>*ALL</u> , *NWSA, *NONE	オプション
SERVER	サーバー	文字値, <u>*ALL</u> , *NWSA, *NONE	オプション
DOMAIN	ドメイン	文字値, <u>*ALL</u> , *NWSA, *NONE	オプション

ユーザー・プロフィール (USRPRF)

プロフィールの名前を指定します。

***ALL** すべてのプロフィールの登録状況が表示されます。

総称*ユーザー名

表示するプロフィールの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。総称名を指定した場合には, その総称名で始まる名前をもつすべてのユーザー, およびその総称名に対する権限を有するすべてのユーザーが表示されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には, システムはそれを完全なユーザー名と見なします。

プロフィール名

表示するプロフィールの名前を指定してください。

トップ

プロフィール・タイプ (PRFTYPE)

表示する登録状況を指定します。

*USER

ISERIESユーザーおよびその登録状況のリストが表示されます。この画面では, このリスト中の各ユーザーごとにそのユーザーが所属しているISERIESグループのリストを表示する代替ビューを使用できます (そのグループが現在そのサーバーまたはNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーに登録中の場合)。

*GROUP

ISERIESグループおよびその登録状況のリストが表示されます。現在サーバーまたはNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーに登録中の各グループのメンバーをリスト中の各グループごとに表示するために, 代替ビューを使用できます。

トップ

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

処理するサーバー・タイプを指定します。

*NWSUSRA

WRKNWSENRCOMMANDを実行するユーザー・プロフィールのネットワーク・サーバー・ユーザー属性(CHGNWSUSRAコマンド) からのサーバー・タイプが使用されます。

*NWSA

ネットワーク・サーバー属性(CHGNWSAコマンド) 中のサーバー・タイプが使用されます。

*NETWARE

NETWAREネットワークに登録中のプロフィールの登録状況が表示されます。

*WINDOWSNT

WINDOWSドメインおよびローカル・サーバーに登録されたユーザーおよびグループのリストを表示することを指定します。

[トップ](#)

NDSツリー (NDSTREE)

処理するNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーを指定します。

***ALL** ユーザーが登録されているすべてのNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーがリストされます。

*NWSA

ネットワーク・サーバー属性の中のNDSTREELSTパラメーターによって識別されるすべてのNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーの登録情報が表示されます。

*NONE

NETWAREディレクトリー・サービス・ツリーの登録情報はリストされません。

総称*ツリー名

ユーザーが登録されているNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーの総称名を指定してください。

'NDSツリー名'

ユーザーが登録されている特定のNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

処理するネットワーク・サーバーを指定します。

***ALL** ユーザーが登録されているすべてのサーバーがリストされます。

*NWSA

ネットワーク・サーバー属性で識別されたサーバーすべての登録情報が表示されます。

*WINDOWSNTサーバーの場合には、WNTLCLSVRLパラメーターで定義されたすべてのサーバーの登録情報が表示されます。

*NONE

サーバーの登録情報はリストされません。これは、SVRTYPE(*NETWARE)が指定されている時のみ有効です。

総称*サーバー名

サーバーの総称名を指定してください。

サーバー名

特定のサーバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ドメイン (DOMAIN)

処理するWINDOWSドメインを指定します。

***ALL** ユーザーが登録されているすべてのドメインがリストされます。

***NWSA**

システム・ネットワーク・サーバー属性のWNTDMNLSTパラメーターによって識別されたすべてのWINDOWSドメインの登録情報が表示されます。

***NONE**

どのWINDOWSドメインの登録情報もリストされません。SERVERパラメーターに基づいて、ローカルWINDOWSサーバーの登録情報だけが表示されます。

総称*ドメイン名

ユーザーが登録されているWINDOWSドメインの総称名を指定してください。

'ドメイン名'

ユーザーが登録されている特定のWINDOWSドメインの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKNWSENRの例

例1: NETWARE NDSツリー・ユーザー登録の処理

```
WRKNWSENR SVRTYPE(*NETWARE) NDSTREE(TREE1) SERVER(*NONE)
```

このコマンドは、OS/400ユーザー登録サポートがNETWAREディレクトリー・サービスTREE1に登録したすべてのOS/400ユーザーのリストを表示します。

例2: WINDOWS NTユーザー登録の処理

```
WRKNWSENR SVRTYPE(*WINDOWSNT) DOMAIN(DMN*) SERVER(SRV*)
```

このコマンドは、名前が「DMN」で始まるすべてのWINDOWS NTドメインと「SRV」で始まるすべてのローカル・サーバーに、OS/400ユーザー登録サポートを登録したすべてのOS/400ユーザーのリストを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKNWSENR

***ESCAPEメッセージ**

CPFA45A

ネットワーク・サーバー・ユーザーが表示されない。

[トップ](#)

NWS記憶スペースの処理 (WRKNWSSTG)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記憶スペース処理(WRKNWSSTG)コマンドは、「ネットワーク・サーバー記憶スペースの処理」画面を使用して、ネットワーク・サーバー記憶スペースを処理します。使用できるオプションは、記憶スペースの作成、削除、表示、および印刷です。また、ネットワーク・サーバー記述に対するリンクを追加および除去することもできます。コピー・オプションは、既存の記憶スペースを新しく作成される記憶スペースに作成およびコピーするために選択することができます。

「ネットワーク・サーバー記憶スペースの処理」画面には、記憶スペースの形式(*NTFS, *FAT, *FAT32, *NTFSQR, *OPEN), それらのサイズ, それらのリンク先であるネットワーク・サーバー記述 (存在する場合), それらが存在している補助記憶域プール, およびドライブ・シーケンス (リンクされている場合) についての情報が表示されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSSTG	ネットワーク・サーバー記憶スペース	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプションル, 位置 1
NWSD	ネットワーク・サーバー 記述	名前	オプションル, 位置 2

トップ

ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)

リストされるネットワーク・サーバーの記憶スペースの名前を指定します。

***ALL** すべてのネットワーク・サーバーの記憶スペースがリストされます。

ネットワーク・サーバーの記憶スペースの総称名*

リストされるネットワーク・サーバーの記憶スペースの総称名を指定してください。

ネットワーク・サーバーの記憶スペース

リストされるネットワーク・サーバーの記憶スペースの名前を指定してください。

トップ

ネットワーク・サーバー 記述 (NWSD)

記憶スペースがリストされるネットワーク・サーバー記述の名前を指定します。このパラメーターが指定された場合には、このネットワーク・サーバー記述にリンクされた記憶スペースだけが表示されます。

[トップ](#)

WRKNWSSTGの例

```
WRKNWSSTG  NWSSTG(*ALL)  SERVER(SERVER1)
```

このコマンドは「ネットワーク・サーバー記憶スペースの処理」パネルを表示して、ネットワーク・サーバーSERVER1にリンクされた記憶スペースのリストを示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKNWSSTG

なし

[トップ](#)

NWS状況の処理 (WRKNWSSTS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー状況処理(WRKNWSSTS)コマンドは、サーバーのリストおよびサーバーの現在の状況を表示します。リスト中の個々のサーバーを処理するために、特定のオプションを使用することができます。それらのオプションは、活動ユーザーの表示、サーバーの再始動、統計の表示などの機能を提供します。表示される画面は、SVRTYPEパラメーターの値によって異なります。

1. SVRTYPE(*NWSUSRA)が指定されている場合には、表示される画面は、現行ユーザーのネットワーク・サーバー・ユーザー属性(CHGNWSUSRAコマンド)の中のSVRTYPEパラメーターに指定されている値によって異なります。
2. SVRTYPE(*NWSA)が指定されている場合には、表示される画面は、ネットワーク・サーバー属性(CHGNWSAコマンド)のSVRTYPEパラメーターに指定されている値によって異なります。
3. SVRTYPE(*NETWARE)またはSVRTYPE(*NDS)が指定されている場合には、画面には、NETWAREサーバーに関連したオプションおよび情報が表示されます。NDSツリー中のNETWAREサーバーだけがリストされます。
4. SVRTYPE(*WINDOWSNT)が指定されている場合には、画面には、WINDOWSサーバーとして作成されたローカルNWSDに関連したオプションおよび情報が表示されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー	文字値, <u>*ALL</u>	オプションナル, 位置 1
SVRTYPE	サーバー・タイプ	<u>*NWSUSRA</u> , *NWSA, *WINDOWSNT, *NETWARE, *NDS	オプションナル

トップ

サーバー (SERVER)

サーバーの名前を指定します。

***ALL** すべてのローカル・サーバーおよびすべてのリモート「活動」サーバーが表示されます。

総称*サーバー名

サーバーの総称名を指定してください。

サーバー名

特定のサーバーの名前を指定してください。

トップ

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

処理するサーバー・タイプを指定します。「ネットワーク・サーバー状況の処理」画面には、NETWAREサーバーまたはWINDOWSサーバーのいずれかがリストされます。

***NWSUSRA**

リストするサーバーのタイプは、ネットワーク・サーバー・ユーザー属性に指定します (CHGNWSUSRAコマンド)。

***NWSA**

リストするサーバーのタイプは、ネットワーク・サーバー属性に指定します (CHGNWSAコマンド)。

***NETWAREまたは*NDS**

NETWAREディレクトリー・サービス(NDS)ツリーの中のNETWAREサーバーのリストが表示されます。

***WINDOWSNT**

WINDOWSサーバーのリストが表示されます。

[トップ](#)

WRKNWSSTSの例

```
WRKNWSSTS SERVER(SERVER1) SVRTYPE(*NETWARE)
```

このコマンドは、SERVER1という名前のNETWAREサーバーの「ネットワーク・サーバー状況の処理」パネルを表示します。

```
WRKNWSSTS SERVER(SERVER2) SVRTYPE(*WINDOWSNT)
```

このコマンドは、SERVER2という名前のWINDOWS NTサーバーの「ネットワーク・サーバー状況の処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKNWSSTS

***ESCAPEメッセージ**

CPCA40E

サーバー&1が再始動された。

CPFA451

サーバー名が長すぎる。

[トップ](#)

オブジェクト処理 (WRKOBJ)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト処理(WRKOBJ)コマンドは、1つまたは複数のライブラリーに入っているオブジェクトのリストを表示します。

オブジェクト名、オブジェクト・タイプ、ライブラリー名、オブジェクト属性、およびオブジェクトの短いテキスト記述がリストされるオブジェクトごとに表示されます。データ属性およびオブジェクト中の実際のデータは表示されません。このリストから、いくつかのオブジェクト向けオプションを実行することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているオブジェクトだけが、画面に表示されます。
- オブジェクトについて操作を実行するためには、その操作に使用されるコマンドに対する*USE権限、および操作が実行されるオブジェクトに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *CRG, *CRQD, *DEVD, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FLR, *FNNTBL, *FNTRSC, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOB, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *MGTCOL, *M36, *M36CFG, *NODL, *NODGRP, *NWID, *OUTQ, *NWS, *NTBD, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBS, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SVRSTG, *SSND, *S36, *TBL, *USRIDX, *TIMZON, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション, 定位置 2

トップ

オブジェクト (OBJ)

「オブジェクトの処理」画面に表示するオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

***ALL** オブジェクト・タイプ (**OBJTYPE**)パラメーターに指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクト。

総称名 表示するオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

名前 表示するオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX QRCLXXXX QUSRIJS QUSRVXRXX
QGPL QSRVAGT QUSRINFSKR
QGPL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA
QMQRDATA QUSRADSM QUSRPYMSVR
QMQRPROC QUSRBRM QUSRDRARS
QPFRRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS

QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

表示するオブジェクト・タイプのオブジェクト・タイプを指定します。

***ALL** オブジェクト (OBJ)パラメーターに指定された値と一致するオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD), ファイル(*FILE), またはプログラム(*PGM)など, リストしたいオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。このコマンドのプロンプトが出されたときに, オブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには, このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付けて, F 4 (プロンプト) を押してください。

[トップ](#)

WRKOBJの例

WRKOBJ OBJ(X/PAY) OBJTYPE(*ALL)

このコマンドは, ライブラリーX内にある, 名前が文字'PAY'で始まっている, 権限があるオブジェクトのすべてが表示されている「オブジェクトの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKOBJ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

オブジェクト・ロック処理 (WRKOBJLCK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト・ロック処理 (WRKOBJLCK)コマンドによって、指定したオブジェクトについてのシステム中のオブジェクト・ロック要求を処理することができます。保留中ロックおよび適用を待機中のロックを処理することができます。

制約事項:

1. オブジェクトを含むライブラリーに対して、また、ASP装置記述に対して*EXECUTE権限がなければなりません。そうでない場合は、*JOBCTL特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、データベース・ファイルのレコード・ロックを表示しません。
3. ワークステーション・メッセージ待ち行列を割り振ることはできません。したがって、それらにはいかなるロックもありません。ワークステーション・メッセージ待ち行列は、同じ名前のワークステーション装置記述と関連付けられます。したがって、ワークステーション・メッセージ待ち行列の割り振りを必要とする操作が処理されない理由を判別するためには、同じ名前の装置記述にロックがあるかどうかを確認する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOB, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *SBS, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
MBR	メンバー	名前, *NONE, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

ロックを表示するオブジェクトの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

名前 オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

ファイルのファイル・メンバーが指定され、ファイルのライブラリー値が*LIBLであった場合には、スレッドのライブラリー検索リストの中に該当のファイルが最初に表れた時点で、そのファイルでメンバーが検索されます。ライブラリーQSYSだけに存在するオブジェクト・タイプ（たとえば*DEVDD）の場合には、受け入れられるライブラリー名はQSYSおよび*LIBLだけです。**ASP装置 (ASPDEV)**に*以外の値を指定した場合には、*LIBLを指定することはできません。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

ロックを表示するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。オブジェクト・タイプを識別するための事前定義値を指定してください。

これは必須パラメーターです。

オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプを指定します。詳細については、オブジェクト処理 (WRKOBJ)コマンドのオブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターを参照してください。

トップ

メンバー (MBR)

データベース・ファイルのメンバー名を指定します。このパラメーターが有効なのは、オブジェクト (OBJ)パラメーターにデータベース・ファイルが指定されている場合だけです。

***NONE**

メンバー・ロックは表示されませんが、ファイル・レベルのロックは表示されます。(ファイル中のすべてのメンバーのメンバー・ロックの表示は、ファイル・ロック画面から要求することができます。)

***FIRST**

名前が指定されたデータベース・ファイルの最初のメンバーが表示されます。

***ALL** データベース・ファイル中のすべてのメンバーのメンバー・ロックが表示されます。

名前 ロックが表示されるデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

(オブジェクト (OBJ)パラメーターに指定された) オブジェクトを含むライブラリーが入っている補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。オブジェクトのライブラリーが、スレッドと関連したライブラリー・ネームスペースの一部となっていないASP中にある場合は、操作のターゲットとして正しいオブジェクトが使用されるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。

*
- 現在、スレッドのライブラリー・ネームスペースの一部となっているASPは、オブジェクトを見付けるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1)、構成されたすべてのユーザーASP (ASP番号2-32)が含まれ、また、スレッドにASPグループがある場合は、そのASPグループのすべての独立ASPも含まれます。

***SYSBAS**

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPがオブジェクトを見付けるために検索されます。独立ASPは、スレッドにASPグループがある場合でも検索されません。

名前 オブジェクトを見付けるために検索される独立ASPの装置名。独立ASPは、(ASP装置をオンに変更して) 活動化されていて、'ACTIVE'または'AVAILABLE'の状況でなければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

WRKOBJLCKの例

例1:ファイルのオブジェクト・ロック情報の印刷

```
WRKOBJLCK  OBJ(*LIBL/LOCKEDFILE) OBJTYPE(*FILE)
           MBR(LOCKEDMBR) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、LOCKEDFILEという名前のLOCKEDMBRという名前のメンバーに関するロック情報を印刷します。ファイルはライブラリー・リストを使用して見つかります。

例2:独立ASPのライブラリーに対するオブジェクト・ロックの処理

```
WRKOBJLCK  OBJ(QSYS/LIBNAME) OBJTYPE(*LIB) ASPDEV(PRODXX)
```

このコマンドによって、独立補助記憶域プール(ASP)装置PRODXXにあるライブラリーLIBNAMEに関するロック情報を処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKOBJLCK

*ESCAPE メッセージ

CPF0919

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF0919

ライブラリー・リスト中のライブラリーに損傷がある。

CPF0924

ライブラリー・リストのライブラリーを使用することができない。

CPF0935

オブジェクト・タイプ*&2のメンバー名を使用することができない。

CPF0939

オブジェクト&3タイプ&2がライブラリー&4に見つからなかった。

CPF0948

ライブラリー&4のファイル&3のメンバー&1が見つからない。

CPF095B

ライブラリーに特殊値が指定されている時はASPDEVの値は無効である。

CPF0950

ライブラリー&4に&2 &3が見つからない。

CPF0951

オブジェクト・タイプ&2の場合に有効なライブラリーはQSYSだけである。

CPF0952

ライブラリー&4に&2 &3が見つからなかった。

CPF0953

ライブラリー・リスト中のライブラリーが前に削除されている。

CPF0958

ライブラリー&4の&2 &3が記憶域を解放して保管された。

CPF0988

ライブラリー&4に損傷がある。

CPF1093

ファイル装置タイプの一時的変更が正しくない。

CPF3285

ライブラリー&3のファイル&1に損傷が見つかった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時的変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

所有者によるオブジェクト処理 (WRKOBJOWN)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

所有者によるオブジェクト処理(WRKOBJOWN)コマンドは、任意のユーザー・プロファイルのオブジェクトを管理するために使用します。このコマンドは、ユーザー・プロファイルが所有しているオブジェクトを表示し、以下を実行します。

- オブジェクト権限の編集
- オブジェクトの削除
- オブジェクト権限の表示
- オブジェクトの名前変更
- オブジェクト記述の表示
- オブジェクトの所有権の変更

制約事項: 指定されたユーザー・プロファイルに対する読み取り(*READ)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, *CURRENT	オプション、位置 1

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

所有オブジェクトを表示するユーザー・プロファイルを指定します。

*CURRENT

WRKOBJOWNコマンドを実行中のユーザー・プロファイルが所有しているオブジェクトが表示されます。

名前 所有オブジェクトを表示するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKOBJOWNの例

例1: 現行ユーザー・プロファイルが所有するオブジェクトの処理

```
WRKOBJOWN USRPRF(*CURRENT)
```

このコマンドは、このコマンドを実行中のユーザーが所有するオブジェクトのリストが表示されている「所有者によるオブジェクトの処理」パネルを表示します。

例2:ユーザー・プロファイルが所有するオブジェクトの処理

```
WRKOBJOWN  USRPRF(BARTH)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルBARTHが所有するオブジェクトのリストが表示されている「所有者によるオブジェクトの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKOBJOWN

*ESCAPE メッセージ

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA1BF

オブジェクト&1にアクセスできない。

CPFA1C0

オブジェクト&1にアクセスできない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

[トップ](#)

1 次グループ別作業オブジェクト (WRKOBJPGP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

1次グループ別オブジェクト処理(WRKOBJPGP)コマンドは、ユーザーが1次グループであるオブジェクトを管理するために使用されます。このコマンドは、ユーザーが1次グループであるオブジェクトを表示し、以下を実行することができます。

- オブジェクト権限の編集
- オブジェクトの削除
- オブジェクト権限の表示
- オブジェクトの名前変更
- オブジェクト記述の表示
- オブジェクトの1次グループの変更

制約事項: ユーザーは表示されるプロファイルに対して読み取り権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGP	1次グループ	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

1 次グループ (PGP)

これは必須パラメーターです。

オブジェクトを処理しているそのグループ・プロファイルの名前。

[トップ](#)

WRKOBJPGPの例

WRKOBJPGP PGP(GROUP01)

このコマンドは、グループ・プロファイルGROUP01が1次グループであるオブジェクトのリストが表示されている「1次グループによるオブジェクトの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKOBJPGP

*ESCAPE メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

[トップ](#)

OPTICONNECT活動の処理 (WRKOPCACT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

OPTICONNECT活動処理(WRKOPCACT)コマンドによって、クライアントおよびサーバー・システムのデータベース・トランザクション、光ファイバー・バス活動、および接続状況についての情報を表示することができます。このコマンドを実行すると、OPTICONNECT活動処理画面の3つのビューが使用可能になります。

OPTICONNECT活動処理画面では、マルチシステム光ファイバー・ネットワークでシステムまたは資源をオンに構成変更またはオフに構成変更するためのオプションが使用可能です。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

WRKOPCACTの例

WRKOPCACT

このコマンドは、「OPTICONNECT活動の処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

光ディスク・ディレクトリー処理 (WRKOPTDIR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・ディレクトリー処理(WRKOPTDIR)コマンドは、光ディスク・ディレクトリーのリストを表示し、ディレクトリーおよびその属性のリストを作成、コピー、削除、および表示または印刷するためのオプションを提供します。または、このコマンドによって、ディレクトリー中のファイルを処理することができます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、光ディスク・ディレクトリーが入っているボリュームを保護するために少なくとも権限リストに対する*USE権限が必要です。
2. 光ディスク・ディレクトリーを作成、コピー、または削除するためには、*CHANGE 権限が必要です。
3. このコマンドを、リモート光ディスク・サーバーの中にある光ディスク・ボリューム上のディレクトリー一用に出す場合には、以下のものだけを指定することができます。
 - DIR (光ディスク・ディレクトリー名)
 - VOL (ボリューム識別コード)
 - SORT(*DIR)
 - SLTLVL(1).

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	光ディスク・ディレクトリー	文字値, <u>*ALL</u>	オプションル, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	文字値, <u>*ALL</u>	オプションル, 定位置 2
SORT	分類	<u>*DATE</u> , *DIR	オプションル, 定位置 3
SLTLVL	ディレクトリー・レベルの選択	整数, <u>1</u> , *ALL	オプションル
STRDATE	開始日付	日付, <u>*AVAIL</u>	オプションル

トップ

光ディスク・ディレクトリー (DIR)

リストされる光ディスク・ディレクトリーを指定します。

*ALL 指定された光ディスク・ボリュームのすべてのディレクトリーがリストされます。

光ディスク・ディレクトリー名

ディレクトリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

DIRパラメーターに指定されたディレクトリーが入っているボリュームの識別コードを指定します。

***ALL** 直接接続の光ディスク装置にある光ディスク・ボリュームがリストされます。

ボリューム識別コード

検索するボリュームのボリューム識別コードを指定してください。

[トップ](#)

分類 (SORT)

各ボリュームへの出力の分類方法を指定します。

注: 光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームとして初期設定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

*DATE

出力リストは、ボリュームが作成された日付別に、最も新しい日付から順に分類されます。

***DIR** 出力リストはディレクトリー名のアルファベット順に分類されます。

[トップ](#)

ディレクトリー・レベルの選択 (SLTLVL)

SORT(*DIR)が指定されている時に、リストに組み込むディレクトリー構造のレベル数を指定します。

注: 光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームとして初期設定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

1 第1レベル・ディレクトリーだけがリストされます。

***ALL** すべてのディレクトリーがリストされます。

ディレクトリー・レベルの選択

指定したディレクトリーのサブディレクトリーのレベル数を指定してください。有効な値の範囲は1 - 32767です。

[トップ](#)

開始日付 (STRDATE)

SORT(*DATE)が指定されている場合に、リストの開始日を指定します。開始日またはそれ以前に作成されたディレクトリーだけがリストされます。

注: 光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームとして初期設定されている場合には、このパラメータは無視されます。

***AVAIL**

すべての有効な日付で作成されたディレクトリーが出力リストに組み込まれます。

開始日 開始日を指定してください。

[トップ](#)

WRKOPTDIRの例

WRKOPTDIR VOL(VOL01)

このコマンドは、作成日付でソートされたボリュームVOL01上の光ディスク・ディレクトリーのすべてのリストが表示されている「光ディスク・ディレクトリーの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKOPTDIR

***ESCAPEメッセージ**

OPT1205

ディレクトリーが見つからない。

OPT1215

ディレクトリーは削除することができない。

OPT1317

ディレクトリー名が長すぎる。

OPT1320

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

OPT1325

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

OPT1331

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

OPT1340

光ディスク・ボリューム&1が初期設定されていない。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1810

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

***STATUS** メッセージ

OPT1937

要求されたすべてのファイルを表示することができない。

[トップ](#)

光ディスク・ファイル処理 (WRKOPTF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・ファイル処理(WRKOPTF)コマンドは、システム上の光ディスク・ファイルのリストを表示し、光ディスク・ファイルおよびその属性をコピー、削除、名前変更、および表示または印刷するためのオプションを提供します。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、光ディスク・ファイルが入っているボリュームを保護するために権限リストに対する*USE権限が必要です。
- このコマンドを、リモート光ディスク・サーバーにある光ディスク・ボリュームに対して出す場合には、以下のものだけを指定することができます。
 - DIR (光ディスク・ディレクトリー名)
 - FILE(*ALL)
 - FILE (ファイル名)
 - FILE (総称*ファイル名)

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム識別コード	文字値	必須, 定位置 1
DIR	ディレクトリー	文字値, *ALL	必須, 定位置 2
FILE	ファイル	文字値, *SELECT, * <u>ALL</u>	オプション, 定位置 3
SLTFILE	ファイルの選択	要素リスト	オプション
	要素 1: FROMファイル	文字値, * <u>ALL</u>	
	要素 2: TOファイル	文字値	
SLTDATE	日付の選択	要素リスト	オプション
	要素 1: 日付タイプ	* <u>CREATED</u> , *MODIFIED	
	要素 2: 開始日および時刻	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, * <u>AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, * <u>BEGIN</u>	
	要素 3: 終了日および時刻	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, * <u>AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日付	日付, * <u>END</u>	

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

リストされるファイルが入っている光ディスク・ボリュームの識別コードを指定します。

[トップ](#)

ディレクトリー (DIR)

ボリュームのルート・ディレクトリーで始まり、リストするように指定されたファイルが入っている光ディスク・ディレクトリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 指定された光ディスク・ボリューム上のすべてのディレクトリーがリストされます。DIR(*ALL)が指定されている場合には、ルート・ディレクトリーに入っている光ディスク・ファイルだけがリストされます。

ディレクトリー名

ディレクトリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ファイル (FILE)

リストする1つ以上のファイルを指定します。

***ALL** 指定されたディレクトリーの中のすべてのファイルがリストされます。

*SELECT

SLTFILEパラメーターに指定されている範囲の中のファイルがリストされます。

注: この値はリモート光ディスク・サーバーのボリュームの場合には無視されます。

ファイル名

ファイルの名前を指定してください。

総称*ファイル名

処理したいファイルの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

[トップ](#)

ファイルの選択 (SLTFILE)

リストされるファイルの範囲を指定します。

注:

1. このパラメーターはFILE(*SELECT)が指定されている場合にだけ有効であり、光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームとして初期設定されている場合には無視されます。

2. このパラメーターはリモート光ディスク・サーバーの場合には無効です。

要素1: FROMファイル

***ALL** 指定されたディレクトリーの中のすべてのファイルが選択されます。

開始ファイル

選択する名前の範囲の中の最初のファイルの名前を指定してください。

総称*ファイル名

選択する光ディスク・ファイルの総称名を指定してください。

要素2: TOファイル

終了ファイル

名前の範囲の中の最後のファイルの名前を指定してください。

注: この値は、開始ファイルの値が*ALLまたは総称*の場合には無視されます。

[トップ](#)

日付の選択 (SLTDATE)

選択するファイルの日付および時刻の範囲を指定します。

注:

1. このパラメーターはFILE(*SELECT)が指定されている場合にだけ有効であり、光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームとして初期設定されている場合には無視されます。
2. このパラメーターはリモート光ディスク・サーバーの場合には無効です。

要素1: 日付タイプ

***CREATED**

ファイルは作成された日付ごとに選択されます。

***MODIFIED**

ファイルは変更された日付ごとに選択されます。

要素2: 開始日および時刻

要素1: 開始時刻

***AVAIL**

時刻の範囲には終了時刻より前のすべての可能な時刻が含まれます。

開始時刻

時刻の範囲の中の最も早い時刻を指定してください。

要素2: 開始日付

***BEGIN**

最も古いファイルの日付が開始日付となります。

開始日 日付の範囲のなかの最も早い日付を指定してください。

要素3: 終了日および時刻

要素1: 終了時刻

*AVAIL

時刻の範囲には、開始時刻より後のすべての時刻が含まれます。

終了時刻

時刻の範囲のなかの最後の時刻を指定してください。

要素2: 終了日付

*END 最も新しいファイルの日付が終了日付となります。

終了日 日付の範囲のなかの最後の日付を指定してください。

[トップ](#)

WRKOPTFの例

例1: ルート・ディレクトリー内の光ディスク・ファイルの表示

```
WRKOPTF VOL(VOL01) DIR(*ALL)
```

このコマンドは、光ディスク・ボリュームVOL01上のルート・ディレクトリー内の光ディスク・ファイルのすべてのリストを表示します。

例2: 特定ディレクトリー内の光ディスク・ファイルの表示

```
WRKOPTF VOL(VOL02) DIR('/DIR1') FILE(*ALL)
```

このコマンドは、光ディスク・ボリュームVOL02上のディレクトリーDIR1内の光ディスク・ファイルのすべてのリストを表示します。

例3: 特定日付に作成された光ディスク・ファイルの表示

```
WRKOPTF VOL(VOL03) DIR('/DIR2')  
FILE(*SELECT) SLTFILE(*ALL)  
SLTDATE(*CREATED ('12:01:00' '1/1/94')  
('23:59:59' '12/31/94'))
```

このコマンドは、ボリュームVOL03上のディレクトリーDIR2内で、1994年1月1日12:01:00から1994年12月31日23:59:59までの間に作成された光ディスク・ファイルのすべてのリストを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKOPTF

*ESCAPEメッセージ

OPT0159

開始選択が終了選択より大きくなっている。

OPT1115

ファイルが見つからない。

OPT1205

ディレクトリーが見つからない。

OPT1212

ディレクトリーが使用中です。

OPT1220

ファイルまたはディレクトリー名はすでに存在している。

OPT1224

パスの長さが最大値の256バイトを超えている。

OPT1317

ディレクトリー名が長すぎる。

OPT1320

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

OPT1325

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

OPT1330

光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。

OPT1331

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

OPT1340

光ディスク・ボリューム&1が初期設定されていない。

OPT1360

光ディスク・ボリューム&1の媒体ディレクトリーが壊れています。

OPT1460

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

OPT1463

操作が完了していない。光ディスク・ボリュームが基本ボリュームではありません。

OPT1489

装置&1ではボリューム・パラメーターは使用できない。

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1555

光ディスク装置&1は使用中です。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

OPT1640

ファイルまたはディレクトリーの読み取り中にエラーが起こった。

OPT1790

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1810

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起こりました。

OPT1820

光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。

OPT1821

光ディスク装置&1でエラーが起こった。

OPT1825

光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。

OPT1860

光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。

OPT1861

装置&1に構成された装置記述がない。

OPT1862

資源&1に活動状態の装置記述がない。

OPT1863

光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。

OPT1872

光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

OPT7740

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

[トップ](#)

光ディスク・ボリューム処理 (WRKOPTVOL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・ボリューム処理(WRKOPTVOL)コマンドは、光ディスク・ボリュームのリストを表示し、以下のことを行なうためのオプションを提供します。

- 光ディスク・カートリッジの追加
- 光ディスク・カートリッジの除去
- 光ディスク・ボリューム属性の変更
- 光ディスク・ボリューム属性の表示
- 光ディスク・ボリューム属性の印刷
- ボリュームのコピー
- ボリュームの初期設定
- ボリュームの名前変更
- ボリューム項目の削除

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	光ディスク装置	名前, <u>*ALL</u>	オプションル, 位置 1
VOL	ボリューム識別コード	文字値, <u>*ALL</u> , *BACKUP, *INDRIVE, *REMOVED	オプションル, 位置 2
CSI	サイド情報	文字値, <u>*ALL</u> , *NONE	オプションル
RTVEXTINFO	拡張情報の検索	<u>*NO</u> , *YES	オプションル

[トップ](#)

光ディスク装置 (DEV)

リストされるボリュームが入っている光ディスク装置を指定します。

***ALL** すべての光ディスク装置の中のボリュームがリストされます。

光ディスク装置名

リストされるボリュームが入っている光ディスク装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

リストされる光ディスク・ボリュームの識別コードを指定します。

***ALL** 指定された光ディスク装置の中のすべての光ディスク・ボリューム識別コードがリストされます。

***BACKUP**

指定された光ディスク装置の中の光ディスク・ボリュームで、そのタイプがバックアップであるものがリストされます。

***INDRIVE**

指定された光ディスク装置のドライブに現在入っているボリュームだけがリストされます。

***REMOVED**

光ディスク・ライブラリーから除去されたボリュームで、その情報が光ディスク索引データベース・ファイルに保存されているものがリストされます。

ボリューム識別コード

リストする特定のボリュームの識別コードを指定してください。

[トップ](#)

サイド情報 (CSI)

リストするボリュームが入っている光ディスク構成中の光ディスク・サーバーを表す通信サイド情報オブジェクトを指定します。このパラメーターはDEV(*ALL)が指定されている場合にのみ有効です。

***ALL** すべてのリモート光ディスク・サーバーのボリュームの名前がリストされます。

***NONE**

リモート光ディスク・サーバーのボリュームはリストされません。

通信サイド情報オブジェクト名

リストされるボリュームが入っている光ディスク・サーバーを表す通信サイド情報オブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

拡張情報の検索 (RTVEXTINFO)

ボリュームの位置および使用されるボリュームのパーセントなどの、拡張ボリューム情報が検索されるかどうかを指定します。

***NO** 拡張ボリューム情報は検索されません。

***YES** 拡張ボリューム情報が検索されます。

[トップ](#)

WRKOPTVOLの例

例1:光ディスク装置の光ディスク・ボリュームの表示

```
WRKOPTVOL  DEV(OPT01)
```

このコマンドは、光ディスク装置OPT01の光ディスク・ボリュームのすべてが表示されている「光ディスク・ボリュームの処理」パネルを表示します。

例2:リモート・サーバーの光ディスク・ボリュームの表示

```
WRKOPTVOL  DEV(*ALL) VOL(*ALL) CSI(LAN01)
```

このコマンドは、光ディスク・サーバーLAN01の光ディスク・ボリュームのすべてが表示されている「光ディスク・ボリュームの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKOPTVOL

*ESCAPEメッセージ

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT1860

光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

[トップ](#)

オーダー情報の処理 (WRKORDINF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

発注情報処理(WRKORDINF)コマンドでは、次のことを行なうことができます。

- コマンドが実行されるたびに、システムの順序情報ファイルが自動的に作成されます。
- 選択した媒体への発注情報ファイルのコピー
- 選択した媒体からの発注情報ファイルのコピー
- 弊社へのこのシステムまたは他のAS/400システムの発注情報ファイルの送信

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、ユーザーはQSYSOPRまたはQSRVとしてサインオンするか、あるいは*ALLOBJ権限が必要です。
2. このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

WRKORDINFの例

WRKORDINF

このコマンドは、「順序情報の処理」メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKORDINF

なし

[トップ](#)

オーダー要求の処理 (WRKORDRQS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

発注要求処理(WRKORDRQS)コマンドは、AS/400上の発注ログを管理します。発注援助要求は発注援助要求(RQSORDAST)コマンドによって作成され、発注ログに記録されます。WRKORDRQSコマンドを使用して、発注援助要求の表示、送信、返答、削除、および印刷を行なうことができます。

APPNネットワーク内で、WRKORDRQSコマンドは他のAS/400システムに発注援助要求を送信し、その要求に返答します。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

WRKORDRQSの例

WRKORDRQS

このコマンドは、前に投入された順序アシスタンス要求のリストを示す「順序要求の処理」パネルを表示します。リストの最初の項目が最も新しく更新された項目です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKORDRQS

なし

[トップ](#)

出力待ち行列処理 (WRKOUTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出力待ち行列処理(WRKOUTQ)コマンドによって、すべての出力待ち行列または指定された修飾済みの総称名と一致するユーザーが権限を認可されているすべての出力待ち行列の全般的な状況、あるいは特定の出力待ち行列の詳細な状況を表示および処理することができます。待ち行列の状況は、このコマンドの実行中に変更することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *ALL その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB, *ALL	
OUTPUT	出力	* , *PRINT	オプション、位置 2

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

すべての出力待ち行列または指定された修飾済みの総称名と一致するすべての出力待ち行列の状況が表示されるように指定するか、あるいは状況を表示したい単一の出力待ち行列の修飾済みの名前を指定します。

注: 総称出力待ち行列名が指定されていてライブラリー名で修飾されている場合には、総称名と一致する出力待ち行列が1つしかない場合であっても、総称名と一致するすべての出力待ち行列の全般的な状況が表示されます。

考えられる値は、次の通りです。

ALL** すべての出力待ち行列のリストが、各出力待ち行列についての情報と一緒に表示されます。ALL** を指定した場合には、***ALL**はシステム上のすべてのライブラリー中のすべての出力待ち行列のリストを提供するので、ライブラリー名に値を指定することはできません。

出力待ち行列名

詳細な状況情報が表示される出力待ち行列の名前を指定してください。出力待ち行列上のすべてのスプール・ファイルのリストが各スプール・ファイルについての情報と一緒に表示されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。

***ALL** QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

注: ライブラリーに*ALLが指定されている場合には、出力待ち行列が1つしか見つからない場合であっても、出力待ち行列の全般的な状況が表示されます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいは印刷装置のジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力は印刷装置のジョブのスプール出力で印刷されます。

トップ

WRKOUTQの例

例1:特定の出力待ち行列に関する状況情報の処理

```
WRKOUTQ  OUTQ(QGPL/QPRINT)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPL中の出力待ち行列QPRINTのための「出力待ち行列の処理」パネルを表示します。QPRINT出力待ち行列上の各スプール・ファイルが表示されます。

例2:総称名を使用した出力待ち行列の検索

```
WRKOUTQ  OUTQ(QGPL/QPRI*)
```

このコマンドは、その名前が文字「QPRI」で始まり、QGPLライブラリー中に存在するすべての出力待ち行列のリストを示す、「すべての出力待ち行列の処理」パネルを表示します。

トップ

エラー・メッセージ: WRKOUTQ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3302

ファイル&2への印刷ファイル&1の一時変更は正しくない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

出力待ち行列記述処理 (WRKOUTQD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出力待ち行列記述処理(WRKOUTQD)コマンドは、指定された出力待ち行列の記述を表示します。待ち行列の記述は、コマンドの実行中に変更されることがあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

これは必須パラメーターです。

その記述を表示する出力待ち行列の名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

出力待ち行列名

その記述を表示する出力待ち行列の名前を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいは印刷装置のジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力は印刷装置のジョブのスプール出力で印刷されます。

トップ

WRKOUTQDの例

WRKOUTQD OUTQ(QGPL/QPRINT)

このコマンドは、QGPLライブラリー中のQPRINTという名前の出力待ち行列のための「出力待ち行列記述の処理」パネルを表示します。

トップ

エラー・メッセージ： WRKOUTQD

*ESCAPE メッセージ

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3302

ファイル&2への印刷ファイル&1の一時変更は正しくない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

オーバーレイの処理 (WRKOVL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オーバーレイ処理(WRKOVL)コマンドによって、システムまたはユーザー・ライブラリー（あるいはその両方）からのすべてのオーバーレイ空間オブジェクトを処理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OVL	オーバーレイ	修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: オーバーレイ	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

[トップ](#)

オーバーレイ (OVL)

処理するオーバーレイの名前およびライブラリーを指定します。特定のオーバーレイまたは総称オーバーレイを指定することができます。いずれのタイプもライブラリー名によって任意に修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

オーバーレイを処理するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB

#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXXMX
QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMQRDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMQRPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

ライブラリー名

ライブラリー名を指定してください。オーバーレイを処理するために、このパラメーターに指定されたライブラリーだけが検索されます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべてのオーバーレイが処理されます。

オーバーレイ名

処理するオーバーレイの名前を指定してください。

総称*オーバーレイ名

処理するオーバーレイの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が続く文字ストリングで指定できます。総称名を指定した場合には、総称オーバーレイ名と同じ接頭部の名前をもつすべてのオーバーレイが処理されます。

[トップ](#)

WRKOVLの例

WRKOVL OVL(*LIBL/OV*)

このコマンドは、名前が文字「OV」で始まるオーバーレイ・オブジェクトを検索するライブラリー・リストを検索します。名前が「OV」で始まるすべてのオーバーレイ・オブジェクトが「オーバーレイの処理」パネルに表示されます。「OV」で始まるオーバーレイ・オブジェクトがライブラリー・リストに存在しない場合は、WRKOVL表示は指定の名前と一致するオブジェクトが見つからないことを示すメッセージと共に表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKOVL

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

ページ定義の処理 (WRKPAGDFN)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ページ定義処理(WRKPAGDFN)コマンドは、ページ定義のリストを表示します。この画面から、ページ定義の作成または削除、ページ定義の名前および属性の表示、あるいはページ定義の記述の変更を行なうことができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PAGDFN	ページ定義	修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: ページ定義	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

ページ定義 (PAGDFN)

ページ定義の処理画面にリストする名前およびライブラリーを指定します。*READ 権限のあるページ定義だけが表示されます。

これは必須パラメーターです。

指定できるページ定義の値は次の通りです。

***ALL** すべてのページ定義がリストされます。

総称 * ページ定義名

リストするページ定義の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。

ページ定義名

ページ定義の名前を指定してください。ライブラリー名として*LIBLまたは*USRLIBLが指定されている場合には、指定した名前で見つかったページ定義がリストされます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

現行ライブラリーだけが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKPAGDFNの例

```
WRKPAGDFN  PAGDFN(*CURLIB/P1DFLT)
```

このコマンドは、ページ定義P1DFLTの現行ライブラリーを検索します。P1DFLTが存在しない場合は、「ページ定義の処理」画面は指定の名前と一致するオブジェクトが見つからないことを示すメッセージを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKPAGDFN

なし

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries

LPDA

OfficeVision

OS/400
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan